飯田城下町遺跡

2006年3月

長野県飯田市教育委員会

飯田城下町遺跡

2006年 3 月 長野県飯田市教育委員会 私たちの飯田市は、美しい自然に恵まれ、長い歴史と尊い伝統文化に包まれた人情豊かなまちとして知られており、市民憲章では「伝統を生かし、文化の香り高い飯田市をつくります」と宣言しています。かつて小京都と謳われた飯田の町は、昭和22年の飯田大火で市街地の大半を焼失し、城下町の面影は失われてしまいました。この未曾有の災害にめげず、市民が一丸となって復興を成し遂げてきたわけでありますが、近年市街地が郊外に拡散し、旧市街地が空洞化する中で、中心市街地の再開発が大きな課題となっています。今回計画されました再開発事業も、こうした課題解決の一つとして官民一体となって取り組んでいる公共性の高い事業です。

中心市街地周辺は、大火によって町並みや文化財が多く失われ、城下町以前の姿は断片的に把握されているのみですが、旧石器時代から連綿とした人々の営みがあったと知られています。今回の計画地に隣接する橋南第一地区市街地再開発事業に先立つ発掘調査でも、弥生時代の墓や、江戸時代の町並みの一部が確認され、町屋の生活の様子や物資の流通が明らかになると同時に、大火や洪水などの災害の様子もわかってきました。このような歴史・文化を物語る埋蔵文化財はじめ多くの文化財を、できる限り現状の姿のままで後世に残し伝えるのが私たちの務めですが、今回のように公共性の高い事業の場合、次善の策として事前に発掘調査を実施して記録保存を図ることもやむをえないものといえましょう。

今回の調査では、前回と同様に弥生時代の墓や中世以前の道路址、江戸時代以降の町屋などが見つかりました。特に、たくさん掘られたゴミ穴の一つから、徳川家の紋所である葵紋のはいった鼈甲製の櫛が出土しています。どのような経緯で入手されたものかわかりませんが、少なくとも、飯田の町の隆盛を示している査証となるものです。また、水琴窟の発見は、粋な飯田の町人たちの生活ぶりを彷彿とさせます。このような成果をあげた発掘調査でありますが、大火で失われた城下町を後世に伝えるためにも、城下町遺跡の継続的な調査が重要であることを改めて痛感いたしました。

今後、本書が広く活用されるとともに、調査地点周辺の旧市街地でも文化財保護に意を尽くし、 城下町飯田の姿を明らかにしていくことこそ、文化の香り高い飯田市をつくる礎となるでしょう。 最後になりましたが、文化財保護の本旨にご理解を賜りご協力いただきました飯田市橋南第二 地区市街地再開発組合の皆様、ならびに発掘調査に従事された関係者の方々に深甚なる感謝を捧 げまして発刊の辞といたします。

平成18年3月

飯田市教育委員会 教育長 伊澤 広爾

例 言

- 1. 本書は、飯田市橋南第二地区市街地再開発事業に先立って実施された、飯田市本町。通り町 。銀座所在の飯田城下町遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2. 調査は、飯田市橋南第二地区市街地再開発組合 理事長 栗崎豁男からの委託を受け、飯田 市教育委員会が実施した。
- 3. 調査は、平成16年度に現地作業および整理作業の一部、平成17年度に残りの整理作業及び報 告書作成作業を行った。
- 4. 調査実施にあたり、基準点測量を株式会社ジャステックに委託した。また株式会社シン技術 コンサルに実測用写真撮影を委託した。また遺物写真撮影を西大寺フォトに委託実施した。
- 5. 発掘作業。整理作業にあたり、遺跡略号としてIJMを一貫して用いた。
- 6. 発掘作業・整理作業にあたり、以下の遺跡略号を使用している。

方形周溝簿墓-SM

溝址・溝状址-SD

井戸-SE

地下室。土坑。便所等-SK 竪穴状遺構-SB

石列-SI

不明-ZZZ

- 7.土層の色調については『新版標準土色帳』1998年版を用いた。
- 8. 本書にかかわる図面の整理は、調査員・整理作業員の協力により下平博行が行った。
- 9. 本書は第IV章第2·3節を馬場保之が執筆し、残りを下平が執筆し、編集は下平が行った。
- 10. 本書の遺構図の中に記した数字は、検出面・床面からの穴の深さ(単位cm)を表している。
- 11. 本書に関連した出土遺物及び図面写真類は飯田市教育委員会が管理し飯田市考古資料館に保 管している。
- 12. 陶磁器の器種分類および年代については、新宿区内藤町遺跡調査会 1992 『内藤町遺跡』 及び江戸遺跡研究会編 2001 『図説 江戸考古学研究辞典』等を参考にしている。

目 次

本サ日畑	
本文目次	第2項 近世以前の遺構 16
序	1) 道路址1 16
例言	第3項 近世・近代の遺構 17
第1章 経過	1) 竪穴状遺構
第1節 調査に至る経緯と経過 1	①竪穴状遺構19
第1項 調査に至る経緯 1	②竪穴状遺構20 ····· 17
第2項 調査の経過	③竪穴状遺構21 17
発掘調査日誌	2) 石列 17
第2節 調査組織	(1) 建物
第1項 調査団	①石列04
第2項 指 導 5	②石列09
第3項 事務局	③石列21~30 18
第3節 調査位置 調査区の設定 5	④石列31 19
第Ⅱ章 遺跡の環境	⑤石列32 19
第1節 自然環境	⑥石列33•3419
第2節 歴史環境	(2) 区画用石積み 19
第3節 城下町の歴史 9	(3)敷石
第1項 城下町の変遷 9	3) 井戸址 20
第2項 飯田城下町の特徴 10	(1) 石積み井戸 20
第3項 飯田城下町の災害 11	(2) 素掘り井戸20
第Ⅲ章 調査結果	(3) コンクリート製井戸 20
第1節 各地区の層序 12	4)土坑20
第1項 Ⅱ区の層序 12	(1) 地下室 20
第2項 Ⅲ区の層序 12	①土坑89 21
1) Ⅲ区西壁層序 12	②土坑13121
2) Ⅲ区北壁層序 ····· 13	③土坑24121
第3項 Ⅳ区の層序 13	④土坑24221
第4項 層序の対比 15	⑤土坑30121
第2節 遺 構	⑥土坑500 22
第1項 弥生時代後期の遺構 16	⑦土坑88022
①方形周溝墓04 16	⑧土坑88322
②方形周溝墓05 16	⑨土坑1099 22
③方形周溝墓06 16	(2)厠 22
④方形周溝墓07 16	①土坑899•900 22

②土坑366.367	23	4) 土坑274	29
(3) 桶据付痕のある土坑	23	5) 土坑269	30
①土坑135	23	6) 土坑270	30
②土坑246	23	7) 土坑301	30
③土坑248	23	8) 土坑313	30
④土坑265	23	9) 土坑353	31
⑤土坑270	23	10) 土坑354	31
(4) 鋳造遺構	24	11) 土坑465	31
①土坑182	24	12) 土坑505	32
(5) カマド状遺構	24	13) 土坑537	32
①土坑932•934	24	14) 土坑892	32
(6) ごみ穴	24	15) 土坑893	32
①土坑124	24	16) 土坑897	32
②土坑269	24	17) 土坑1043	33
③土坑274	25	18) 土坑1045	33
④土坑537	25	19) 土坑1064	34
⑤土坑700	25	20) 土坑1084	34
⑥ 1041 • 1043 • 1044 ······	25	21) 土坑12	34
(7)大火灰掻き坑	25	第3項 その他の遺物	34
①土坑292	26	1) 焼塩壷	34
②土坑240	26	2) 土師質皿	34
③土坑238	26	3) 鉄製品•銅製品	35
④土坑513	26	4) 坩堝・フイゴ羽口	35
(8) 水琴窟	26	5) 鉄滓	35
①土坑370	26	6) 銭貨	35
(9) 柱 穴	27	7) 木製品	35
(10)用途不明な土坑	27	8) 動物遺存体	36
① 土坑1057	27	9) 石製品	36
第3節 遺 物	28	10) 鼈甲製櫛	36
第1項 縄文時代から平安時代の遺物	28	第Ⅳ章 総 括	
1) 縄文時代の遺物	28	第1節 今次調査区内の家並復元	53
2) 弥生時代の遺物	28	第2節 水琴窟について	57
3) 古墳時代から平安時代の遺物 …	28	第3節 鼈甲製櫛について	58
第2項 遺構出土の陶磁器類	28	第4節 出土陶磁器の概観	59
1) 土坑125	28	第5節 縄文時代から中世の様相	60
2) 土坑196	28	第6節 結語	61
3) 土坑240	29	報告書抄録	165

表目次			図面8	石列 (SI) 31·32 ······	
				土坑 (SK) 131•241 ··············	71
表1	土坑観察表(1)	37	図面9	土坑 (SK) 86~90、94~102 ······	72
表2	土坑観察表 (2)	38	図面10	土坑(SK)182•238•242•246•248	
表3	土坑観察表(3)	39		265•266•274	73
表4	土坑観察表(4)	40	図面11	土坑(SK)270·281·292·351·366	
表5	土坑観察表(5)	41		367•370	74
表6	土坑観察表(6)	42	図面12	土坑 (SK) 301·500·513·880 ···	75
表7	土坑観察表(7)	43	図面13	土坑(SK)700•883•899•900•971	76
表8	土坑観察表(8)	44	図面14	土坑(SK)1045周辺	77
表9	土坑観察表(9)	45	図面15	土坑(SK)931•932•934•1057 ···	78
表10	土坑観察表(10)	46	図面16	土坑 (SK) 1099 ······	79
表11	土坑観察表(11)	47	図面17	井戸址 (SE) 05~09 ······	80
表12	土坑観察表(12)	48	図面18	井戸址 (SE) 10~12、15 ········	81
表13	土坑観察表(13)	49	図面19	井戸址 (SE) 13·14·16~18 ······	82
表14	土坑観察表(14)	50	図面20	道路址(溝址31•32)	83
表15	土坑観察表(15)	51	図面21	I 区A面遺構分布図	85
			図面22	I 区B面遺構分布図	86
	挿図目次		図面23	Ⅱ 区A面遺構分布図	87
	***		図面24	Ⅱ区B面遺構分布図(1)	88
挿図1	飯田城下町遺跡調査位置図	2	図面25	Ⅱ区B面遺構分布図(2)	89
挿図2	基準メッシュ調査位置図	4	図面26	Ⅱ区B面遺構分布図(3)	90
挿図3	周辺遺跡図	7	図面27	Ⅲ区A面遺構分布図(1)	91
挿図4	基本層序	14	図面28	Ⅲ区A面遺構分布図(2)	92
挿図5	家並帳	54	図面29	Ⅲ区B面遺構分布図(1)	93
挿図6	家並復元図	56	図面30	Ⅲ区B面遺構分布図(2)	94
			図面31	N区A面遺構分布図(1)	95
	遺構図面目次		図面32	N区A面遺構分布図(2)	96
			図面33	IV区A面遺構分布図(3)	97
図面1	方形周溝墓 (SM) 04~07	63	図面34	IV区B面遺構分布図(1)	98
図面2	竪穴状遺構 (SB) 19~21	64	図面35	IV区B面遺構分布図 (2)	99
	石列 (SI) 01·03·06 ······	64	図面36	IV区B面遺構分布図(3)	100
図面3	石列 (SI) 04 ······	65	図面37	Ⅳ区B面遺構分布図(4)	101
図面4	石列 (SI) 07~09、11~13 ······	66	図面38	調査区内遺構配置図(A面) ···	103
図面5	石列 (SI) 14·15 ······	67	図面39	調査区内遺構配置図(B面) ···]	105
図面6	石列(SI)33•34、土坑135 ······	68			
図面7	石列 (SI) 21~30 ······	69			

	進	的図面目次		図版12	遺跡	井戸址 (SE) 09 ············ 井戸址 (SE) 10 ··········	126 126
図面40	土坑。	遺構外出土遺物(1)	107			井戸址 (SE) 10側面	126
図面41	土坑。	遺構外出土遺物(2)	108	図版13	遺跡	井戸址(SE)11	127
図面42	土坑出	出土磁器 (1)	109			井戸址 (SE) 12 ··········	127
図面43	土坑出	出土磁器 (2)	110			井戸址(SE)17·18 ·····	127
図面44	土坑。	遺構外出土磁器	111	図版14	遺跡	土坑 (SK) 87 ··········	128
図面45	井戸址	L10出土磁器	112			土坑 (SK) 100 ···········	128
						土坑 (SK) 123 ···········	128
		真図版目次		図版15	遺跡	土坑 (SK) 131 ···········	129
	₩					土坑 (SK) 152 ··········	129
図版1	遺跡	I 区A面全景	115			土坑 (SK) 245 ···········	129
		I 区B面全景	115	図版16	遺跡	土坑 (SK) 246 ·············	130
図版2	遺跡	Ⅱ区B面東側	116			土坑 (SK) 265 ·············	130
		Ⅱ 区B面西側	116			土坑 (SK) 270 ············	130
図版3	遺跡	Ⅲ区A面全景	117	図版17	遺跡	土坑 (SK) 370上面	131
		Ⅲ区B面全景	117			土坑 (SK) 370 ············	131
図版4	遺跡	N区A面全景	118			土坑 (SK) 370断面	131
		IV区B面全景	118	図版18	遺跡	土坑 (SK) 301 ············	132
図版5	遺跡	道路址(西から)	119			土坑 (SK) 470 ············	132
		道路址(東から)	119			土坑 (SK) 671 ···········	132
図版6	遺跡	石列 (SI) 01 ···································	120	図版19	遺跡	土坑 (SK) 880 ·············	133
		石列 (SI) 07 ···································	120			土坑 (SK) 883 ············	133
		石列 (SI) 03 ···················	120			土坑 (SK) 899 ············	133
図版7	遺跡	石列 (SI) 04 (西から)	121	図版20	遺跡	土坑 (SK) 900 ············	134
図版8	遺跡	石列 (SI) 11 ···············	122			土坑 (SK) 932·934 ······	134
		石列 (SI) 12 ···············	122			土坑 (SK) 1053 ········	134
		石列 (SI) 11~15 ········	122	図版21	遺跡	土坑 (SK) 182 ··········	135
図版9	遺跡	石列 (SI) 13 ···············	123			土坑 (SK) 500 ···········	135
		石列 (SI) 14 ···············	123	図版22	遺跡	土坑 (SK) 57 ···········	136
		石列 (SI) 15 ···············	123			土坑 (SK) 58 ············	136
		石列 (SI) 21~30 ········	123	図版23	遺跡	土坑274櫛出土状況	137
図版10	遺跡	石列 (SI) 33·34 ·······	124			石列09墨入れ線	137
		石列 (SI) 34断面	124			石列11礎石	137
図版11	遺跡	井戸址 (SE) 05 ···········	125	図版24	遺跡	ホゾ穴のある礎石	138
		井戸址 (SE) 05側面	125			石列33記号入り礎石	138
		井戸址 (SE) 07 ···········	125			石列33記号入り礎石	138

図版25	遺跡	重機による表土剥ぎ	139	図版39	遺物	井戸址 (SE) 10	153
		基準点設置作業	139			土坑 (SK) 379 ···········	153
		作業風景	139			火もらい	153
図版26	遺跡	作業風景	140	図版40	遺物	土坑 (SK) 102 ···········	154
		現地見学会	140			土坑 (SK) 117 ··········	154
		現地見学会	140			土坑 (SK) 127 ··········	154
図版27	遺物	土坑 (SK) 88 ············	141			土坑 (SK) 132 ···········	154
		土坑 (SK) 124 ···········	141			土坑 (SK) 157 ···········	154
		土坑 (SK) 125 ···········	141			土坑(SK)184 ············	154
図版28	遺物	土坑 (SK) 188 ············	142			土坑 (SK) 221 ···········	154
		土坑 (SK) 196 ············	142	図版41	遺物	土坑 (SK) 301 ···········	155
		土坑 (SK) 240 ············	142			土坑 (SK) 316 ············	155
図版29	遺物	土坑 (SK) 269 ············	143			土坑 (SK) 326 ············	155
		土坑 (SK) 270 ···········	143			土坑 (SK) 349 ············	155
図版30	遺物	土坑 (SK) 274 ···········	144			土坑 (SK) 358 ············	155
		土坑 (SK) 293 ·······	144			土坑 (SK) 366 ············	155
		土坑 (SK) 313 ············	144	図版42	遺物	土坑 (SK) 391 ············	156
図版31	遺物	土坑 (SK) 353 (1) ···	145			土坑 (SK) 461 ···········	156
		土坑 (SK) 353 (2) ···	145			土坑 (SK) 504 ············	156
		土坑 (SK) 354 ············	145			土坑 (SK) 513 ············	156
図版32	遺物	土坑 (SK) 414 ············	146			土坑 (SK) 543 ············	156
		土坑 (SK) 467 ············	146			土坑 (SK) 566 ············	156
		土坑 (SK) 490 ············	146	図版43	遺物	土坑 (SK) 711 ···········	157
図版33	遺物	土坑 (SK) 465 (1) ···	147			土坑 (SK) 723 ············	157
		土坑 (SK) 465 (2) ···	147			土坑 (SK) 815 ············	157
		土坑 (SK) 502 ············	147			土坑 (SK) 885 ······	157
図版34	遺物	土坑 (SK) 537 ············	148			土坑 (SK) 886 ·············	157
図版35	遺物	土坑 (SK) 505 ·············	149	図版44	遺物	土坑 (SK) 894 ············	158
		土坑 (SK) 725 ············	149			土坑 (SK) 964 ············	158
		土坑 (SK) 892 ············	149			土坑 (SK) 910 ···········	158
図版36	遺物	土坑 (SK) 893 ·············	150			土坑 (SK) 990 ············	158
		土坑 (SK) 914 ···········	150			土坑 (SK) 1048 ········	158
		土坑 (SK) 1043 ········	150			土坑 (SK) 1077 ········	158
図版37	遺物	土坑 (SK) 897 ············	151	図版45	遺物	土坑 (SK) 1084 ········	159
図版38	遺物	土坑 (SK) 1044 ········	152			土坑 (SK) 1095 ········	159
		土坑 (SK) 1045 ········	152			竪穴状遺構 (SB) 19	159
		土坑 (SK) 1046 ········	152			遺構外	159

図版46	遺物	遺構出土中国製磁器	
		墨書のある陶器(土坑240・27	74)
		•••••	160
図版47	遺物	16世紀末~17世紀前半の	
		瀬戸·美濃系陶器	161
図版48	遺物	櫛 (表 土坑274)	162
		櫛(裏)	162
図版49	遺物	腰板(井戸址08)	163
		コタツ(土坑499)	163
		十能(土坑1044)	163
		箱庭道具(遺構外)	163
図版50	遺物	水琴窟に使用された甕(土坑	370)
			164
		柄鏡	164
		土師質皿	164
		焼塩壷	164
		<i>p</i>	
		付 凶	

付図1 遺構全体図(A面) 付図2 遺構全体図(B面)

第1章 経 過

第1節 調査に至る経緯と経過

第1項 調査に至る経緯

平成12年5月19日付、12教文第124号にて長野県教育委員会教育長より平成13年度以降実施予定の公共 事業等に係る埋蔵文化財の保護についての依頼があり、13年度以降に計画されている事業の照会がなさ れた。

その結果、飯田市産業経済部まちづくり推進室より、飯田市本町1丁目・通り町1丁目における市街地再開発事業の計画が提示された。当該地は埋蔵文化財包蔵地飯田城下町遺跡の一画に位置する(挿図1・2)。この個所は平成11年度に本町1丁目において飯田市橋南第一地区市街地再開発組合による再開発事業に際し、発掘調査が実施された隣接地である。隣接地の調査では、遺構検出面が重層的であることが判明しており、今次計画地でも同様な傾向にあると予想されたため、事前に試掘調査を実施して本調査費用および計画を立てることとなった。

諸協議と建設計画の具体化を受けて、平成16年2月4日、飯田市本町一丁目15番 飯田市橋南第二地区 市街地再開発組合 理事長 栗崎豁男と飯田市長 田中秀典の間で試掘調査に関する委受託契約を締結 し、3月23日から29日にかけ試掘調査を実施した。その結果、近世の遺構面とそれ以前の遺構面が確認 され、上下2面の発掘調査が必要であると判断された。

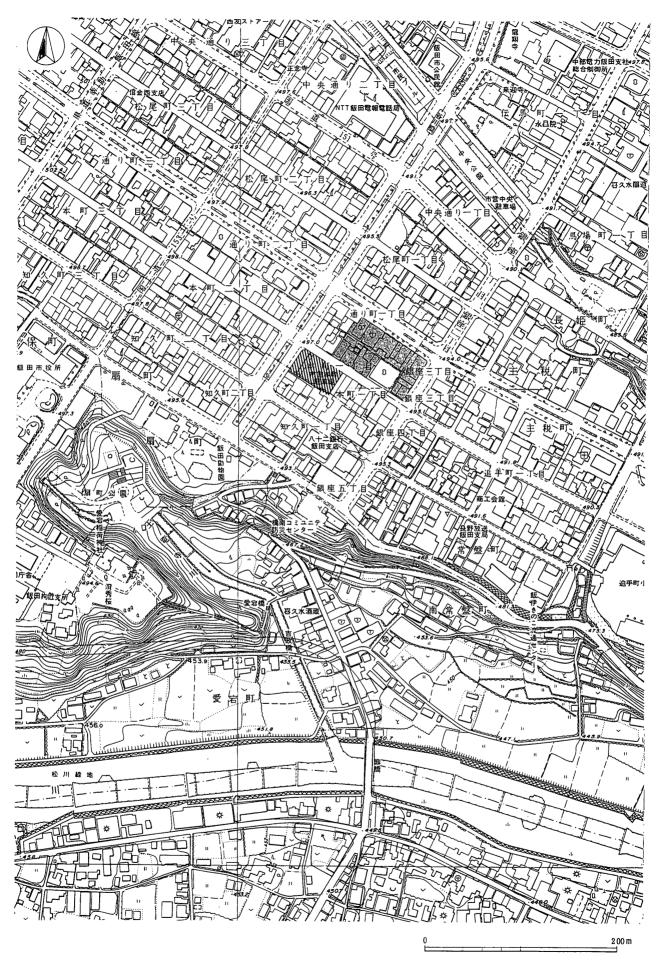
試掘調査結果に基づいて、平成16年4月1日、発掘調査に関する協定及び発掘作業分について委受託契約を締結し、4月6日より調査に着手した。

第2項 調査の経過

発掘調査は、平成16年4月6日から同年6月29日まで実施した。調査は排土の関係から銀座3丁目旧キラヤ跡地をⅠ区、銀座三丁目1番地から通り町一丁目15~18番地をⅡ区、通り町一丁目13番地をⅢ区、本町一丁目をⅣ区と設定した。

しかし、それぞれの調査区は検出面が2面あるため、I区A面(上層)・I区B面(下層)などどと区別した。また、調査では飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図に基づく基準点設定を株式会社ジャステックに、調査遺構の年代測定のための自然化学分析をパリノサーヴェイ株式会社に委託実施している。以下、発掘調査の詳細は調査日誌に記している。

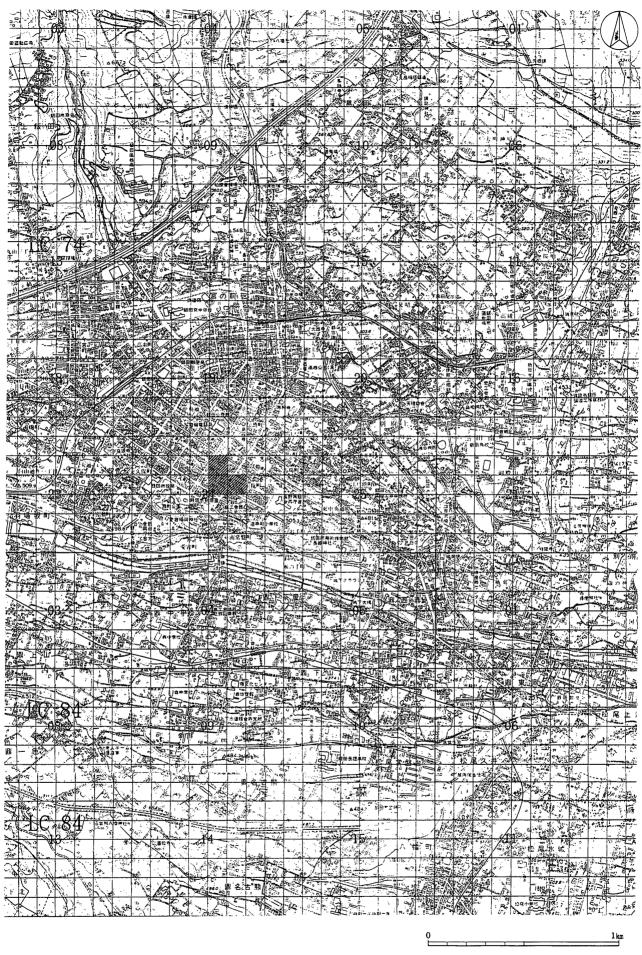
平成17年度は出土遺物の整理作業および報告書作成作業を行った。4月1日より飯田市考古資料館において出土遺物の水洗・注記・接合・復元・遺物実測・トレース作業を行い、並行して現場図面の整理・二次原図作成・トレース作業を実施した。また、遺物写真は西大寺フォトに委託実施し、報告書作成にあたった。



挿図1 飯田城下町遺跡調査位置図

発掘調査日誌

- 4月6日 ・ I 区重機による表土掘削開始
- 4月 8日 ・ I 区 A 面調査開始 IV区重機による表土掘削開始 委託基準点設置
- 4月 9日 · IV区調査開始
- 4月21日 · I区A面調査終了
- 4月22日 ・ I 区 B 面及び II 区 A 面重機による掘削開始 I 区 B 面調査開始
- 4月23日 •委託基準点設置
- 5月 6日 。Ⅱ区A面調査開始
- 5月11日 · IV区A面調査終了
- 5月12日 ・IV区 B 面重機による掘削開始
- 5月21日 · I区B面調查終了 追手町小3年生見学
- 5月27日 Ⅱ区A面調査終了
- 5月28日 ・IV区 B 面調査開始 II 区 B 面重機による掘削開始
- 5月31日 Ⅱ区 B 面調査開始 委託基準点設置 西中総合学習20名見学
- 6月 4日 ・旭中職場体験実習受け入れ Ⅱ区B面調査終了
- 6月 5日 。現地見学会 参加者150人 飯田城見学会20人
- 6月8日 •老人大学見学20人
- 6月 9日 ・Ⅲ区A面重機による掘削開始
- 6月10日 。基準点設置 Ⅲ区A面調査開始
- 6月13日 ・橋南公民館ウォークラリー 遺跡見学者100名
- 6月14日 · IV区 B 面調査終了
- 6月18日 。Ⅲ区A而調查終了
- 6月19日 ・Ⅲ区B面重機による掘削開始
- 6月22日 ·委託基準点設置 Ⅲ区B面調査開始
- 6月26日 · 2回目見学会実施 参加者60名 歴博 千田嘉博氏見学
- 6月28日 •Ⅲ区B面調査終了
- 6月29日 ·機材等撤収 調査終了



挿図2 基準メッシュ調査位置図

第2節 調査組織

第1項 調査団

調査主体者 飯田市教育委員会教育長 富田泰啓(~平成17年3月3日)

伊澤宏爾(平成17年3月4日~)

調查担当者 発掘調查(平成16年度) 馬場保之 下平博行

整理作業(平成17年度) 下平博行

調查員 佐々木嘉和(~平成16年度) 渋谷恵美子 坂井勇雄

作業員 伊藤孝人 尾曽ちぶき 金井照子 北原 裕 木下貞子 木下義男 木下力也

熊崎三代吉 小島康夫 小林定雄 佐々木一平 下田芙美子 代田和登 斯波幸枝

杉山春樹 瀬古郁保 高橋セキ子 竹本常子 橘千賀子 田中博人 仲村 信

中山敏子 服部光男 林 員子 樋本宣子 牧内 修 松下省三 松下成司

三浦照夫 宮内真理子 柳沢謙二 吉川悦子

第2項 指 導

長野県教育委員会文化財・生涯学習課、財団法人長野県文化振興事業団長野県立歴史館 櫛・簪美術館、NPO法人日本水琴窟フォーラム、東京大学埋蔵文化財調査室助手 原 祐一

第3項 事務局

飯田市教育委員会

教育次長 尾曽幹夫(平成16年度)

中井洋一(平成17年度)

生涯学習課長 小林正春

文化財保護係長 吉川 豊(平成16年度)

馬場保之(平成17年度)

文化財保護係 馬場保之(~平成16年度) 宮沢貴子(平成17年度~) 渋谷恵美子

佐々木行博(~平成16年度) 下平博行 坂井勇雄 羽生俊郎(平成17年~)

第3節 調査位置 調査区の設定 (挿図2)

今次調査地点は、飯田市本町一丁目1~9番地、通り町一丁目13~18番地、銀座三丁目 1~6番地の現 状商業地である。試掘調査に基づいてA・B面合計1900㎡を調査対象とした。

また、調査区の設定は、世界測地系を用い、飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図に基づいて、株式会社ジャステックに委託実施した。今次調査区はLC74-24に該当する。

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 自然環境(揮図1)

飯田市は伊那山脈と木曽山脈に挟まれた伊那盆地の南端に位置し、盆地の中央には諏訪湖を源とする 天竜川が南流する。伊那谷の地形は、山脈の形成に関わる断層地塊運動によって成立した盆地や段丘と によって構成された段丘地形であり、さらに山塊からの扇状地や天竜川の支流群の浸食によって形成さ れた田切地形と呼称される河岸段丘とが組み合わさり、より複雑な地形を生み出している。この段丘は、 主に御嶽山の火山灰土の堆積を基準にし、高位面。高位段丘・中位段丘・低位段丘 I ・低位段丘 II の5 段階に編年されている(下伊那地質誌編集委員会 1978)。

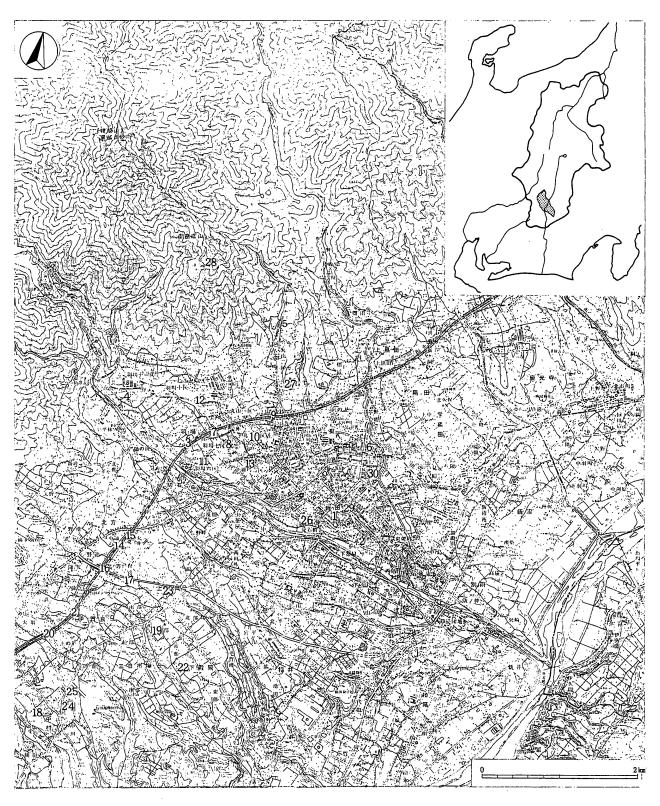
遺跡の所在する飯田市街地は標高が484~495mで、南西側を飯田松川に、北東側を野底川により開析されたため、あたかも丘陵上に立地するかにみられる。このため、俗に「丘の上」と呼称されているが、地質学的には前述の低位段丘 I の伊久間原面に対比されている。飯田市街地でのこの段丘は、野底川起源の扇状地が侵食されてできた段丘であり、長姫神社・愛宕神社のある段丘先端部が最も古い扇状地で、飯田駅から北西山麓周辺が新しい扇状地となっている。

市街地が発達する部分の段丘面は、一見して平坦に見えるものの、市街地ほぼ中央部で北西山麓から南東方向に流入する谷川によって分割され、さらに飯田松川に面した南側は王竜寺川・源長川によって入江状に開析されている。従って段丘上にはこれら河川の開析により幾筋もの畝状の微高地が形成されていたと推定される。段丘の端部は深い侵食谷に囲まれ、半島状に突き出している。段丘先端から飯田松川の氾濫源までの比高差はおよそ60mあり、斜面は飯田市地滑り地域に指定され防止工事が繰り返されている。飯田城址はこの急峻な先端部を利用して構築されており、飯田城址から北西に続く城下町は、谷川と王竜寺川に囲まれた細長い台地上に立地し、谷川をはさんで北東側にも広がっている。

第2節 歷史環境 (揮図3)

今次調査区周辺の飯田市街地は、近世に飯田藩の城下町として開発が進んだ。戦後にはいると飯田大火によって町並みが灰燼に帰し、その後GHQ主体の復興で碁盤の目に区画された現在の町並みが形成された。このため、旧来の地形を示す個所は少なく、遺跡の分布等不明な点が多い。調査地周辺の調査事例も少なく、南側に近接する橋南第一地区市街地再開発地点のみであり、断片的な知見が得られているのみであるが、周辺地区を含めた考古学的事実と文献史学から旧市街地の歴史環境を概観したい。

旧石器時代の飯田市は、山本地区の竹佐中原遺跡において、後期旧石器時代初頭からそれより遡ると推定される石器群が確認されており、近接する石子原遺跡の石器群もこれに似ていると報告されている (長野県埋蔵文化財センター 2005)が、この他の資料は断片的で、旧石器時代の様相は不明な点が多い。調査区周辺の資料としては美術博物館建設に先立つ発掘調査で細石刃核が出土しているのみである。



- 1. 飯田城下町遺跡 2. 飯田城跡 3. 権現堂前(湯渡)遺跡 4. 正永寺原遺跡 5. 押洞遺跡 6. 大門町遺跡
- 7. さつみ遺跡 8. 羽場曙遺跡 9. 古屋垣外遺跡 10. 丸山遺跡 11. 方角東遺跡 12. 木戸脇古墳
- 13. 杵が塚古墳 14. 三壺渕遺跡 15. 上の金谷遺跡 16. 小垣外遺跡 17. 八幡面遺跡 18. 中村中平遺跡
- 19. 中島平遺跡 20. 六反田遺跡 21. 酒屋前遺跡 22. 公文所前遺跡 23. 殿原遺跡 24. 中川遺跡
- 25. 三日市場大原遺跡 26. 愛宕城跡 27. 城山城跡 28. 虚空蔵岩跡 29. 伝馬町 30. 風越窯跡

挿図3 周辺遺跡図

縄文時代に入ると西側の風越山麓周辺に遺跡が集中し、時期が下るとともに台地先端へと遺跡の分布が広がる。縄文時代早期では、権現堂前遺跡・正永寺原等から押型文土器が出土しており、縄文時代中期になると、今次調査区から1km北側の飯田郵便局周辺で集落が確認され、山麓から台地先端に至るまでの広範な地域に遺跡が分布するようになる。しかしながら縄文時代後期から晩期にかけては市内他地域と同様に遺跡数は極端に減少し、わずかに権現堂前遺跡のみとなる。この権現堂前遺跡は縄文時代後期後半から晩期が主体で、大量の土器と石棒・石剣・土製耳飾・土偶などが出土しており、当該期の拠点的な遺跡と捉えられよう。

弥生時代に入ると、前述の権現堂前遺跡から東海的な条痕文系土器が出土しており、稲作の萌芽期にも人々が居住していたことが推測される。しかしながら市内全域をみても弥生時代前期の遺跡数は少なく、不明瞭な点が多い。今次調査個所周辺を含め、飯田市内で遺跡数が増加するのは弥生時代後期に入ってからである。旧市内の代表的な遺跡としては、方角東遺跡。羽場曙遺跡。正永寺原遺跡。古屋垣外遺跡。丸山遺跡が挙げられ、いずれも小規模な集落が散在する集落景観が把握されている。こうした状況は、他地区の高位段丘上に立地する遺跡と共通し、風越山の裾部や扇状地扇端付近で発達する湧水や、小河川を利用した水田耕作が生活基盤であったと推定される。また、方角東遺跡や羽場曙遺跡、今次調査区に隣接する飯田城下町遺跡では方形周溝墓も確認されている。

古墳時代に入ると、中期後半から後期にかけ飯田市内には多数の古墳が築造される。市内古墳の特徴の一つとして、前方後円墳や大型の円墳を中心とする古墳群がブロックを形成し存在することである。こうしたブロックは、川路・竜丘・駄科・松尾・上郷・座光寺の各地区で確認されている。また馬具の豊富さ及び馬の随葬墓もその特徴として位置付けられる。こうした馬に関する遺物・遺構の豊富さから、牧を生産基盤とした集団の存在が推定されている。今次調査区周辺は、中世から近世にかけての城下町の開発や近代の区画整理のため、古墳の存在が不明確であるが、上飯田地区内にも数基の古墳が存在したと伝えられている。現在は木戸脇古墳・杵が塚古墳のみ現存するが、寛政年間に松平楽翁の著した『集古十種』銅器一の部に、「信濃国伊奈郡飯田城下掘地所得鏡図蔵未詳」として銅鏡が図示されており、市街地に古墳が存在していたことを窺わせる。また古墳時代の集落は丸山遺跡や羽場曙遺跡で調査されているが、断片的に把握されているに過ぎない。

奈良~平安時代に入ると低位段丘面に立地する座光寺地区の恒川遺跡から正倉群が確認されており、伊奈郡衙に比定されている。恒川遺跡周辺には当該期の集落が点在し、官衙と周辺集落を考察する上で注目すべき地域となっている。一方、恒川遺跡より一段高い段丘面に立地する市街地周辺の状況はまったく不明であるものの、同様な段丘面に所在する伊賀良地区では当該期の集落が確認されており、今次調査区周辺に集落が存在した可能性は十分推測される。

古代の現市街地は、和妙類聚抄に記載される伊那郡麻績郷に含まれていたと考えられるが、中世の市街地は郡戸荘飯田郷に含まれていたと推定される。この郡戸荘は、『吾妻鏡』文治2年(1186)3月12日の条に記述が見られ、その範囲は鎌倉時代以降の諸文献から現在の飯田。上郷。座光寺。市田の区域と推定されている。この吾妻鏡の記載は、貢未済庄として挙げられたもので、文治2年6月9日の条にも同様な記載があり、飯田郷の年貢が御服の料にあてられる特殊なものであることが記されている。暦応2年(1339)には近衛基嗣が郡戸荘を山城楞伽寺に寄進しており、至徳2年(1385)には足利義満がこれを安堵している。一方、地頭については、『諏訪御符礼之古書』嘉暦3年の条や、小山文書に見られる観

応元年の『阿曽沼秀親所領注文』によると、鎌倉時代から室町初期の飯田郷の地頭は阿曽沼氏であったことが記載されている。しかし同書によると、享徳元年(1452)、長禄2年(1458)には信濃国守小笠原氏配下の坂西康維が飯田郷地頭として諏訪上社神射山祭の頭役を勤めていることが記されており、山城醍醐寺理性院厳助による『信州下向記』にも天文2年(1533)に飯田郷の坂西伊予守と弟の民部小輔の居城を訪れたことが記され、地頭が阿曽沼氏から坂西氏と変わったことが推測される。こうした資料により、飯田郷の地頭が阿曽沼氏から坂西氏に替わったと推定される。

室町時代に飯田郷地頭であった坂西氏は、応永6年(1399)に小笠原長秀が信濃国守護職に任ぜられると、小笠原氏の拠点である伊賀良荘に近接する郡戸荘の国人等とともにこれに従ったが、応永7年(1400)の大塔合戦により守護職の権威が衰退し、在地領主の荘園支配や国衙領の横領が進む中で、白山社奥社本殿を造営するなど、相当な勢力を有していたと考えられる。

この坂西氏は、今次調査区西側の段丘突端部に飯坂城(愛宕城)を築き、室町時代には城の拡張の必要に迫られ、長姫六本杉の地(現在の飯田城)に移ったと推定されている。このため、城の拡充と共にいわゆる丘の上も整備されていったと考えられる。

天文23年(1544)の武田氏侵攻により、最大勢力であった小笠原氏は衰退し、坂西氏も武田氏に従った。新たな領主となった武田氏は伊那郡代として飯田城に秋山信友を置き、浪合関所など6箇所に関所を設け伊那谷の支配を行ったが、天正10年(1582)の織田信長の侵攻により、飯田城守将の保科正直は逃亡し、坂西織部も敗死して坂西氏は滅びた。

武田氏討伐後、織田信長は毛利秀頼に伊那郡を与えたが、本能寺の変により織田信長が倒れると、毛利氏は京都に上がり、替わって徳川家康が配下としていた旧族の下条頼安を飯田城に据えた。天正12年、下条頼安が松尾氏に殺害されると、菅沼定利が郡代として飯田城にはいった。天正18年の徳川家康関東移封に伴い、再び毛利秀頼が飯田城に入り伊那郡を支配した。文禄2年(1593)、秀頼が死去するとその婿の京極高知が跡を継いだが、慶長5年に関ヶ原の軍功により丹波宮津に移封されると、下総古河から小笠原秀政が入り、同18年松本に移封されるまで在城した。小笠原氏移封後10年間は幕府領となり、小笠原氏がこれを預かっていた。元和3年(1617)年、脇坂安元が伊予大洲から移封され、2代55年間在城し、寛文12年(1672)年、堀親昌が下野鳥山から移封され、以後12代約200年間に亘り飯田藩を統治した。

第3節 城下町の歴史

室町時代の坂西氏による飯田城の築城後、飯田城は武田・織田・徳川の三氏の関与を経て、幕藩体制に組み込まれていく。それぞれの支配者により城の拡充や城下町の整備が行われているが、ここでは城下町の歴史について概観したい。

第1項 城下町の変遷

中世城郭であった時代は城下に小規模な城下町があった可能性があるが、城の西方の台地上に城下町が本格的に形成されるのは天正11年菅沼定利の飯田城入城からと推定される。それ以前にも伊勢から移

住してきた人々によって作られたと伝えられる伊勢町(現松尾町1丁目)が存在した可能性が高いが、 菅沼氏は知久平城の城下町を飯田城下に移し、知久町としたとされている。菅沼氏後、天正18年(1590) 毛利秀頼は伊那郡10万石を与えられ、飯田城及び城下町の大改修を行っている。毛利氏死後は婿の京極 高知が伊那郡を領し、城下町の整備に意を尽くしている。両氏による城下町の整備は、番匠町・池田 町・田町(現通り町1~3丁目)本町1丁目・2丁目・十王堂町・名残町(伝馬町1丁目・2丁目)におよび、 慶長元年(1596)には武蔵本庄に移封された松尾城主小笠原信嶺の城下町を移し、松尾町(現松尾町2 丁目)・峯高寺町(松尾町3丁目)とした。これらの商人町は京都風に碁盤目状の町並みに配置され、 町屋の外側には西・北二面に総延長250間の土塁が築かれた。

関ヶ原の合戦後の慶長5年に京極氏は丹波宮津に移封され、飯田城には下総古河より小笠原秀政が5万5千石で転封する。しかし、石高の減少などにより城下町は寂れ、「飯田万年記」には「御知行五万石ニ成、御城下衰微致、家持モ方々へカセギニ出、女童計リ留守致、年中留守多ク町役人足難勤、問屋モ潰レ…」と衰微の様を記している。小笠原氏は慶長18年まで在城し、松本へ転封となる。その後元和3年まで飯田領は幕府領となり、小笠原氏の預かりとなった。

元和3年脇坂安元が伊予大洲から5万5千石で飯田城に移封される。脇坂安元は伝馬に力を入れ、伝馬町・桜町を整備し、中馬の発達と相俟って物流の中継都市としての飯田の原型をつくりあげた。また、外堀の掘削や大手門の造営、空堀を水堀にするなどの城内整備、桜町・殿町の枡形整備、愛宕坂の道路整備等も行っている。この脇坂安元は林羅山とも親交が深く、新井白石の「藩翰譜」でも弓矢に秀で、和歌を好む文武両道に優れた武将として評されている。

脇坂氏は寛文12年(1672)播磨竜野へ転封となり、飯田城には下野国鳥山から堀親昌が2万石で移封される。堀氏はこれ以降1871年(明治4年)まで12代にわたり飯田藩の藩主となる。石高の減少により侍人口が減少したものの、伊那街道・秋葉街道・三州街道の交差点であった飯田は、中馬による物流の中継地として脇坂氏時代にもまして繁栄した。

第2項 飯田城下町の特徴

ここでは毛利氏時代より版籍奉還まで五氏十五代にわたって形成された城下町の特徴を整理したい。脇坂氏時代の飯田城絵図(下伊那教育会蔵)によると、伊那谷特有の段丘地形をうまく利用して計画されている。岬状に突出する段丘平坦面に城と城下町が連続して配置される構成は、他の城下町に見られない構成で、城下町飯田の最大の特徴となっている。城下町は南を飯田松川が天然の堀となり、北側及び西側には総延長250間に及ぶ外堀及び土塁が巡らされている。北側の伊那街道からの入口には桜町の大木戸・伝馬町の枡形、西側の大平街道からの入口には羽場の枡形、南側の三州街道からの入口には箕瀬の枡形がそれぞれ作られ、脇坂氏により整備された愛宕坂にも木戸が設けられている。西側の箕瀬の枡形から北側の伝馬町の枡形周辺にかけ城下町を取り巻くように寺院が配されており、北から西を主たる防御方向として構想されている。寺院群及び土塁の内側には侍屋敷が巡らされ、中央部に町屋が配置されている。城下町を南北に分ける谷川には橋(現在の長姫橋)がかけられており、谷川の北と南で「橋南」「橋北」にわけられ、橋南に13か町、橋北に5か町の町屋が設けられている。このうち橋南13か町は竪町と横町の通りにより細長い長方形に区割りされ、整然とした町並みが形成されている。こうした町並みから「小京都」と称されてきたが、昭和22年の飯田大火によりその美しい町並みは灰燼に帰した。

しかし、焼け野原となった飯田の町は、進駐していたGHQの指令により、市街地を十文字にはしる防火帯道路や町屋の境に裏界線(幅2m程度の路地)を設け、防災モデル都市として復興した。こうした GHQの指令による防災モデル都市は全国に例がない。また、その後防火帯道路に設けられた「りんご並木」は、飯田市のシンボルとして現在も大切に守り育てられている。

第3項 飯田城下町の災害

飯田城下町は古くから大火が多く、江戸時代より度重なる火災に見舞われている。大火災として記録 に残るものだけで寛永21年(1644年)、宝永8年(1711年)、享保元年(1716年)、宝暦12年(1762年)、 天明3年(1783年)、寛政11年(1799年)、文政6年(1823年)、天保2年(1831年)、明治元年(1873年)、 明治6年(1873年)、大正11年(1922年)等がある。その中でも天明3年2月晦日の火事は『池田町角淀屋 半六借家庄之介出火し田町、番匠、松尾二三、本町一二、知久一二、七百五件焼失』とあり、寛政11年 6月11日の火事は、『本町一丁目松屋安兵衛出火、本一、本二、番匠、知久一、知久二、松一を焼失。領 主より松材。縄米被下、十二日には火災跡の火消に、焼残りの町より人足出る。』との記録がある(高田 1966)。大正11年の火災は愛宕坂中ほどから出火し、扇町・知久町1丁目・本町一丁目の半分・常磐町・広小 路・追手町・主税町まで延焼し、358軒が罹災した。さらに昭和22年4月20日、知久町1丁目から発生した 火災は、南風により瞬く間に延焼し、市街地のほぼ8割が焼失した。焼失家屋は4,011軒におよび、城下 町飯田の面影をほぼ失ってしまった。この罹災状況は、当時飯田に進駐していたGHQによりカラー映 像が記録されている。一方、自然災害としては、平成11年に実施された隣接する本町一丁目の発掘調査 で、寛政大火(1799年)から大正大火(1922年)の間に数回にわたる洪水の痕跡が認められている。こ れらの洪水は、遺構の状況から文化元年(1804年)8月29日の「子満水」と、文政11年(1828年)7月2日 の「子満水」に比定されている。特に文政年間の満水は調査地点周辺に被害を与えたと推定され、検出さ れた地下室が洪水砂により埋没し放棄されたことが確認されている。また、昭和36年の災害(36災)時 においても、西側の虚空蔵山からの土石流が谷川・王竜寺川・松洞川等に流れ出し、市街地も氾濫を被っ ている。

第Ⅱ章に関する参考文献

下伊那誌編纂会 1955 『下伊那史』第二巻・第三巻 高田久四郎 1966 「昔からの飯田の火事」 『伊那』1966-8 下伊那地質誌編纂委員会編 1976 『下伊那の地質解説』 下伊那教育会 1988 『伝馬町遺跡』 飯田市教育委員会 2001 『飯田城下町遺跡』 飯田市美術博物館 2005 『飯田城ガイドブック』

第Ⅲ章 調査結果

第1節 各地区の層序 (挿図4)

今次調査区は $I \sim IV$ 区に分かれており、 $II \cdot III \cdot IV$ 区において基本層序を観察している。前述のとおり、調査地点周辺では江戸時代から昭和にかけて大火が頻発しているため、その都度整地を行っていると推定され、層序は安定していない。このため各地点の層序を対比する事が困難な個所も見られる。このため、各地点ごとの層序について逐一述べることとする。なお、土色・土性については『新版土色帳』を用いている。

第1項 II区の層序

1) II 区北壁層序

I層:昭和大火後の造成土。炭化物や焼土を大量に含む。上面から大火灰掻き坑が掘り込まれる。

Ⅱ層:飯田大火時の焼土層。硬く焼きしまっている。

Ⅲ層:10YR5/1 褐灰色 シルト質埴土。小石や砂を含む。

IV層:10YR5/2 灰黄色 シルト質埴土。黄色土ブロックを含む。上面から土坑が掘り込まれる。

V層:10YR4/1 褐灰色 砂質埴土。上面から土坑が掘り込まれる。

VI層: 10YR6/6 明黄褐色 御岳山起源のローム層。B面の検出面。

第2項 Ⅲ区の層序

Ⅲ区西壁・北壁で層序を観察した。

1) Ⅲ区西壁層序

I層:近代造成土 コンクリート塊や砂利等を含む。

II 層: 10YR7/4 にぶい黄橙色 シルト質埴壌土。造成土で焼土粒が含まれる。昭和22年大火後の造成と推定される。層上面からは多数の大火灰掻き坑が掘り込まれている。

Ⅲ層: 2.5YR6/8 橙色 シルト質埴壌土。昭和22年大火の焼土層。

IV層:10YR2/1 黒色 昭和22年大火の炭化物層。

V層:10YR6/6 明黄褐色 重埴土。粘性強く硬くしまる。土間等の造成部分の可能性がある。

VI層: 10YR2/1 黒色 炭化物及び焼土を多量に含む。昭和大火以前の火災に起因する可能性がある。

VII層: 10YR4/1 褐灰色 シルト質埴土。炭化物・焼土含む造成土。昭和大火以前の火災に起因する可能性がある。

WII層: 10YR7/6 明黄褐色 重埴土。粘性強く硬くしまる。土間等の造成部分の可能性がある。

IX層:10YR4/2 灰黄褐色 シルト質埴壌土。焼土・炭化物含む造成土。

X層:10YR6/6 明黄褐色 重埴土 焼土・炭化物を含み、粘性強く硬くしまる。

XI層: 10YR2/1 黒色 炭化物及び焼土層。VI・VII層以前の火災に起因する可能性がある。

XII層:10YR4/1 褐灰色 シルト質埴壌土。黄色ブロックを含む造成土。

XII層:10YR2/1 黒色 シルト質埴土。炭化物を少量含む。

XV層:10YR8/6 黄橙色 重埴土。粘性強く硬くしまる。

W層:10YR4/1 褐灰色 シルト質埴土。炭化物・焼土含む。

XM層: 10YR4/1 褐灰色 シルト質埴土。IV区VII層に対比され、土坑等が掘り込まれる。

MM層:10YR2/1 黒色 シルト質埴土。赤色粒子を含む。IV区VIIIa層に対比され土坑等が掘り込まれる。

XM層: 10YR3/1 黒褐色 シルト質埴土。IV区には観察されない層。層上面からは遺構が掘り込まれ、下面から縄文時代から弥生時代の土器片が出土している。

XX層:10YR4/2 灰黄褐色 ローム漸移層。

2) Ⅲ区北壁層序

I~IV層は西壁と同様。

V層: 10YR5/1 褐灰色 シルト質埴壌土 炭化物・焼土含む。土坑が掘り込まれている。

VI層: 10YR5/1 褐灰色 シルト質埴壌土 V層とほぼ近似するが、炭化物・焼土がV層に比し多量 に含まれる。また、柱穴や土坑等が上面から掘り込まれている。

VII層: 西壁の X層に対比される。

Ⅷ層:西壁の16層・Ⅳ区Ⅷ層に対比され、土坑等が見られる。

IX層:西壁の17層・IV区Ⅷa層に対比される。

X層:西壁の18層に対比される。

XI層:西壁の19層に対比される。

第3項 Ⅳ区の層序

IV区東壁・西壁・南壁において層序を確認した。

I層:近代の造成土。コンクリート塊等混入。

Ⅱ層:10YR4/2 灰黄褐色 シルト質埴土。上面が近代の地表と推定される。南壁には見られない。

Ⅲ層:10YR3/1 黒褐色 シルト質埴土。焼土粒や炭化物を多量に含む。昭和22年大火の地表と推定される。近代の造成等により削平を受けており部分的にのみ観察される。南壁には見られない。

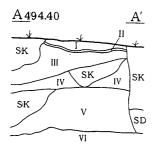
IV層: 10YR7/6 明黄褐色 シルト質埴土。部分的に黄色土と黒色土が縞状に観察されることから人 為的な造成と推定される。また層上面から土坑等が掘り込まれる。南壁には見られない。

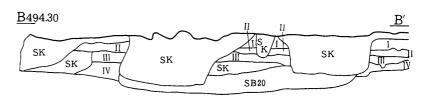
V層: 10YR4/1 褐灰色 シルト質埴土。焼土・炭化物を多量に含む。上面に焼土の堆積が観察される 個所も見られる。南壁には見られない。

VI層: 10YR7/1 灰白色 砂壌土。花崗岩由来の砂が主体。礫も混入する。全面には見られず、部分的に堆積する。V層下面に掘り込まれた土坑にも同一の砂が入る。南壁には見られない。

VII層:10YR2/2 黒褐色 シルト質埴壌土。上面に焼土が堆積する。IV区A面の検出面。江戸時代と 推定される。

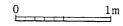
Waa層: 10YR2/1 黒色 シルト質埴土。赤色粒子を特徴的に含む。上面から柱穴が掘り込まれる。江戸時代前期と推定される。

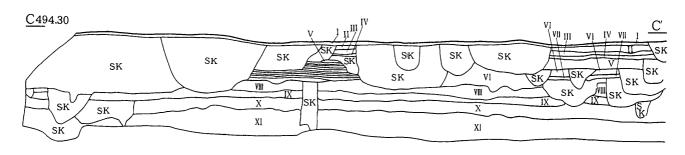




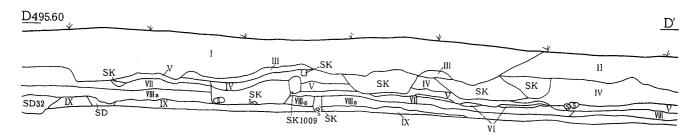
Ⅲ区 北壁層序

Ⅱ区 北壁層序

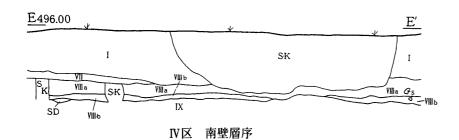


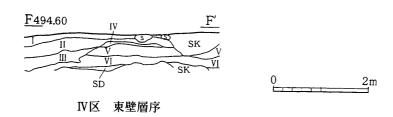


Ⅲ区 西壁~北壁層序



IV区 西壁層序





挿図4 基本層序

Wib層:10YR2/1 黒色 シルト質埴土。南壁のみに観察される。Wi層に近似するが、細かい砂が特徴的に含まれ硬くしまる。道路址の路面の可能性がある。

IX層:10YR6/2 灰黄褐色 ローム漸移層。層中から縄文時代中期・弥生時代後期土器片・土師器等が 出土している。また溝32・溝36はこの上面から掘り込まれている。縄文時代から中世の堆積と推 定される。詳細な分層は不可能。

X層:ローム層 御岳に起因するローム層の堆積。B面の検出面。

第4項 層序の対比

ここでは各地区の層序の対比を試みる。Ⅲ区 I・Ⅲ層、Ⅲ区西壁 II ~IV層、IV区Ⅲ層はいずれも多量の焼土や炭化物を混入する層で、いずれの層も昭和22年の飯田大火に起因すると思われる。焼土面・炭化物層・整地層が観察され、整地層の上面からは土坑が掘り込まれており、内部からは大量の瓦・陶磁器類・ガラス類等が焼土と共に出土している。これらの土坑は前回調査でも確認されている大火灰掻き坑と考えられる。また整地層の下層にはIV区西壁IV層やⅢ区西壁 V層に見られるような人為的な造成部分が確認されることから、これらが大火前の生活面である可能性を指摘できる。

IV区VI層は砂が主体を成し、薄い堆積が部分的にみられる。またVII層から掘り込まれた土坑にも同様の砂が堆積している。これらは前回調査地点でも確認されている文化元年(1804)の「子満水」あるいは文政11年(1828)の「子満水」の洪水砂である可能性が高い。

IV区Ⅷ層、Ⅲ区西壁16層・北壁Ⅷ層は土性・土色が一致し、同一層と判断される。調査区全域では北側のⅡ区で厚い堆積が認められ、上面から遺構が掘り込まれている。

Ⅲ区西壁17層・北壁IX層、IV区西壁IIIa層・南壁III層は、いずれも土性・土色が近似し赤色粒子が混入する特徴を有することから同一層と判断される。上面からは遺構が掘り込まれる。Ⅱ区V層も同一層の可能性がある。

Ⅲ区西壁にのみ観察されたV~15層は、層厚およそ2~5cm程度とごく薄く、炭化物・焼土層と黄色粘土層の互層となっている。当初はこれを火災による建替えの可能性も考慮したが、これらは防湿材として炭化物や灰を撒いた上に黄色粘土を貼り、叩き締めた家屋の土間部分の可能性がある。炭化物層と粘土層を一つのセットと考えると、張替えは5回行われ、最終は飯田大火層に覆われている。またⅢ区北壁Ⅷ層、Ⅳ区西壁Ⅳ層もこうした施設である可能性が考えられる。

以上の対比からII区 I・II層、III区西壁 II~IV層、IV区 III層は、大火層及び大火前の生活面と推定されることから19~20世紀代前半、IV区 III層、III 区西壁16層・北壁 III層が洪水起因のIV区 III 層に覆われた個所も見られることから18~19世紀初頭と推定されるが、III 区西壁17層・北壁 IX層、IV区西壁 III 画・南壁 III 層、II 区 V 層に関しては出土遺物から16世紀末~18世紀といった大まかな年代観を提示するに留める。またIV区 IX 層等のローム 漸移層は詳細な分層が不可能であるが、遺構として両側に溝を有する道路址、遺物としては縄文時代中期から弥生時代後期の土器片・土師器片が出土しており、かなり幅広い年代観が与えられよう。

第2節 遺 構

今次調査区は I ~IV区の4箇所に分けて調査を実施している。それぞれの調査区から検出された遺構は地区に関係なく、通し番号を附している。各調査区は平成11年度調査の成果を受け、江戸時代から近代までの検出面をA面、江戸時代および江戸時代以前の検出面をB面として2面調査を実施している。しかしながら試掘調査において、II 区西側では既存建物の基礎深度が深く、A面が破壊されていると判断し、調査は実施していない。調査の結果確認された遺構数は方形周溝墓4基、土坑932基、溝址4条、井戸址14基、建物基礎及び区画等の石列26基が確認されている。なお土坑。井戸址の詳細については遺構観察表を参考にされたい。

第1項 弥生時代後期の遺構

①方形周溝墓04(図面1)

I区b面DF46~II区b面DL49にかけ確認された。弥生時代の方形周溝墓である。規模は7×8mの長方形と推定されるが、全体の1/4程度を確認したのみで主体部等は確認されていない。周溝の幅は最大60cmで、検出面からの深さはおよそ20cmである。周溝の断面形はU字状となり部分的に焼土が見られた。溝内部からは弥生時代後期の土器片が少量出土した。

②方形周溝墓05(図面1)

Ⅱ区b面DS43で検出された。弥生時代の方形周溝墓と推定される。規模は6×7mの長方形と推定されるが、全体の1/4程度を確認したのみで主体部等は確認されていない。周溝の幅は80cm程度で、検出面からの深さはおよそ40cmである。周溝の断面形はU字状となり部分的に土坑状の掘り込みが見られた。遺物は出土していない。

③方形周溝墓06 (図面1)

Ⅱ区b面DQ01で検出された。弥生時代の方形周溝墓と推定される。隅部分が検出されたのみで規模等は不明である。周溝の幅は40cm程度で、検出面からの深さはおよそ20cmである。周溝の断面形はU字状となる。遺物は出土していない。

④方形周溝墓07 (図面1)

IV区b面DT09で検出された。弥生時代の方形周溝墓と推定される。隅部分が検出されたのみで規模等は不明である。周溝の幅は25cm程度で、検出面からの深さはおよそ20cmである。周溝の断面形はU字状となる。遺物は出土していない。

第2項 近世以前の遺構

1) 道路址1 (図面20 写真図版5)

IV区B面DS09~IV区B面DU49にかけて検出された。方形周溝墓7や16~18世紀の土坑と一部重複する。

調査区内での全長はおよそ35mで、ほぼ東西方向へ直線的に延びると推定され、両脇に溝址31と32が平行する。こうした状況から道路址と判断した。溝址31は幅およそ1m程度で、深さは10cm程度である。断面形はU字状を呈し、底面はおおむね平坦であるが、部分的に深く掘り込まれ段差が見られる部分もある。溝址32は幅1~1.5m、深さは20cm前後である。土層観察から一旦埋没後再度掘り直した可能性が窺われる。掘り直された溝の幅はおよそ1m前後である。溝は部分的に細長い土坑状の掘り込みが見られる個所もあるが、調査区域内では土坑が連続し溝を構成する個所は見られなかった。溝址底面には小石混じりの砂が堆積し、時期不明の土師器小片が僅かに見られた。また、溝に囲まれた路面の幅はおよそ3mで路面上はほぼ平坦となり部分的に硬い個所も見られた。

遺物が極めて少なく断片的であるため詳細は不明であるが、平安時代の可能性がある。

第3項 近代・近代の遺構

1) 竪穴状遺構 (SB)

当初は埋土の状況から近世以前の住居址と判断して調査を行ったが、遺構の形状や出土遺物から近世の地下室や土坑の可能性が考えられる。

①竪穴状遺構19 (図面2)

IV区B面DW18から検出された。一辺2m程度の方形隅丸を呈し、底面までの深さはおよそ10cm程度である。底面は軟弱で柱穴等の施設はなく、平坦である。出土遺物には17~18世紀の陶磁器が見られ、遺構の形状から地下室の可能性が考えられる。

②竪穴状遺構20 (図面2)

III区B面CG25から検出された。調査区内での最大幅およそ 1 mで、円形もしくは楕円形を呈すると推定される。底面までの深さはおよそ15cm程度で、底面は平坦となる。遺物は出土しておらず、詳細は不明である。

③竪穴状遺構21 (図面2)

Ⅲ区B面CE20から検出された。調査区内での最大幅がおよそ1.5mで、底面までの深さはおよそ20cmである。底面には長径40cmのピットが見られる。遺物は見られず、詳細は不明である。

2) 石 列 (SI)

石列及び石敷きを石列(SI)として扱った。規模形状は様々で、機能も建物の礎石・建物礎石下の根石・区画のための石積・石敷き等が考えられる。 I 区A面から1基(SI09)、Ⅱ区A面から5基(SI11~15)、Ⅲ区A面から10基(SI21~30)、Ⅲ区B面から2基(SI31・32)、Ⅳ区A面から8基(SI01~08、33・34)の合計26基が確認されている。いずれの地区もA面からの検出事例が多い点が特徴である。

(1) 建物

直径50cm程度の大型の礫を直線的あるいは矩形と推定される石列を建物と判断した。大型の礫上面は

平坦なものが多く、墨入れ線(SI09・12)や墨書(SI12・33)、ホゾ穴(SI11)が見られるものもある。 大型の礫の周囲には拳大の礫が散乱するものも見られ、これらの多くは根石と推定される。また、人頭 大の礫を2列あるいは3列に密接して敷き並べ矩形や直線的な構成になる石列も建物基礎と推定される。 但し、各調査区内で全掘された遺構がないため、建物全体の規模を推定することはできない。こうした 建物基礎と判断されるものは石列03・04・11・09・12・13・14・21~30・31・33・34が該当する。これらの内、主 要なものについて記載する。

①石列04(図面3 写真図版7)

IV区A面CA17を中心に検出された。北側は調査区外へ延びる。直径30cm程度の礫を2列に幅80cm、長さ4m程度に配置する列と、これに直交するように同様な礫を3列に幅1m、長さ4m程度に配置する列が見られる。東側の列には拳大の角礫が敷き並べられている。列同士の相互関係は不明であるが、時期の異なる2つの建物基礎の可能性もある。

②石列09 (図面4)

I区A面DQ46を中心に検出された。長径60cm程度の平石あるいは割り石の平らな面を上面にし、L字状に1列並べている。東西方向は長さ3mで、南北方向は調査区外に延びるため全長は不明である。東端部の礫には墨入れ線が十字に引かれており、脇に墨書があるが詳しく読み取ることはできなかった。形状から建物礎石と判断される。

③石列21~30 (図面7 写真図版9)

Ⅲ区A面CA26~CE19にかけ検出された。遺構の大半は南側の調査区外へと延びる。番号を附した石列はすべて単独遺構ではなく、実際は複数の建物基礎が重複していると推定されるが調査時には相互関係を十分に把握せずに遺構番号を附したためここで整理する。

石列21・22は同一建物の可能性がある。ただし西側中途でL字に折れ曲がる個所も見られるため別建物の余地も残す。同一建物である場合の規模は北側の側面が約7.5mとなる。基礎を構成する礫は長径50cm程度の平石を1列配置したと推定されるが、部分的に2列見られる個所もある。また礫の抜き取り痕も見られる。この石列21・22で構成される建物を仮に建物址1とする。

石列23・24も同一建物の可能性がある。但し、石列23は礫の配置が1列であるのに対し、石列24は2列配置となっているため別建物の余地が残る。また、石列23西端部には南側に折れ曲がるように礫の抜き取り痕が見られることから、ここを建物西角部分と推定した場合、建物の北側側面の規模はおよそ8mとなる。この石列23・24で構成される建物を仮に建物址2とする。

石列25·30も同一建物と考えられる。前2者と異なり長径50cm大の礫と拳大の小礫を用いている。大型の礫は小礫の上部に見られることが多いため、小礫は礎石の根石である可能性が高い。この場合、建物北側面の規模はおよそ7.5mとなる。この石列25·30で構成される建物を仮に建物址3とする。

石列28・29も同一建物を構成すると推定される。石列25・30の建物とは、調査区南端部に大型の礫が並列し、側面が一致しないため別建物と判断される。部分的な検出のため建物規模は不明であるが、根石を持つ礎石と推定される。この石列28・29で構成される建物を仮に建物址4とする。

以上から石列21~31は4棟の建物が重複すると判断できる。それぞれの建物の前後関係は、建物址2が最も古い可能性があり、建物址3は建物址4に先行する可能性がある。また、屋並帳や城下町を描いた絵図面によると、IV区調査区北側が大通りとなるため、通り側に短辺を持つ短冊形の町割であり、それぞれの建物址の北側面が平行することから、確認されている建物址の北側面が建物の梁行であると判断される。

④石列31 (図面8)

Ⅲ区B面調査中に北壁断面で石列を確認したため拡張して調査を実施した。従って実際の検出面はA面である。CG26を中心に東西方向へ40cm程度の平石が3.4m直線的に配置される。建物の基礎と推定されるが、主要な部分は北側の道路部分広がると考えられる。

⑤石列32 (図面8)

Ⅲ区B面CC24を中心に検出された。上面には石列が多数存在する。調査区内で確認された礫は4個のみであるが、礫抜き取り痕が直線的に並ぶ。抜き取り痕を含めた規模は、東西8.6m、南北2mのL字となる。

⑥石列33·34 (図面6 写真図版10)

IV区A面DU25を中心に検出された。両石列とも隣接既存建物との関係上、全面調査を行うことができず部分的な検出に留まった。石列33は長径50cm程度の平石を2列密接して配置しており、北及び西側に延長すると推定される。調査区内での形状は東西2m、南北3.5mのL字となっているが、全形は矩形になると推定される。平石には「山二」が記号化された墨書と、「丸二」が記号化された墨書が見られる。区画内には拳大の礫が敷き詰められている。形状から建物基礎部分と推定される。石列34は33に近接しているが、両者の前後関係等は不明である。しかし、南側断面では底面に大型礫を用いた石垣状の施設が確認されており、あるいは区画のための石積みの可能性がある。

(2) 区画用石積み(図版2 写真図版6)

敷地を区画する石積みと考えられる。IV区A面から2箇所で確認されている。石列01は調査区内での 規模が全長2.5mで、長径20cmの細長い礫を根石として、その上に同様な礫を乱層積みしている個所が 見られる。前後は他遺構に破壊され、全長は不明である。また石列06の調査区内での規模は全長2.7m で、長径60cm程度の大型礫を根石にして2~3段石積みが見られる。石積みの高さはおよそ50cm程度であ る。両者は本町側の通りに向かって平行しており、その幅はおよそ9.2m程度となる。

(3) 敷 石(図面5 写真図版9)

石列15が該当しII区A面DN03から検出している。5.5×1.5mの長方形を呈し、中央部に幅50cm、長さ4m程度の敷石が見られない区画がある。敷石を構成する礫は拳大~人頭大まで様々な大きさがあり、円礫・角礫が隙間無く詰められている。石積みが見られる個所は無い。遺構中央部に80×60cm程度の長方形の素材不明な容器が設置されており、水抜き穴状の個所も見られた。遺構の性格等は不明である。

3) 井戸址

今次調査では I 区A面から1基(井戸址08)、Ⅱ区A面から2基(井戸址09・10)、Ⅱ区B面から3基(井戸址11・12・16)、Ⅲ区A面から5基(井戸址13・14・15・17・18)、Ⅳ区から3基(井戸址05・06・07)の14基が確認されている。但し、現存する市内井戸の状況から、底面までの深さは10m以上と考えられるため、安全確保の点から底面までの調査を実施していない。井戸の形態は3種類確認されるが、詳細は遺構観察表に記してある。

(1) 石積み井戸 (図面17・18 写真図版11・12・13)

井戸址 $05 \cdot 06 \cdot 07 \cdot 08 \cdot 09 \cdot 10 \cdot 11 \cdot 1208$ 基が相当する。掘り方から $20 \sim 30$ cm程度離して $40 \sim 50$ cm程度の円礫や角礫を乱層積みし、隙間には拳大の礫を挟み込んでいる。小口積み個所は井戸上面から $0.7 \sim 1$ mまでで、それより下は素掘りのまま基盤のローム層が剥き出しとなっている。また、掘り方は粘性の強い黄色土で埋め戻されている。石積みの内径は $0.8 \sim 1.2$ m程度である。井戸址の多くに大火時の廃棄物が投棄されており、 $18 \sim 20$ 世紀代の陶磁器類 \cdot がラス \cdot 瓦 \cdot 海鼠壁の腰板などが出土している。また、井戸址12は既存建物取り壊し時に息抜用のパイプが差し込まれており、近年まで使用されていたと考えられる。

(2) 素掘り井戸 (図面19 写真図版13)

井戸址16・17・18の3基が該当し、井戸址06・15も可能性がある。直径1.7~2.4mの円形で、壁はほぼ垂直となる。石積み井戸と同様に深く、底面まで完掘していない。この内、井戸址17は円形土坑の内部に直径90cmの土坑が垂直に掘り込まれており、石積み井戸の形状と比較した場合、掘り方径が1.6~2.6mの中に収まることを考慮すると石組みが外され廃絶した井戸の可能性もある。井戸址17からは18世紀代の陶磁器類、切り合い関係にある井戸址18からは19世紀代の陶磁器類が出土している。

(3) コンクリート製井戸 (図面19)

井戸址13·14が該当する。コンクリートにより鉄アレイ状に覆われたドーム内に井戸が存在すると推定される。側面にポンプ類や電極が存在する。近年まで使用されていたと考えられる。

4) 土 坑

今次調査区からは土坑が1,000基以上確認されている。規模形状とも様々であり、個々の詳細を記載することはできない。そのため土坑の形状や調査状況及び出土遺物を考慮し、これらの土坑の機能・用途を推定分類しその特徴を述べ、代表的な例について事実記載する。なお、土坑の分類にあたっては、前回調査地点の成果を参考にしている(飯田市教育委員会 2001)。また個々の土坑の詳細データは遺構観察表を参考にされたい。

(1) 地下室

地面を掘り込んで作られた室である。民俗事例では野菜等の食料の保管や収納に用いられ、現在でも 民家に見られることがある。形状はほぼ方形あるいは長方形で、壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁 の構造は素掘り・石積み・柱穴と壁材の痕跡が見られるものの3類がある。いずれの遺構からも出土遺物 は陶磁器片などが多いため、廃棄にあたりゴミ穴として転用している可能性が高い。明確な例として以 下の9基を記載する。

①土坑89 (図面9)

I区A面DE47で確認された。一辺およそ1.6mの方形もしくは長方形と推定される素掘りの地下室である。検出面からの深さはおよそ1.2mで、壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。内部から京・信楽系の中碗が出土している。遺物から18世紀以降と推定される。

②土坑131 (図面8 写真図版15)

I区A面CY43から検出された。遺構の東・南側が調査区外に延びる。石積みの地下室と推定されるが、地下室同士が重複若しくは拡張されているため全体の形状が不明である。東西方向の石組みの全長は3mで、人頭大の礫が3段程度積み上げられている。また、底面にも同様な礫が敷き詰められている。土坑内部には多量の焼土が混入し、遺物には瀬戸・美濃系陶器の小杯・紅皿、焼けて変形した鉄製品や銭貨が見られ、20世紀代と推定される。

③土坑241 (図面8)

I区A面DA44から検出された。南側が他遺構により破壊されている。石積みの地下室と推定されるが、形状・規模は不明である。最大60cm程度の礫が底面から1段積まれているが、底面には礫が散乱していることから2段程度の石積みで構築されていたと推定される。内部からは瀬戸・美濃系陶器の大皿・灯明受皿、肥前系磁器の中皿、瀬戸・美濃系磁器片、不明銅・鉄製品が出土しており19~20世紀と推定される。

④土坑242 (図面10)

I 区A面DA45で確認された。 1.5×2 mの長方形と推定される素掘りの地下室である。検出面からの深さはおよそ50cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦となる。遺物は出土していない。

⑤土坑301 (図面12 写真図版18)

I 区B面DF47から検出された。最終的な規模はおよそ 1.9×2.1 の長方形で、検出面からの深さは70 cmである。遺構検出面には $1.5 \times 2.2 \text{m}$ の範囲で拳大 $\sim 60 \text{cm}$ 程度の礫が散在しており、当初は建物基礎として調査した。

礫の除去後、礎石下を確認する段階で、地下室と判断し調査を行った。壁はほぼ垂直に立ち上がり、 底面には幅10cm程度の溝が壁に接して全周している。溝内部には壁材と推定される木質部が僅かに見られた。また、底面四隅には10×20cm程度の方形の柱穴が確認され、柱穴内部には腐食した木質が確認された。こうした状況から周囲に壁板を用いた地下室の可能性がある。底面は平坦で、北東隅に小ピットが見られる。

内部からは瀬戸・美濃系陶器の灯明受け皿・片口鉢、肥前系磁器の大皿・中鉢が出土しており、18~19世紀と推定される。

⑥土坑500(図面12 写真図版21)

Ⅱ区B面DP43から検出された。南側が既存建物の基礎により破壊され、全体の形状は不明である。 検出された部分はおよそ50cm程度の平石を用いた階段が4段造作され、階段両脇には拳大から40cm程度 の円礫や角礫を用い壁が作られている。壁の高さは底面からおよそ1mで、裏込めは確認されなかった。 底面には敷石等の施設は確認されていない。遺物は陶磁器の小片のみで時期等の詳細は不明である。

⑦土坑880 (図面12 写真図版19)

Ⅲ区A面CE28から検出された石積みの地下室である。規模は1×1.8m程度の長方形で、人頭大の円礫や角礫で周囲が囲まれている。底面は平坦で、敷石は見られない。検出面からの深さはおよそ20cmと浅いため、上面が破壊されている可能性もある。内部から遺物は出土していない。

8土坑883 (図面13 写真図版19)

Ⅲ区A面CJ22から検出された石積みの地下室である。規模はおよそ1×1.6mの長方形を呈すると推定されるが、南壁は他遺構との重複で破壊されている。検出面からの深さはおよそ40cm程度で、壁面には底面から2段程度石積みが見られる。底面は平坦で、敷石等は見られない。内部からは瀬戸・美濃系陶器の大皿・瓶・鉢・擂鉢、漆皮膜が出土している。

⑨土坑1099 (図面16 写真図版22)

IV区A面DS17から検出された。検出当初は2×3mの範囲で拳大から人頭大の礫がコの字に配置された状況から建物基礎部分と判断し調査を行ったが、内部の掘り下げを行った結果、石積みの地下室と判断した。最終的な規模は1辺2m程度の方形と推定され、北隅は階段状に掘り込まれている。壁には50cm程度の細長い礫を土台とし、礫と礫の間は小礫が詰められている。当初確認された礫の配置はこの上面にあたると考えられ、この場合、石積みは3~4段あったと推定されよう。検出面からの深さは70cm程度で、底面は平坦だが西側に溝が掘り込まれている。内部からは陶磁器類の小片が出土しているが、時期等の詳細は不明である。

(2) 厠

円形あるいは長方形の浅い土坑内部に、甕等が据えられたもの。甕の内面には白色の物質が付着しているものが多い。これらは塩分等が沈着した可能性がある。以下の4基が該当する。

①土坑899。900 (図面13 写真図版19・20)

Ⅲ区A面CF19・CG20から並列した状況で確認された。土坑間はおよそ90cm離れている。土坑899は直径およそ40cmの円形を呈し、掘り方の断面はU字状となる。土坑内部には常滑系の大甕底部付近が据えられている。土坑900は掘り方の平面形が直径60cm程度のほぼ円形を呈し、断面形はU字状となる。内部に常滑系の大甕底部が据えられている。

いずれの土坑も掘り方の深さが10cm程度と浅く、甕の上部が失われていることから本来の形態ではない可能性もある。土坑周辺には上屋構造を示す柱痕等は確認されていない。いずれの甕にも白色粒子が

顕著に付着しており、大便用・小便用に分けられた厠の可能性を指摘できる。遺物が断片的なため時期 等は不明である。

②土坑366•367 (図面11)

Ⅱ区A面DN00・DN49から並列した状況で確認された。土坑掘り方は接している。土坑367の掘り方の規模は50×70cmの長方形を呈し、内部に大甕底部が据えられている。土坑367は掘り方が50×70cmの長方形を呈し、内部に大甕を据え、甕底面に植木鉢を伏せた状態で据えている。いずれの土坑も甕の上面は失われており、本来の形態でない可能性もある。また、甕には塩分の付着が認められる。周辺に上屋構造を示す施設は確認されていない。

出土遺物の様相は19世紀と推定される。

(3) 桶据付痕のある土坑

円筒形に掘り込まれた土坑内部に、桶の据付痕が見られる土坑。土坑の内部に桶が埋め込まれたと推定され、厠あるいは水等の貯蔵の機能が推定される。以下の5基が該当する。

①土坑135 (図面6)

IV区A面DS24から検出された。約半分が調査区外へ広がる。直径1mの円形を呈し、壁はほぼ垂直となる。検出面からの深さはおよそ30cmで、底面は平坦となり、桶底が残存していた。遺物は出土していない。

②土坑246 (図面10 写真図版16)

IV区A面DU13から検出された。直径80cm、深さ20cmのほぼ円形を呈し、壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦で、直径50cmの桶底痕が見られた。遺物は出土していない。

③土坑248 (図面10)

IV区A面DU16から検出された。直径約1m、深さ40cmのほぼ円形を呈し、壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦で、推定径70cmの桶底痕が見られた。遺物は出土していない。

④土坑265(図面10 写真図版16)

IV区A面DW16から検出された。直径約70cm、深さ50cmのほぼ円形を呈し、壁は垂直に立ち上がる。 底面は平坦で、推定径60cmの桶底が残存していた。土坑内部からは瀬戸・美濃系の捏鉢、肥前系磁器の 碗蓋、瀬戸・美濃系磁器の小瓶、瓦質火鉢等が出土しており、19世紀と推定される。

⑤土坑270 (図面11 写真図版16)

IV区A面DW17から検出された。周囲に拳大の礫が散乱し、直径70cmの桶底が確認されている。桶底下部には1.9×1.7mの不整形な土坑が見られ、土坑内部からから瀬戸・美濃系陶器類、肥前系磁器類が出土しており、17~18世紀と推定される。土坑と桶底は別時代の可能性がある。

(4) 鋳造遺構

①土坑182 (図面10 写真図版21)

IV区A面DQ14から検出された。掘り方は直径1.7mのほぼ円形を呈し、深さはおよそ40cmである。土坑中心部に長径20~40cmの細長い礫を用いコの字形に石組みした炉址が確認された。石組みによって方形に区画された内部は長方形に一段深く掘り込まれ、南側には扁平な礫が据えられている。石組み内部及び周辺には焼土が多量に見られ、炉址を構成したと推定される礫が散布している。また近接する土坑196・197からは坩堝が出土しており、土坑182を中心とする鋳造遺構が存在したと推定される。遺構内部からは瀬戸・美濃系の小皿・碗等が出土しており、17世紀初頭と考えられる。

(5) カマド状遺構

①土坑932.934 (図面15 写真図版20)

Ⅲ区A面CF26から検出された。土坑932は931・934と切り合い関係にあり最も新しい。土坑932は長径1.2×短計1.1mの円形に近い形状で、西側は深く掘り込まれ、底面中心部が一段深く溝状になり、東側の掘り込みは浅くなる。焼土は中央の落ち込み内には少なく、周囲にU字状に分布する。遺物は出土していない。切り合い関係にある土坑931からは瀬戸・美濃系陶器の小皿・擂鉢等や、肥前系磁器の小皿・碗蓋・蓋物等が出土しており18~19世紀と推定される。このため土坑932は19世紀以降の可能性が高い。

土坑934は長径1.2×短径0.8mの方形に近い形態である。西側で高い位置から掘り込まれ、東側は平坦となる。底面の構造も土坑932に近く、焼土もU字状に分布する。土坑内からは瀬戸・美濃系陶器の擂鉢・香炉・徳利や肥前系磁器の小杯・中皿が出土しており、18世紀と推定される。

(6) ごみ坑

人為的に掘り込まれた穴に不要品等を廃棄したごみ穴である。規模・形状は様々で、今次調査区から最も多く確認されている遺構である。遺構は複雑な重複関係にあり、同一個所で繰り返し掘削が行われたと推定される。内部からは陶磁器類の破片が最も多く、獣骨・貝類等が出土した土坑も見られる。これらの中から特徴的な土坑について記載する。

①土坑124 (図面21)

I区A面DD43から検出された。土坑125と重複関係にあるが、前後関係は不明である。規模は約3.3×1.1mの不整形で、底面は平坦となる。内部からは多量の遺物が出土しており、瀬戸。美濃系陶器の小碗、仏飯器、擂鉢・灯明受け皿・小瓶、唐津系の小碗、肥前系磁器の中碗・蕎麦猪口・うがい茶碗、瀬戸・美濃系磁器の中碗蓋、産地不明の土鍋・火鉢・焜炉等が見られ、18~19世紀と推定される。

②土坑269 (図面33)

IV区A面DT18から検出された。規模は約1.4×1.3の楕円形を呈し、深さは約1.3mである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦となる。内部からは多量の遺物が出土しており、瀬戸。美濃系陶器の中碗。小碗・小皿・捏鉢・灯明皿・灯明受皿・擂鉢・仏花瓶、肥前系磁器の中碗・小碗・中皿・小皿、不明銅製品が見られる。

③土坑274(図面10)

IV区A面DV18で検出した。規模は約1.8×1.2の楕円形を呈し、検出面からの深さはおよそ50cmである。 壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。内部からは葵文鼈甲製櫛、瀬戸・美濃系陶器の中碗・小碗・香炉・瓶・仏飯器・火もらい、肥前系磁器の中皿が出土しており、18世紀と推定される。出土遺物中、火もらい底部には「ガ」墨書がある。

④土坑537(図面26)

II 区B面DQ41から検出された。周囲を土坑455・499・567等に切られているため全体形を窺うことができない。確認された規模は約4.1×2.6mの不整形で、底面は平坦である。内部からは多量の遺物が出土しており、瀬戸・美濃系陶器の中碗・片口・水滴・小杯、肥前系陶器の中碗・小碗、唐津系の中皿・中碗、肥前系磁器の小杯・中碗・小碗・青磁鉢、青花大皿、焼塩壷、碗形流動滓、巻貝などが見られ、17~18世紀と推定される。

⑤土坑700 (図面13)

II 区B面DN01で検出した。周囲が他土坑によって破壊されているが、調査区内での規模は長径2.7×短径1.9mの不整径を呈し、検出面からの深さはおよそ80cmである。壁はやや内傾気味で、底面は平坦である。遺物は瀬戸・美濃系陶器の小碗・擂鉢、青花皿、鉄製品が出土している。

⑥土坑1041·1043·1044(図面14)

Ⅲ区B面CD25を中心に検出された。重複関係からごみ坑が規模・形態を変えながら同じ場所で繰り返し造作された例として記載する。

土坑1043は土坑1044・1041と切り合い関係にあり、最も新しい。周辺には大小様々な土坑が近接する。 土坑1043は長径2.2×1.8mのほぼ方形を呈し、検出面からの深さはおよそ70cmである。土坑底面は平坦 で、内部に建物基礎と推定される長径1.7×短径0.4mの長方形の割石が投棄されていた。この他の遺物 として瀬戸・美濃系陶器の中碗や肥前系磁器の中碗が出土しており、18世紀と考えられる。

土坑1041は長径4×短径2mの不整径な土坑で、検出面からの深さはおよそ1mである。17世紀の遺物が出土した土坑1039•1046•1095を切る。底面は平坦で、内部からは少量の陶磁器片が出土しているが、細片のため時期等不明である。

土坑1044は前記2基の土坑により破壊され、南壁部分が残存するに過ぎない。遺物には京・信楽系の灯明皿、備前系の徳利、青花片、土鍋、銅・鉄製品等が出土している。

(7) 大火灰掻き坑

第Ⅱ章第3節で述べてきたとおり、飯田城下町では江戸時代から昭和まで大火が頻発している。こうした大火後の焼土等を廃棄した土坑を大火灰掻き坑として扱う。規模・形状は様々であるが、共通点として焼土・壁土等を遺構埋土に多量に含むことが挙げられる。土坑131・132・238・240・281・292・351・408・461・513が該当し、出土遺物は18~20世紀の陶磁器類が主体に見られる。これらのうち代表的な事例を記載する。

①土坑292(図面11)

IV区A面DY15から検出された。東側を一部土坑239に切られる。規模は約3.5×2.6mの不整形で、検出面からの深さは50cmである。壁は斜めに立ち上がり、底面は平坦である。埋土は焼土が主体となり、炭化物や灰が混入し、検出面から底面まで同一な状態であったため、一度に埋め戻されたと推定される。出土遺物には肥前系陶器中碗等が見られる。

②土坑240 (図面31)

IV区A面DX16から17にかけ検出された。規模は約4.6×2.4mの不整形で、底面は平坦となる。埋土は焼土が主体で、多量の炭化物や灰が混入し、検出面から底面まで同一な状態であったため一度に埋め戻されたと推定される。出土遺物は多く、瀬戸・美濃系陶器の中碗・擂鉢・壷・火鉢・合子・火もらい・人形・仏花瓶、京・信楽系の中碗、肥前系磁器の中碗・小碗・中皿・小杯・碗蓋・蕎麦猪口、焼塩壷、灯明皿、不明銅・鉄製品、煙管、銭貨が見られる。遺物は18世紀と考えられるが、銅・鉄製品・銭貨は焼けて変形しており詳細は不明である。火もらい・人形・仏花瓶の底部には墨書が見られ、特に火もらいは土坑274と同じ「ガ」が記されている。

③土坑238 (図面10)

IV区A面DV16から検出された。土坑266に北側を切られる。規模は約1.4×1mの円形と推定され、底面は平坦となる。検出面からの深さはおよそ40cmで、内部に多量の焼土・炭化物・灰が見られ、一気に埋め立てられている。出土遺物には植木鉢・瓦・壁材・碍子等が見られ、状況から飯田大火時の灰掻き坑と考えられる。

④土坑513 (図面12)

Ⅱ区B面DW41で確認された。他遺構との重複等で規模は不明であるが、検出面からの深さはおよそ40cmである。土坑内部には焼土が多量に見られ、遺物には瀬戸・美濃系陶器の中碗・中皿・擂鉢、肥前系磁器の中皿・小皿・小碗等が出土しており、18世紀と推定される。

(8) 水琴窟

①土坑370 (図面11 写真図版17)

Ⅱ区A面DP01から検出された。重機での表土剥ぎの段階で底部に穿孔のある大甕が確認され、その構造から水琴窟と判断した。このため実際の検出面はほぼ現地表面に近い。掘り方の規模は長径90㎝、短径78㎝、深さ60㎝の楕円形を呈し、断面形はU字状となる。U字状の底面は平坦に埋め戻されているが、小石等は敷かれていない。掘り方内部に設置された甕は口縁部径68㎝、器高61㎝、底部径28㎝で、底部ほぼ中央部に穿孔が見られるが、重機作業中に確認されたため、穿孔部が欠損し、半分程度しか確認できない。残存部から推定する穿孔は直径3㎝程度である。甕は掘り方北壁に接して埋設され、南側は拳大の礫等で充填されている。甕の内部は中空となり、底面には1㎝程度細かな砂が堆積していた。砂の内部からはビー球2個、江崎グリコ社製菓子に付属した陶製玩具(軍艦・城門)が検出された。遺構の検出状況と遺物から20世紀と推定される。

(9) 柱 穴

直径20cmから1m程度と規模は様々であるが、内部に柱痕や根石を持つものを建物柱穴と判断した。各地区第二検出面であるB面からの検出事例が多く、特に、区A・B両面で顕著に確認されている。しかしながら柱穴の配置から建物を推定することはできなかった。また遺物も少なく時期の否定が困難であるがB面に多く確認されていることから江戸初期もしくは中世に遡る可能性もある。

(10) 用途不明な土坑

①土坑1057 (図面15 写真図版22)

Ⅲ区B面CC23から検出された。上面に建物基礎である石列19が作られている。長径約3×短径2.1mの不正形を呈し、南側に30cmほどの溝が延びる。当初直径2m程度の円形土坑として調査したが、掘り進める段階で北側に1.2m程度の張り出し部が確認された。張り出し部には半月形の昇降施設が掘り込まれている。検出面からの深さはおよそ80cmで、底面は平坦となり中央部に北東から南西方向へ幅15cm、深さ20cm程度の溝が掘り込まれている。溝の北側の昇降施設付近には20cm程度の礫が溝を覆うように組まれ配置されている。溝の断面形はU字状で内部に木質部が残存し、砂が堆積していた。溝の中央付近には一辺40cm程度の方形の穴が掘り込まれ内部には砂が見られた。また土坑の壁直下にも底面周囲を取り巻くように幅20cm程度の溝が掘り込まれている。中央部の溝等に川砂の堆積が見られることから、排水施設等の水に関連する施設と推定されるが、類例がなく用途は不明である。出土遺物には瀬戸・美濃系陶器の天目茶碗・中皿・小皿・擂鉢・茶壷や、肥前系磁器の中碗等が見られ、17~18世紀と考えられる。

第3節 遺 物

第1項 縄文時代から平安時代の遺物

1) 縄文時代の遺物 (図面40-1~5)

Ⅲ・IV区中心にグリットから出土している。出土層位はいずれもローム漸移層にあたる。意向は確認されていない。1は縄文時代前期前半の木島式。2~5は中期末葉の土器である。いずれも小破片であるため詳細は不明である。

2) 弥生時代の遺物 (図面40-6~9)

方形周溝墓の周溝およびグリットから出土している。櫛状工具による波状文が施されるもの(6)も みられる。小片のため詳細は不明であるが、弥生時代後期の中島式と考えられる。

3) 古墳時代から平安時代の遺物

道路遺構を構成する溝32から土師器片が少量出土している。小片のため時期等は不明である。

第2項 遺構出土の陶磁器類

飯田城下町遺跡からは土坑を中心に数多くの陶磁器類が出土している。その多くは破片で器種の判別が困難なものも多い。ここでは遺構ごとに主な出土遺物を概観したい。また、各土坑出土遺物の詳細は、土坑観察表を参考にされたい。

1) 土坑125 (図面42-2 写真図版73)

陶器は瀬戸・美濃系の灯明皿・灯明受け皿・擂鉢、肥前系の中碗・小皿が出土している。このうち灯明皿は10枚、灯明受け皿は6枚出土している。灯明皿はいずれも口径9.5cmから10cmで、内面および口縁部に灰白色の釉薬が掛けられ、体部外面は釉が拭き取られたような痕跡が見られる。また見込みにはピンの痕跡が5箇所見られるものと、全く見られないものがある。いずれの灯明皿も煤等の付着は見られず、未使用の状態で一括投棄された可能性が高い。灯明受け皿は口径9.5cmから10cmで、胎土や施釉すべて灯明皿と同一である。体部外側には、受け部の融着痕が観察される。いずれも使用痕が認められず、灯明皿と同様に一括廃棄されたと推定される。

図面42-2は口径10.2cm、器高5.7cmの広東碗である。口縁部・体部内面に圏線を施し、見込みには帆掛け舟が描かれる。体部外面には雁・帆掛け舟・山水が描かれている。この他に肥前系磁器の小皿が見られ、体部内面に草花文が施されており、底部は厚く重量感がある。

陶磁器類の様相は18世紀から19世紀と推定される。

2) 土坑196 (図面42-3~6 写真図版28)

陶器は瀬戸・美濃系の中碗・小杯がみられ、磁器には肥前系の中碗・中皿が出土している。陶器の中碗には平形と腰張形があり、平碗には見込み部分に草花文が施される。

肥前系磁器中碗(3)は口径10.3cm、器高5.7cmで、内面に赤色顔料が僅かに付着している。体部外面には梅文が施され、高台内部には圏線内に「大明年製」の記号化した銘が見られる。4も同様な意匠であるが、高台内部に銘は見られない。6は口径11cm、器高5.6cmで、見込み及び高台内には砂が残る。外面には竹あるいは笹が施されている。5は口径14.4cm、器高3cmの中皿である。口縁部が外反し、やや折縁状を呈する。見込みには折梅と竹、竹と重なる円弧内に牡丹が施される。体部外面には帆掛け舟・雲等を組み合わせた海浜図が描かれ、高台内には圏線が引かれ、内部に「富貴長春」の銘が記されている。陶磁器類の様相は17世紀から18世紀と推定される。

3) 土坑240 (写真図版28)

陶器には瀬戸・美濃系の中碗・擂鉢・壷・火鉢・合子・火もらい・人形・仏花瓶、鬢盥、京・信楽系の中碗がみられ、磁器には肥前系の中碗・小碗・小皿・小杯・碗蓋・蕎麦猪口が出土している。

京・信楽系の中碗は推定口径13.3cmで器高は不明である。内面には上絵で松と竹を描いている。瀬戸・美濃系の火もらいは器高12.5cm、高台径6.5cmの卵形で、高台は付け輪高台である。窓の部分は器形に合わせた丸みのある山形で、長径7.5×短径6.5cmを測る。取手は器の頂部から背面に粘土紐を貼付している。背面の頂部付近にも直径1cmの穴が3箇所穿孔されている。外面には高台付近まで飴色の釉薬が施され、内面も上半部に施釉される。また内面には僅かに黒色の付着物が観察される。無釉の高台内には「ガー」と墨書が見られる。同様に土坑274から高台内に「ガ」の墨書がある火もらいが出土しており注目される。この他に土坑240からは人形・仏花瓶底部に墨書が見られるが判読できない。

肥前系磁器の中碗・小碗は共に破片のため詳細は不明であるが、それぞれ草花文が施される。小皿は体部内面に太い圏文を施し、その内部をS字状の捻文で区画する。見込み中央にコンニャク判の五花弁が記され、高台内にかなり記号化した銘が見られるが判読できない。

陶磁器類の様相は18世紀と推定される。

4) 土坑274 (写真図版30)

陶器には瀬戸・美濃系の中碗・小碗・折縁皿・仏飯器・瓶・火もらいがあり、磁器には肥前系の中皿が出土 している。

瀬戸・美濃系の瓶は口径3cm、器高15cm、高台径5.3cmで、高台付近まで透明感のある灰釉が施釉され、 肩部に呉須絵が描かれる。高台内には墨書が見られるが判読できないが、小碗高台内に記される墨書と 同一の文字である。仏飯器は口径8.5cm、器高6cm、底部径が5cmで、底部付近まで透明感のある灰釉が 施釉され、口縁部には呉須絵が施される。土坑274からは同様な仏飯器が出土しており一対で破棄され たと推定される。火もらいは上半部が欠損するが、高台径は6.3cmである。体部外側は高台周辺まで飴 色の釉薬が施され、内面にも一部確認できる。高台内には「ガ」の墨書がみられる。おそらく土坑240 の火もらいと対になる可能性が高い。

肥前磁器の中皿は口径13.3cm、器高2.9cmで、体部内面に太い圏線を巡らし、内部はS字の捻紋で区画される。見込み中央部にはコンニャク判の五花弁が施される。また外面は二重に圏線が巡り、部分的に鳥と島が組み合わされ、極めて簡略化された文様が見られる。高台には砂が付着している。

陶磁器類の様相は18世紀と推定される。

5) 土坑269 (図面42-7~13 写真図版29)

陶器には瀬戸・美濃系の中碗・小碗・小皿・捏鉢・灯明皿・灯明受皿・擂鉢・仏花瓶等がみられ、磁器には肥前系の中碗・小碗・中皿・小皿が出土している。このうち肥前系磁器の中碗(7)は口径11.1cm、器高6cmで外面には草文(竹)と雁が描かれ、見込み部と高台内には砂が残っている。9・12も文様意匠が同一で、見込み部と高台内に砂が付着する。10は口径10.5cm、高さ5.8cmで外面に梅が描かれる。高台には砂目が残り、高台内には底裏銘があるが判読できない。11は口径10cm、器高5.7cmで、外面には草花文が描かれるが、内容ははっきりとしない。高台には砂が残っている。小皿(8)は口径12.5cm、器高3.5cmで、外面に圏線を描き、部分的に草文がみられる。内面胴部には草花文が巡らされ、見込み中央に五花弁がコンニャク判で施文される。器壁は厚く、重量感がある。13は口径10.8cm、器高2cmで、内面には海老が主な意匠として描かれる。高台内には宣徳年製の銘が見られる。小皿類にはこの他に菊花が描かれ、高台内部に記号化された大明年製の銘が見られるものがある。

陶磁器類の様相は17世紀から18世紀と推定される。

6) 土坑270 (写真図版29)

陶器類には瀬戸・美濃系の中碗・小碗・小杯・中皿・片口鉢・香炉・甕、肥前系の中皿、肥前京焼風陶器の 小碗、備前系壷等が見られ、磁器には肥前系のうがい茶碗が出土している。

瀬戸・美濃系陶器の中皿は口径13.5cm、器高3.7cmで、灰釉が胴部上半まで施釉され、高台は無釉である。口縁部を4ヵ所内側へ押し上げ、見込み中央部に印刻が施される。肥前系陶器の中皿は推定口径17cm、器高5.4cmの折縁形で、内面には青緑色の釉薬が施され、見込みは蛇ノ目釉ハギされている。高台は無釉で外面は灰白色の釉薬が施されている。内面には白色の付着物が残るが、成分等は不明である。肥前京焼風陶器の小碗はいずれも高台内に印銘が押されるが判読できない。

肥前系磁器のうがい茶碗は口径が復元できないが、器高は4.4cm、高台径は3.2cmである。内面に上絵で花弁等を施すが、詳細は不明である。

陶磁器類の様相は17世紀後半から18世紀と推定される。

7) 土坑301 (図面42-14-15 写真図版41)

陶器は瀬戸・美濃系の灯明受け皿・片口鉢が見られ、磁器は肥前系の小鉢等が出土している。14は口径14.5cm、器高5cmの青磁小鉢で、高台は蛇ノ目凹形高台である。高台中央には二重方形枠内に記号化された文字が見られるが判別できない。見込みには二重の圏線内に山水が施されている。15も口径14.5cm、器高5.1cmの青磁中鉢で高台・文様共に14と同一である。いずれの中鉢も底部が厚く、重量感がある。陶磁器類の様相は18世紀と推定される。

8) 土坑313 (図面43-4)

陶器には瀬戸・美濃系の中碗・小皿・片口鉢・擂鉢・人形?、肥前京焼風陶器の中碗、肥前系の中碗、産地 不明の中碗・小杯があり、磁器は肥前系の中碗・仏飯器が出土している。

肥前系陶器の中碗は推定口径12.5cm、器高6.8cmで、高台脇まで内外面に青緑色の釉薬が施される。肥前京焼風陶器の中碗は、高台内に印銘が押されるが判読できない。産地不明の中碗は推定径11cm、器高

5.7cmで高台脇まで全面に鉄釉が施されるが発色していない。胎土は赤色で、白色粒子や雲母片を含み 重量感がある。

肥前系磁器の中碗(4)は、最大口径10.2cm、器高5.8cmで、口縁部が楕円形に歪んでいる口縁部に圏線を2重に巡らし、体部には草花文と蝶を施している。高台には砂が残っている。

陶磁器類の様相は17世紀から18世紀と推定される。

9) 土坑353 (写真図版31)

小皿類(丸皿・菊皿・折縁皿・折縁ソギ皿)が出土している。いずれも瀬戸・美濃系と考えられる。丸皿には削り込み高台で灰釉が全面施釉されるものと、削り出し輪高台で長石釉が全面施釉されるものとがある。菊皿は削り出し輪高台で長石釉が全面施釉され、口唇部には煤が付着している。折縁皿は削り込み高台で、灰釉が全面施釉されている。底部には輪トチが付着している。

遺物の様相から16世紀末から17世紀初頭と推定される。

10) 土坑354 (写真図版31)

折縁ソギ皿・小杯・天目茶碗・大皿が出土している。折縁ソギ皿は削り込み輪高台で、灰釉が施釉され、内面底部は内ハゲされている。小杯は削り出し輪高台で長石釉が全面施釉される。天目茶碗は破片のみであるが、高台は削り込み輪高台である。いずれも瀬戸・美濃系と考えられる。大皿は内面に段が見られ、長石釉を施し、見込み部分に鉄絵を描いており唐津系と考えられる。

遺物の様相から16世紀末から17世紀初頭と推定される。

11) 土坑465 (写真図版33)

陶器には天目茶碗・丸皿・中碗・大鉢・中鉢が出土している。鉄釉が施された天目茶碗は、推定径11cm、器高7.7cmで、高台脇から斜めに立ち上がり、口縁直下で内傾気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。高台は削り出し高台で、高台内には円形に削り痕が残る。

長石釉が施された天目茶碗は推定径12cm、器高7cmで、高台脇から斜めに立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部に鉄釉により僅かに文様が見られるが、詳細は不明である。

中碗は口径11.7cm、器高7.5cmの杉形で、全面に灰釉が施される。丸皿は削り込み高台で灰釉が全面施 釉される。底部にはピンが融着している。中碗は長石釉が施され、胴下半部は露胎している。

大鉢は推定形28cm以上で、灰釉が全面施釉される。高台は削り出し輪高台で、口縁部は短く外反し、口唇部が立ち上がる。内面には櫛状工具による波状文が施され、トチンの痕跡が2箇所に残る。

中鉢は口径14cm、器高6.5cmを測り、灰釉が施釉される。高台は付け輪高台で、口縁部が短く外反し口唇部が立ち上がる。内面には刻線で草文が4つ一単位で3箇所に施される。いずれも瀬戸・美濃系と考えられる。

磁器には小杯・中碗が見られる。小杯は端反形であるが、破片のため法量は不明である。体部には帆掛け舟と雲が施されており、おそらく海浜風景を描いていると推定される。中碗も破片のため法量は不明である。体部には牡丹が施されている。

陶磁器類の様相から17世紀と推定される。

12) 土坑505 (写真図版35)

折縁皿・天目茶碗・向付・小瓶・輪花皿・白磁小皿・青花皿が出土している。折縁皿は口径12cmで、灰釉が施され、内面底部は内ハゲされている。高台は削り出し輪高台で、底部には輪トチの剥離痕がみられる。また内面には煤が厚く付着している。天目茶碗は削り出し輪高台で、内外面に鉄釉が施され黒褐色を呈する。高台及び胴下部は露胎で、長石粒が特徴的に見られる。向付は口径8.5cmの入隅四方形に整えられた角向付である。高台は削り込み高台で輪トチの痕跡が残る。外面には草文が鉄釉で描かれるが発色が悪く不明瞭である。陶器類はいずれも瀬戸・美濃系と考えられ、様相から16世紀末から17世紀初頭と考えられる。

13) 土坑537 (写真図版34)

陶器には瀬戸・美濃系の中碗・片口鉢・水滴・小杯・小皿等、肥前京焼風の中碗、唐津系の中皿等が見られ、磁器類には肥前系の小碗・中碗・小杯・青磁鉢や中国青花大皿片が出土している。このうち唐津系の中皿は3枚みられ、いずれも口径14cm、器高4cm前後で口縁部は外反し、高台を含め全面に灰白色の釉薬が掛けられている。また、見込みと高台端部には砂目積み痕が見られる。

肥前系磁器の小碗は口径8.8cm、器高4.5cmで外面に山水文が2単位描かれ、高台には砂目が残る。中碗は口径11cm、器高6cmで円文内に海浜風景・山水文が描かれている。小杯はいずれも端反形で、外面に帆掛け舟等を描き、高台内の方形枠内に変形字が記されるものと、外面に草花文を描き、高台内部に宣明年製の底裏銘が見られ、高台端部には砂が付着するもの等が出土している。

陶磁器類の様相は17前半から18世紀と推定される。

14) 土坑892 (写真図版35)

折縁皿・皿・擂鉢・青花片がみられる。折縁皿は削り出し輪高台で輪トチが付着する。灰釉が施され内ハゲにし、内側面には菊花の押印が巡らされる。内面底部には煤が付着する。皿は底部のみのため器種が不明であるが灰釉が施され、底部内外面は釉が拭き取られている。擂鉢は口縁部を外に折り返している。これらの皿類・擂鉢は瀬戸・美濃系と考えられる。青花片は小片のため器種は不明である。遺物の様相は16世紀末から17世紀前半と考えられる。

15) 土坑893 (写真図版36)

小皿類(丸皿・折縁皿・稜皿等)が見られる。丸皿は削り出し輪高台で灰釉が全面施釉され、底部に輪トチが付着している。折縁皿は付け輪高台で灰釉が施され内ハゲにしている。また内側面に菊花?の押印が見られる。稜皿は削り込み高台で灰釉が全面施釉される。この他に長石釉が施され口唇部が波状になる皿も見られる。いずれも瀬戸・美濃系で遺物の様相から16世紀末から17世紀初頭と考えられる。

16) 土坑897 (図面44-1·2 写真図版37)

陶器には瀬戸・美濃系の大碗・中碗・小皿・壷蓋・香炉・鬢盥、唐津系の中碗、肥前系の大碗、肥前京焼風陶器の中碗が見られる。このうち瀬戸・美濃系の小皿は折縁皿と丸皿が見られ、折縁皿は口径10.5cmで灰釉が施釉され、内面は内ハゲで、削り出し輪高台の内部には輪トチが融着している。

丸皿は口径10cmで、灰釉が全面施釉され、見込み中央には菊花が刻印されている。高台は付け輪高台で、内面に輪トチが融着している。肥前京焼風陶器の中碗には高台内部に「木下弥」刻印が見られる。

磁器には肥前系の極小皿・小杯・大皿・角皿・盤・青磁中皿、中国青花皿等が出土している。このうち小杯は端反形で山水文を施すものなどが見られ、高台内部には宣明年製や方形枠内に不明文字を施すものがある。

極小皿は器形が復元できたものが7個体あり、いずれも口径5.5cm、器高1.3~1.5cmで、菊花状に整えられ、見込みには上絵で蝶が描かれる。この他にも同様な破片が多数認められる。

2は口径18.5cm、器高3.4cmの角皿である。口唇部には口紅がみられ、見込みには雲・山・岩山・梅・竹・獅子が組み合わされた文様が施される。また口縁部及び高台の側面には幾何学文が施され、高台内には二重方形枠内に「福」字銘がみられ、ハリの痕跡が3箇所確認できる。

1は推定口径34cm、器高7cmの大皿である。腰部から丸みをもって立ち上がり、口縁部は外反して鐔状になる。口縁部には草花文が全周し、腰部内面には圏線が巡らされる。見込みには椿が描かれる。青磁中皿は推定径25cm、器高4.5cmで、高台内部は蛇ノ目状に釉剥ぎされている。釉剥ぎされた部分には円形に窯道具の痕跡が残る。この他に山水を上絵した盤も出土している。

陶磁器類の様相は17世紀から18世紀と推定される。

17) 土坑1043 (図面43-7・8 写真図版36)

陶器は瀬戸・美濃系の小碗・蓋物・片口鉢・蓋、京・信楽系の徳利がみられ、磁器は肥前系の中碗・小皿・小瓶が出土している。このうち瀬戸・美濃系陶器の小碗は口径9cm、器高5.8cmで、口縁部付近に呉須絵が施されている。蓋物は口径8.8cm、器高5.6cmの半筒形で、底面は施釉されていない。徳利は体部がへこむ、ペこかん徳利で、底部以外に鉄釉が施されている。

肥前系磁器のうち中碗(7)は、推定口径11.2cm、器高6cmで、見込みは蛇ノ目状に釉剥ぎされている。体部外面には草花文が施され、高台には砂が残る。また小皿(8)は口径13.8cm、器高3cmで、見込みは蛇ノ目状に釉剥ぎされており、見込み中央には五花弁のコンニャク判が施されている。底部は厚く、重量感がある。小瓶は口縁部を欠いているが、現存器高5cm、高台径2.8cmを測り、体部に梅花文と松葉文が施されている。

陶磁器類の様相は18世紀と推定される。

18) 土坑1045 (写真図版38)

陶器類には瀬戸・美濃系の中碗・擂鉢・徳利、唐津系の中碗がみられ、磁器には肥前系中碗、中国青花片が出土している。瀬戸・美濃系の中碗は口径11.2cm、器高7.5cmで、口縁部に呉須絵が施されるが、意匠は不明瞭である。高台は付け輪高台で、全面に釉薬が施されている。擂鉢は推定口径27.5cm、器高12cmで、口縁部が折り返し状に肥厚する。唐津系の中碗は口径11cm、器高5.8cmで、胎土は赤色で、内外面に刷毛目が見られ、高台には砂目が付着している。

肥前系磁器の中碗は口径10.8cm、器高6cmで、外面に草花文と雁が施されており、高台内部には圏線内に「大明年製」の記号化された銘が記されている。

陶磁器類の様相は17世紀から18世紀と推定される。

19) 土坑1064

丸皿・擂鉢・甕が出土している。丸皿には削り出し輪高台で長石釉が全面施釉されるものと、削り込み 高台で灰釉が施され内ハゲにするもの等が見られる。擂鉢は口縁部を外に折り返している。小皿類及び 擂鉢は瀬戸・美濃系と考えられる。甕は常滑系で、口縁部を外に折り返し肥厚させている。

甕は古い様相を呈するが、その他の遺物は16世紀末と考えられる。

20) 土坑1084 (写真図版45)

小皿類(丸皿・折縁皿)が見られる。丸皿は削り込み高台で灰釉が施され内面底部は内ハゲにしている。底部には輪トチの痕跡が残る。折縁皿は削り込み高台で鉄釉が全面施釉される。いずれも瀬戸・美濃系で、遺物の様相から16世紀末と推定される。

21) 井戸址10 (図面45-1~3 写真図版39)

陶器は瀬戸・美濃系の中碗・中皿・乗燭・灰吹きが見られ、磁器は肥前系の中皿・小皿が出土している。 このうち瀬戸・美濃系陶器の中皿は見込みが蛇ノ目状に釉剥ぎされる。

肥前系磁器の中皿(1)は口径22cm、器高4.5cmの輪花形で、見込み中央部に花唐草を施し、体部内面には花唐草を主文様とする区画間がみられ、区画割には薄文と雁・帆掛け舟・草木を組み合わせた文様が対に施されている。また、外面には菊唐草文が施され、高台内には「宣陸製」と銘が見られる。2も法量・文様が同一でおそらく一対の皿と推定される。小皿(3)は口径10.5cm、器高2.2cmで、見込みには圏線の中央部に五花弁のコンニャク判が施され、内面には幾何学文が施される。体部外面には草花文が全周する。高台には砂目が僅かに残る。

陶磁器類の様相は18世紀と推定される。

第3項 その他の遺物

ここでは飯田城下町遺跡出土の陶磁器類以外の主要遺物について概観する。

1) 焼塩壷 (図面40-10~16 写真図版50)

土坑240、274、537、660、670、809、838から出土している。平成11年調査区に近接するIV区に集中しているが、個体数は少なく、身部分で蓋は出土していない。完形品は土坑670出土の1 固体(13)のみで、他は破片である。12は浅桶形で、一つの粘土塊から整形され、内面には整形痕が顕著に残る。平成11年度調査区からも同様な焼塩壷が出土している。14・16は口縁部形態及び胴部の粘土接合痕から I 類(江戸遺跡研究会編 2001)と考えられる。いずれも著しい二次焼成が観察される。10・11は口縁部の調整から II 類と考えられるが、破片のため刻印の有無は判別できない。

2) 土師質皿 (図面40-17~24、図面41-1~4 写真図版50)

土師質の土器皿を一括している。土坑145·188·223·326·326·397·505·506·595·621·714·743·750·928·952·991·1046·1064等から出土している。この内実測可能な遺物を図示した。胎土·法量·底部の糸切痕から次の3分類が可能である。

図面40-17は口径が11.5cmで、底部から丸みを帯びて立ち上がり、口唇部が平坦となる。やや硬く焼き締められ、胎土に粗大な長石粒を特徴的に含んでいる。底部には回転糸切痕が見られ、ロクロの回転方向は右と考えられる。図面40-18~22は口径が10~12cmで、底部から直線的に外傾し、口唇部が丸くなる。細かな雲母片を特徴的に含み、いずれも回転糸切痕がみられ、ロクロの回転方向は左である。図面40-23・24、図面41-1~4は口径が7.5~11cmで、器高が低く浅い。器壁は薄く、いずれも精選された緻密な胎土で、底部には回転糸切痕が見られ、ロクロの回転方向は右である。口唇部に煤が付着するもの(3) や、底部中心に穿孔が見られるもの(1) がある。

3) 鉄製品・銅製品(図面41-5~7 写真図版50)

土坑内から鉄製品・銅製品が断片的に出土しているが、鉄製品には釘等が見られるが、錆が進み表面観察のみでは詳細が不明なものが多い。一方、銅製品は多くが被熱し、細片となっているため詳細が不明なものが多い。このうち土坑102・240・380・838・889から煙管雁首・吸い口が出土している。また、土坑76・725・遺構外から柄鏡片が出土している。土坑275出土柄鏡(6)は地文が砂目地で、梅樹が描かれている。被熱し変形している。土坑76出土の5は地文が平地で絵柄は確認できない。薄い作りで柄部が被熱し変形している。遺構外出土の7は地文が砂目地で梅樹が描かれている。被熱を受け変形している。この他に遺構外から分銅、小柄の柄部分が出土している。

4) 坩堝・フイゴ羽口

坩堝はⅢ、Ⅳ区のみに見られ、土坑196・197・256・621・893からが出土している。土師質と、陶器の小皿を転用したものが見られる。土師質の坩堝は口径3.5~8cmで、胎土に長石粒を多量に含んでいる。土坑621出土の坩堝には僅かに緑青が付着している。土坑621・893からは瀬戸・美濃系の灰釉小皿を転用した坩堝が出土している。フィゴ羽口は土坑377から出土しているが細片である。

5) 鉄滓

土坑313·505·537·566から出土し、地区別ではⅡ区に集中している。土坑313では碗形流動滓が1.5kg、 土坑505では碗形流動滓が0.8kg、土坑537では碗形流動滓・鉄滓が2.5kg、土坑566では鉄滓が1.3kgそれぞ れ出土している。

6) 銭貨

寛永通宝の他は銹化が著しいものや、大火に遭って溶着しており銭貨の種類を同定することができない。土坑127・131・145・151・233・240・258・265・326・377・757・855・914・931・1057から出土が見られる。

7) 木製品

土坑246・265から桶底、土坑523・566・621・838・893・991・1004・1052から漆皮膜が出土している。漆皮膜はすべて漆器碗と推定され、内外赤漆のものが多く、黒漆は1点だけである。いずれも皮膜の小片で詳細は不明である。

8) 動物遺存体

土坑188·537·711から巻貝類、土坑712から動物骨、土坑595から馬歯が出土している。巻貝類は食用と推定される。平成11年度調査区から多量に出土しているハマグリ、アカニシ貝は出土していない。馬歯は飯田城跡でも出土している。

9) 石製品

土坑275。313から硯が出土しているが、破片のため全体の形状等の詳細は不明である。

10) 鼈甲製櫛 (写真図版48)

土坑274から出土した。共伴する陶磁器類は18世紀代である。もろく壊れやすいため実測することができなかった。鼈甲製の櫛で、表裏に金蒔絵で葵紋等を描いている。詳細は第IV章で記述している。

遺物に関する参考文献

平凡社 1980 『日本やきもの集成』 2 。 3

愛知県陶磁資料館 1984 『近世城館跡出土の陶磁』

佐賀県立九州陶磁文化館 1984 『国内出土の肥前陶磁』

大橋康二 1989 『肥前陶磁』ニュー・サイエンス社

新宿区立新宿歴史博物館 1990 『江戸のくらし』

東京都建設局。新宿区内藤町遺跡調査会 1992『内藤町遺跡』

大橋康二 1994 『古伊万里の文様』 理工学社

江戸遺跡研究会 2001 『図説 江戸考古学研究辞典』

飯田市教育委員会 2001 『飯田城下町遺跡』

岐阜県土岐市教育委員会。(財) 土岐市埋蔵文化財センター 2002 『元屋敷陶器窯跡発掘調査報告書』

土岐市美濃陶磁資料館 2003 『織部の流通圏を探る』東日本

土岐市美濃陶磁資料館 2004 『織部の流通圏を探る』西日本

財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 2004 『江戸時代の瀬戸・美濃窯』

財団法人瀬戸市文化振興財団 2006 『江戸時代の瀬戸・美濃』

土坑観察表(1)

sĸ			* 4X \	-/							
⊢—	s NO	N K	検出位置	長径×短径×深 cm	形態	陶器()内は形状等の特徴を示す	磁器()内は形状等の特徴を示す	土器	その他遺物	遺物年代	備考
⊢—	<u> </u>	4_				【 】内は産地を示す	【】内は産地を示す				
	+	\rightarrow	DA45	(98) × 96 × 36	不明	擂鉢【瀬戸·美濃系】					
SK	+	+	DB45	(138) × 81 × 39	不整形	擂鉢【瀬戸·美濃系】			鉄製品		
SK	74	1 1	DB45	$(180) \times (138) \times 42$	不明	植木鉢				20C	
SK	75	<u> </u>	CY44	(34) × 48 × 22	不明						
SK	76	i L	CY44	(66) × (50) × 26	不整形				銅製品		
SK	77	, I	CY45	(28) × 28 × 15	不整形						
sк	78	I	CY44	(40) × 38 × 61	不整形		· - · ·				
sк	79	1	DA44	32 × 24 × 30	不整形	碗蓋【瀬戸・美濃系】	小碗【瀬戸·美濃系】			19C以降	
sĸ	80	+	CY44	27 × 20 × 17	楕円形		7 334 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24			100214	
SK	82		DA43	50 × 32 × 15	楕円形	-					
	+	+-					101-11-11			 	
SK	+		DA42	88 × 57 × 71	不整形	Mark of Fig. 19 and 19 and 19	***************************************			<u> </u>	
SK		+	DA44	(116) × (60) × 41	不明	燗徳利【京·倡楽系】				18~19C	
SK		1	DC44	138 × 108 × 18	楕円形	半胴甕【瀬戸·美濃系】	小碗(端反碗)【瀬戸·美濃系】			19C	
SK	86	1	DD47	46 × 41 × 32	円形						
sк	87	<u>' </u>	DD47	134 × (100) × 93	不整形						
sĸ	88	1	DD46	162 × (76) × 75	不明	小皿·中皿·鉢·中碗【瀬戸·美濃系】	中碗【肥前系】			17~18C	
sк	89	1	DD47	165 × (100) × 123	不明	大皿·鉢【瀬戸·美濃系】			鉄製品	18~19C	
sк	90	1	DE47	108 × 58 × 10	楕円形				鉄製品		
SK	91	1	DA42	(121) × (104) × 29	不整形	擂鉢【瀬戸·美濃系】			\$T		
SK		+	DE46	39 × 31 × 28	楕円形	小皿【瀬戸・美濃系】				16末~17C	
	+			$(71) \times 78 \times 89$			中間に開発を		 		-
SK	+	+	DD46		不明	中碗【瀬戸·美濃系】、【京·信楽系】	中皿【肥前系】			17~18C	<u> </u>
SK	94	-	DE46	68 × 27 × 37	楕円形				Au au =		ļ
SK	95		DE47	73 × (30) × 17	不明				鉄製品		
SK			DE46	50 × 39 × 27	楕円形						
SK	97	1	DE47	(65) × (55) × 26	不明	擂鉢【瀬戸·美濃系】			鉄製品		L
SK	98	1	DE47	63 × 52 × 25	円形						
SK	99	I	DE47	92 × (53) × 26	不明						
sк	100	0 1	DE47	(162) × (78) × 35	不明	中碗【瀬戸·美濃系】	18C以降				
sĸ	101		DE47	31 × (22) × 32	不明					-	
SK	-	-	DE47	(40) × (37) × 14	不明	小碗【唐津系】、中碗【京·信楽系】	中碗【肥前系】	 	煙管	17~18C	
SK			DF47	105 × 62 × 33				-		17~160	
					不整形	植木鉢【瀬戸·美濃系】 	中碗·碗蓋【肥前系】	-	\$T		
SK	104		DF47	54 × 49 × 15	円形						
SK	105	-	DE44	(49) × (17) × 46	不明	大碗【瀬戸·美濃系】				17~18C	
SK	106		DF44	(57) × (49) × 44	不明	大皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】				17~18C	
SK	107	7 1	DE44	74 × (47) × 77	不明	擂鉢【瀬戸·美濃系】	中碗【瀬戸・美濃系】				
sĸ	108	ВІ	DE44	128 × (70) × 41	不明				土器片	弥生時代	
SK	109	9 1	DF45	(130) × (72) × 42	不整形						
SK	110	0 1	DF44	40 × 30 × 35	楕円形	中碗【瀬戸·美濃系】				18~19C	
ѕк	111	1 1	DF44	32 × 30 × 15	円形						
SK	112	2 1	DF45	(168) × 136 × 27	不整形	麼【常滑系】、壺蓋【瀬戸·美濃系】				18~19C	
SK	+		DF44	105 × 76 × 35	楕円形	小碗【瀬戸·美濃系】				18~19C	
SK	-	_	DF44	60 × 54 × 67	円形	擂鉢【瀬戸・美濃系】				18.4.190	
		-	-		 						
SK	+	5 1		59 × (34) × 63	不明	蓋物【瀬戸·美濃系】	1				1
SK	116	6 -	DG45	82 × 35 × 34				火鉢			
ي ا	117	1		02 × 33 × 34	不整形			火鉢			
ısr	1	7 1	DF43			中碗【瀬戸・美濃系】、小碗【肥前京焼風】	中鉢(上絵付会彩)[即前系]	火鉢		18~190	
SK		7 1		(90) × (84) × 100		中碗【瀬戸·美濃系】、小碗【肥前京焼風】 灯明受皿【京·信楽系】、乗燭、水盤、水差	中鉢(上絵付金彩)【肥前系】	火鉢		18~19C	
SK	118	_	DF43				中鉢(上絵付金彩)【肥前系】	火鉢		18~19C	
	+	ВІ	DF43	(90) × (84) × 100	不整形		中鉢(上絵付金彩)【肥前系】 碗(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器)	火鉢		18~19C	
SK	119	B I	DF43	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11	不整形			火鉢			
S K	119	B I 9 I 0 I	DF43 DF43	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15	不整形 円形 不明			火鉢	鉄製品		
SK SK SK	119 120 121	B I 9 I 0 I 1 I	DF43 DF43 DF43 DE43	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13	不整形 円形 不明 不明 円形	灯明受皿【京·倡楽系】、乗燭、水盤、水差	碗(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿【瀬戸・美濃系】	火鉢	鉄製品	19C	
S K S K	119 120 121	B I 9 I 0 I 1 I	DF43 DF43 DF43 DE43	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31	不整形 円形 不明 不明	灯明受皿【京·倡楽系】、乗燭、水盤、水差 土鍋	碗(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿【瀬戸・美濃系】 杯【肥前系】			19C	
SK SK SK	119 120 121 122	8 I 9 I 0 I 1 I 2 I	DF43 DF43 DF43 DE43 DE42	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13	不整形 円形 不明 不明 円形	灯明受皿[京·信楽系]、集燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器、摺鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿【瀬戸・美濃系】 杯【肥前系】 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗	土鍋·火		19C	
SK SK SK SK	119 120 121 122 124	8 I 9 I 0 I 1 I 2 I	DF43 DF43 DF43 DE43 DE42	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83	不整形 円形 不明 不明 円形	灯明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器、擂鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿【瀬戸・美濃系】 杯【肥前系】 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 【肥前系】・中碗後(瀬戸・美濃系】			19C 19C 18C	
SK SK SK SK SK	119 120 121 122 124	8 I 9 I 0 I 1 I 2 I 4 I	DF43 DF43 DF43 DE43 DE42 DD43	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83 × ×	不整形 円形 不明 不明 円形 不明 不明	対明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器、擂鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】 灯明皿・灯明受け皿・擂鉢【瀬戸・美濃系】、土瓶	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿[瀬戸・美濃系] 杯[肥前系] 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 [肥前系]、中碗盤(瀬戸・美濃系] 広東碗・小碗・中皿[肥前系]	土鍋·火	鉄製品	19C 19C 18C 19C	
SK SK SK SK SK	119 120 121 122 124 125 127	8 I 9 I 0 I 1 I 2 I 4 I 5 I	DF43 DF43 DF43 DE43 DE42 DD43	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83 × × 226 × (58) × 91	不整形 円形 不明 不明 不明 不明 不整形	対明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器、擂鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】 灯明皿・灯明受け皿・擂鉢【瀬戸・美濃系】、土瓶 小碗・小皿【瀬戸・美濃系】	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿【瀬戸・美濃系】 杯【肥前系】 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 【肥前系】・中碗後(瀬戸・美濃系】	土鍋·火		19C 19C 18C	
SK SK SK SK SK	119 120 121 122 124 125 127 128	8 I 9 I 0 I 1 I 2 I 4 I 5 I 7 I 8 I	DF43 DF43 DF43 DE43 DE42 DD43 DB43 DB46	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83 × × 226 × (58) × 91 (108) × (38) × 37	不整形 円形 不明 不明 円形 不明 不明	対明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器、擂鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】 灯明皿・灯明受け皿・擂鉢【瀬戸・美濃系】、土瓶	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿[瀬戸・美濃系] 杯[肥前系] 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 [肥前系]、中碗盤(瀬戸・美濃系] 広東碗・小碗・中皿[肥前系]	土鍋·火	鉄製品	19C 19C 18C 19C	
SK SK SK SK SK	119 120 121 122 124 125 127 128	8 I 9 I 0 I 1 I 2 I 4 I 5 I 7 I 8 I	DF43 DF43 DF43 DE43 DE42 DD43	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83 × × 226 × (58) × 91	不整形 円形 不明 不明 不明 不明 不整形	対明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器、擂鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】 灯明皿・灯明受け皿・擂鉢【瀬戸・美濃系】、土瓶 小碗・小皿【瀬戸・美濃系】	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿[瀬戸・美濃系] 杯[肥前系] 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 [肥前系]、中碗盤(瀬戸・美濃系] 広東碗・小碗・中皿[肥前系]	土鍋·火	鉄製品	19C 19C 18C 19C 18~19C 17~18C	
S K S K	119 120 121 122 124 125 127 128	BB I 1 1 1 1 1 1 1 1 1	DF43 DF43 DF43 DE43 DE42 DD43 DB43 DB46	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83 × × 226 × (58) × 91 (108) × (38) × 37	不整形 円形 不明 円形 不明 不整形 不整形	対明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器、擂鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】 灯明皿・灯明受け皿・擂鉢【瀬戸・美濃系】、土瓶 小碗・小皿【瀬戸・美濃系】	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿[瀬戸・美濃系] 杯[肥前系] 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 [肥前系]、中碗盤(瀬戸・美濃系] 広東碗・小碗・中皿[肥前系]	土鍋·火	鉄製品	19C 19C 18C 19C 18~19C 17~18C	
S K S K	119 120 121 122 124 125 127 128 129	BB I	DF43 DF43 DF43 DE43 DE42 DD43 DB43 DB46 DG46 CY44	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83 × × 226 × (58) × 91 (108) × (38) × 37 (57) × 57 × 25	不整形不明,不整形不整形不整形不明,不整形不明,不整形不明,	対明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器、擂鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】 灯明皿・灯明受け皿・擂鉢【瀬戸・美濃系】、土瓶 小碗・小皿【瀬戸・美濃系】	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿[瀬戸・美濃系] 杯[肥前系] 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 [肥前系]、中碗盤(瀬戸・美濃系] 広東碗・小碗・中皿[肥前系]	土鍋・火炉	鉄製品	19C 19C 18C 19C 18~19C 17~18C 20C	
S K S K	119 120 121 122 124 125 127 128 129 130	B	DF43 DF43 DF43 DE43 DE42 DD43 DB43 DB46 DG46 CY44	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83 × × 226 × (58) × 91 (108) × (38) × 37 (57) × 57 × 25 75 × 62 × 14	不整形	対明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器、摺鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】 灯明皿・灯明受け皿・摺鉢【瀬戸・美濃系】、土瓶 小碗・小皿【瀬戸・美濃系】 壺【唐津系】、風炉	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿[瀬戸・美濃系] 杯[肥前系] 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 [肥前系]、中碗盤(瀬戸・美濃系] 広東碗・小碗・中皿[肥前系]	土鍋・火炉	鉄製品 銭貨 鉄製品	19C 19C 18C 19C 18~19C 17~18C 20C	灰掻坑
S K S K	119 120 121 122 124 125 127 128 129 130 131		DF43 DF43 DF43 DE43 DE42 DD43 DB43 DB46 DG46 CY44 CY43	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83 × × 226 × (58) × 91 (108) × (38) × 37 (57) × 57 × 25 75 × 62 × 14 (300) × (203) × 77	不整形	対明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器、榴鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】 灯明皿・灯明受け皿・榴鉢【瀬戸・美濃系】、土瓶 小碗・小皿【瀬戸・美濃系】 壺【唐津系】、風炉	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿[瀬戸・美濃系] 杯[肥前系] 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 [肥前系]、中碗盤(瀬戸・美濃系] 広東碗・小碗・中皿[肥前系]	土鍋・火蜂・焜炉	鉄製品 銭貨 鉄製品 鉄製品 鉄製品,銭貨	19C 19C 18C 19C 18~19C 17~18C 20C 20C	灰掻坑
S K S K S K S K S K S K S K S K S K S K	119 120 121 122 124 125 127 128 129 130 131 132		DF43 DF43 DF43 DE43 DE42 DD43 DB43 DB46 DG46 CY44 CY43 DC47 DE44	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83 × × 226 × (58) × 91 (108) × (38) × 37 (57) × 57 × 25 75 × 62 × 14 (300) × (203) × 77 (94) × 70 × 46 177 × 85 × 40	不整形 円明明 不明明 不明形 不整整形 不整整形 不整明形 不整明形 不可明形	対明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器、摺鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】 灯明皿・灯明受け皿・摺鉢【瀬戸・美濃系】、土瓶 小碗・小皿【瀬戸・美濃系】 壺【唐津系】、風炉	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿[瀬戸・美濃系] 杯[肥前系] 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 [肥前系]、中碗盤(瀬戸・美濃系] 広東碗・小碗・中皿[肥前系]	土鍋・火炉	鉄製品 銭賃 鉄製品 鉄製品 鉄製品 銭賃 ガラス	19C 19C 18C 19C 18~19C 17~18C 20C 20C	灰掻坑
S K S K	119 120 121 122 124 125 127 128 129 130 131 132 133	Section Sect	DF43 DF43 DF43 DE43 DE42 DD43 DB43 DB46 DG46 CY44 CY43 DC47 DE44 DD44	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83 × × 226 × (58) × 91 (108) × (38) × 37 (57) × 57 × 25 75 × 62 × 14 (300) × (203) × 77 (94) × 70 × 46 177 × 85 × 40 (82) × (20) × 38	不整形 不明明不明明不 整 形不明明不 整 形不明明不 整 整 整 明 不 整 整 明 不 不 整	対明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器、榴鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】 灯明皿・灯明受け皿・榴鉢【瀬戸・美濃系】、土瓶 小碗・小皿【瀬戸・美濃系】 壺【唐津系】、風炉	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿[瀬戸・美濃系] 杯[肥前系] 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 [肥前系]、中碗盤(瀬戸・美濃系] 広東碗・小碗・中皿[肥前系]	土鍋・火蜂・焜炉	鉄製品 銭貨 鉄製品 鉄製品 鉄製品,銭貨	19C 19C 18C 19C 18~19C 17~18C 20C 20C	灰掻坑
S K S K	119 120 121 122 124 125 127 128 129 130 131 132 133 134 135	B I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	DF43 DF43 DF43 DE42 DD43 DB43 DB46 DG46 CY44 CY43 DC47 DE44 DD44 DS24	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83 × × 226 × (58) × 91 (108) × (38) × 37 (57) × 57 × 25 75 × 62 × 14 (300) × (203) × 77 (94) × 70 × 46 177 × 85 × 40 (82) × (20) × 38 107 × (52) × 23	不整形 不明明不明明不 整整形 不整整形 不明明不 整整形 不整整形 不整整明形 不整整明形 不整整明形 不可以形形 不可以形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形	対明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器、榴鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】 灯明皿・灯明受け皿・摺鉢【瀬戸・美濃系】、土瓶 小碗・小皿【瀬戸・美濃系】 壺【唐津系】、風炉 小杯【瀬戸・美濃系】 紅皿 甕【常滑】 急須	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿[瀬戸・美濃系] 杯[肥前系] 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 [肥前系]・中碗 超瀬戸・美濃系] 広東碗・小碗・中皿[肥前系] 小碗 (肥前系)	土鍋・火蜂・焜炉	鉄製品 銭賃 鉄製品 鉄製品 鉄製品 銭賃 ガラス	19C 19C 18C 19C 18~19C 17~18C 20C 20C	灰掻坑
S K S K S K S K S K S K S K S K S K S K	119 120 121 122 124 125 127 128 129 130 131 132 133 134 135	B I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	DF43 DF43 DF43 DE43 DE42 DD43 DB43 DB46 DG46 CY44 CY43 DC47 DE44 DD44 DS24 DS10	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83 × × 226 × (58) × 91 (108) × (38) × 37 (57) × 57 × 25 75 × 62 × 14 (300) × (203) × 77 (94) × 70 × 46 177 × 85 × 40 (82) × (20) × 38 107 × (52) × 21	不整形 不明明不明 不整整形 不整整形 不明明不 整整形 不整整明 不整整明 不	対明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器・溜鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】 灯明皿・灯明受け皿・摺鉢【瀬戸・美濃系】、土瓶 小碗・小皿【瀬戸・美濃系】 臺【唐津系】、風炉 小杯【瀬戸・美濃系】 紅皿 塵【常滑】 急須	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿[瀬戸・美濃系] 杯[肥前系] 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 [肥前系]、中碗盤(瀬戸・美濃系] 広東碗・小碗・中皿[肥前系]	土鍋・火蜂・焜炉	鉄製品 銭賃 鉄製品 鉄製品 鉄製品 銭賃 ガラス	19C 19C 18C 19C 18~19C 17~18C 20C 20C	灰掻坑
S K S K S K S K S K S K S K S K S K S K	119 120 121 122 124 125 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136	B I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	DF43 DF43 DF43 DE42 DD43 DB43 DB46 DG46 CY44 CY43 DC47 DE44 DD44 DS24 DS10 DT09	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83 × × 226 × (58) × 91 (108) × (38) × 37 (57) × 57 × 25 75 × 62 × 14 (300) × (203) × 77 (94) × 70 × 46 177 × 85 × 40 (82) × (20) × 38 107 × (52) × 23 167 × (73) × 21 (110) × 110 × 29	不 門 明 明 不 明 形 不 不 野 明 形 不 野 明 明 形 不 野 明 明 形 不 不 野 明 明 形 不 不 野 野 明 形 不 野 明 形 不 野 明 形 不 野 明 形 下 不 明 明 形 形 下 不 明 明 下 不 明 明	対明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器、榴鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】 灯明皿・灯明受け皿・摺鉢【瀬戸・美濃系】、土瓶 小碗・小皿【瀬戸・美濃系】 壺【唐津系】、風炉 小杯【瀬戸・美濃系】 紅皿 甕【常滑】 急須	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿[瀬戸・美濃系] 杯[肥前系] 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 [肥前系]・中碗 超瀬戸・美濃系] 広東碗・小碗・中皿[肥前系] 小碗 (肥前系)	土鍋・火蜂・焜炉	鉄製品 銭賃 鉄製品 鉄製品 鉄製品 銭賃 ガラス	19C 19C 18C 19C 18~19C 17~18C 20C 20C	灰掻坑
S K S K S K S K S K S K S K S K S K S K	119 120 121 122 124 129 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 138		DF43 DF43 DF43 DE42 DD43 DB43 DB46 DG46 CY44 CY43 DC47 DE44 DD44 DS24 DS10 DT09 DT09	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83 × × 226 × (58) × 91 (108) × (38) × 37 (57) × 57 × 25 75 × 62 × 14 (300) × (203) × 77 (94) × 70 × 46 177 × 85 × 40 (82) × (20) × 38 107 × (52) × 23 167 × (73) × 21 (110) × 110 × 29 108 × (67) × 25	不整形 不明明不明 不整整形 不整整形 不明明不 整整形 不整整明 不整整明 不	対明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器・溜鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】 灯明皿・灯明受け皿・摺鉢【瀬戸・美濃系】、土瓶 小碗・小皿【瀬戸・美濃系】 臺【唐津系】、風炉 小杯【瀬戸・美濃系】 紅皿 塵【常滑】 急須	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿[瀬戸・美濃系] 杯[肥前系] 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 [肥前系]・中碗 超瀬戸・美濃系] 広東碗・小碗・中皿[肥前系] 小碗 (肥前系)	土鍋・火蜂・焜炉	鉄製品 銭賃 鉄製品 鉄製品 鉄製品 銭賃 ガラス	19C 19C 18C 19C 18~19C 17~18C 20C 20C	灰掻坑
S K S K S K S K S K S K S K S K S K S K	119 120 121 122 124 125 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 138	B I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	DF43 DF43 DF43 DE42 DD43 DB43 DB46 DG46 CY44 CY43 DC47 DE44 DD44 DS24 DS10 DT09 DT09	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83 × × 226 × (58) × 91 (108) × (38) × 37 (57) × 57 × 25 75 × 62 × 14 (300) × (203) × 77 (94) × 70 × 46 177 × 85 × 40 (82) × (20) × 38 107 × (52) × 23 167 × (73) × 21 (110) × 110 × 29	不 門 明 明 不 明 形 不 不 野 明 形 不 野 明 明 形 不 野 明 明 形 不 不 野 明 明 形 不 不 野 野 明 形 不 野 明 形 不 野 明 形 不 野 明 形 下 不 明 明 形 形 下 不 明 明 下 不 明 明	対明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器・溜鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】 灯明皿・灯明受け皿・摺鉢【瀬戸・美濃系】、土瓶 小碗・小皿【瀬戸・美濃系】 臺【唐津系】、風炉 小杯【瀬戸・美濃系】 紅皿 塵【常滑】 急須	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿[瀬戸・美濃系] 杯[肥前系] 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 [肥前系]・中碗 超瀬戸・美濃系] 広東碗・小碗・中皿[肥前系] 小碗 (肥前系)	土鍋・火蜂・焜炉	鉄製品 銭賃 鉄製品 鉄製品 鉄製品 銭賃 ガラス	19C 19C 18C 19C 18~19C 17~18C 20C 20C	灰掻坑
S K S K S K S K S K S K S K S K S K S K	119 120 121 122 124 125 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 138 139		DF43 DF43 DF43 DE42 DD43 DB43 DB46 DG46 CY44 CY43 DC47 DE44 DD44 DS24 DS10 DT09 DT09 DS09	(90) × (84) × 100 52 × 50 × 11 (54) × (40) × 15 (84) × (56) × 31 54 × 52 × 13 (118) × (62) × 15 (332) × (110) × 83 × × 226 × (58) × 91 (108) × (38) × 37 (57) × 57 × 25 75 × 62 × 14 (300) × (203) × 77 (94) × 70 × 46 177 × 85 × 40 (82) × (20) × 38 107 × (52) × 23 167 × (73) × 21 (110) × 110 × 29 108 × (67) × 25	不 野 形 不	対明受皿[京·信楽系]、乗燭、水盤、水差 土鍋 小碗、仏飯器・溜鉢・灯明受け皿・小瓶【瀬戸・ 美濃系】、小碗【唐津系・片口鉢】 灯明皿・灯明受け皿・摺鉢【瀬戸・美濃系】、土瓶 小碗・小皿【瀬戸・美濃系】 臺【唐津系】、風炉 小杯【瀬戸・美濃系】 紅皿 塵【常滑】 急須	院(ヨーロッパ 銅版転写軟質磁器) 小皿[瀬戸・美濃系] 杯[肥前系] 中碗(広東碗)・蕎麦猪口・うがい茶碗 [肥前系]・中碗 超瀬戸・美濃系] 広東碗・小碗・中皿[肥前系] 小碗 (肥前系)	土鍋・火蜂・焜炉	鉄製品 銭賃 鉄製品 鉄製品 鉄製品 銭賃 ガラス	19C 19C 18C 19C 18~19C 17~18C 20C 20C	灰極坑

土坑観察表(2)

	几街					r					
週和名	NO	Z	検出位置	長径×短径×深 cm	形態	陶器()内は形状等の特徴を示す 【 】内は産地を示す	磁器()内は形状等の特徴を示す 【 】内は産地を示す	土器	その他迫物	追物年代	仰考
SK	144	IV	DU10	93 × 86 × 29	不整形	天目茶碗【瀬戸・美濃系】	白磁中皿【中国】		ļ	17C	
SK	145	1	DU10	160 × (55) × 23	不明	中皿【瀬戸・美濃系】		ds m	C# UF		
\vdash	-	\vdash						小皿	銭貨	17C	
SK	146	┰	DV10	130 × (95) × 11	不明	天目茶碗【瀬戸・美濃系】			ļ		
SK	147	IV	DU10	51 × 41 × 18	楕円形			ļ			
sк	150	IV	DV14	370 × 150 × 55	不整形	摺鉢·捏鉢·植木鉢·火鉢【瀬戸·美濃系】、 中碗·小碗【肥前系】、鉢【肥前京焼風】	碗盘·蓋物·鉢·仏飯器【肥前系】			18~19C	
sĸ	151	IV	DV11	71 × 70 × 37	円形	中碗·小碗·中皿·摺鉢·香炉【瀬戸·美濃系】	小碗·小杯【肥前系】中国磁器		寛永通宝·鉄、 銅製品.瓦灯	18C	
sк	152	IV	DW11	(101) × 95 × 16	不整形						-
sк	153	IV	DW12	127 × (85) × 31	楕円形						i
	154		DW11	192 × (43) × 24	不明			<u> </u>			·
SK	156	1	DV11	(288) × (117) × 68	不整形						
	157	\vdash	DW11	219 × (133) × 35	不整形	小門は低いどのようないな言葉達を				100+	
	_	+		i		小皿(折線ソギ皿内ハゲ)【瀬戸・美濃系】		-		16C末	
	159	+	DX12	(85) × 75 × 40	不明	小皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】		ļ		17C	
SK	161	+	DX12	88 × (66) × 33	不明	擂鉢【瀬戸·美濃系】	中碗【瀬戸·美潟系】	ļ		18C	
SK	162	I۷	DX 12	(148) × 147 × 13	不整形			<u> </u>			
SK	163	IV	DR11	65 × 63 × 25	円形	鉢【瀬戸·美濃系】、土瓶		内耳鍋			
SK	164	IV	DR11	70 × (51) × 11	不明						
SK	165	IV	DR11	44 × 33 × 23	桁円形			T			
SK	166	1 1	DR11	84 × 69 × 34	楕円形			†			
SK	167	++	DR11	27 × 19 × 6	格円形						
\vdash		-						 	-		
SK	168	1	DR12	42 × 28 × 5	長方形		 	-	<u> </u>		
SK	169	+		100 × 82 × 16	桁円形		ļ	ļ	ļ		<u> </u>
	170		DR12	25 × 23 × 4	円形			<u> </u>			
sк	171	IV	DQ12	37 × (19) × 5	不明		<u> </u>		<u> </u>		
sк	172	IV	DQ12	27 × 24 × 5	円形						
SK	173	IV	DR13	74 × 68 × 10	楕円形	擂鉢【瀬戸·美濃系】、中鉢【肥前系】	小杯·中鉢【肥前系】			18C	
sк	174	iv	DR13	66 × 45 × 17	不明						·
	175	+-+	DS12	209 × 55 × 18	長方形						
\vdash	176	+	DS12	121 × 110 × 12	格円形			-	 		
\vdash	-	↤						 	ļ		
\vdash	177	+	DS12	33 × 29 × 8	不整形			ļ			
\vdash	178	+	DS12	34 × 29 × 15	不整形			ļ	ļ		
SK	179	IV	DS12	34 × 30 × 10	桁円形	-					
sĸ	180	IV	DS13	45 × 43 × 13	円形						
sĸ	181	IV	DR13	34 × 29 × 42	楕円形						
sк	182	IV	DQ14	170 × 168 × 36	円形	小皿·碗【瀬戸·美濃系】、皿【唐津系】				17C	鍛冶炉
sĸ	183	+	DR14	48 × 39 × 21	不明						
SK	184		DR13		不明	大碗(沓形碗 鼠志野)【瀬戸·美濃系】	中碗·中皿·小皿【肥前系】	 	t	17~18C	
H		lw1		161 X 51 X 6	1 77	contractor encounts / ERAL ACREANS		1			
ISK	-	+ +	DR13	61 × 51 × 6	不明				 	17 - 160	
SK	185	IV	DR13	23 × (16) × 5	不明					17 - 180	
sĸ	185 186	IV IV	DR13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13	构円形					17 - 180	
sĸ	185	IV		23 × (16) × 5						77 180	
SK SK	185 186 187 188	IV IV IV	DR13 DR14 DR14	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13	构円形	小皿(丸皿端反皿)【瀬戸·美濃系】 瓶【僻前系】、棗	中国磁器	灯明皿	巻貝	17C	
SK SK	185 186 187	IV IV IV	DR13 DR14 DR14	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21	桁円形 不明		中国磁器	灯明皿	巻貝		
SK SK SK	185 186 187 188 189	IV IV IV	DR13 DR14 DR14 DR13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33	桁円形 不明 不強形		中国磁器	灯明皿	巻貝		
SK SK SK	185 186 187 188 189 190	V V V V V	DR13 DR14 DR14 DS13 DS13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31	将円形 不明 不強形 不強形		中国磁器	灯明皿	巻貝		
\$ K \$ K \$ K \$ K \$ K \$ K	185 186 187 188 189 190	V V V V V	DR13 DR14 DR14 DS13 DS13 DS15	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14	构円形不明不整形不整形有円形不整形		中国磁器	灯明皿	巻貝		
S K S K S K S K S K S K	185 186 187 188 189 190 191 192		DR13 DR14 DR14 DS13 DS13 DS13 DS15 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4	构件形不明不整形不整形不整形不整形		中国磁器	灯明皿	巻貝		
S K S K S K S K S K S K	185 186 187 188 189 190 191 192 193	IV	DR13 DR14 DR14 DS13 DS13 DS15 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8	构円形 不明 不整形 不整形 构円形 不整形	抵【備前系】、棗	中国磁器	灯明皿	巻貝	17C	
S K S K S K S K S K S K S K	185 186 187 188 189 190 191 192 193 194	IV	DR13 DR14 DR14 DS13 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18	构円形 不明 不整形 不整形 构円形 不整形 不整形		中国磁器	灯明皿	巻貝		
S K S K S K S K S K S K S K S K	185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195		DR13 DR14 DR14 DS13 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17	构円形 不够形 不發形 构円形 不整形 和四 和 和 数 形 和 不 整 形 不 数 形 不 数 形 不 数 形 不 数 形 不 的 円 形 的 一 不 的 円 形 形 た れ 日 円 形 形 れ ろ 日 円 形 形 れ ろ 日 ろ 形 形 ろ と の と の と ろ と ろ と ろ と ろ と ろ と ろ と ろ と	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸·美濃系】		灯明皿		17C	
\$ K \$ K \$ K \$ K \$ K \$ K \$ K \$ K	185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195		DR13 DR14 DR14 DS13 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6	构円形 不 盤 形 不 盤 形	抵【備前系】、棗	中国磁器	次明皿	坩堝鉄製品	17C	
\$ K \$ K \$ K \$ K \$ K \$ K \$ K \$ K	185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195		DR13 DR14 DR14 DS13 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10	构円形 不够形 不發形 构円形 不整形 和四 和 和 数 形 和 不 整 形 不 数 形 不 数 形 不 数 形 不 数 形 不 的 円 形 的 一 不 的 円 形 形 た れ 日 円 形 形 れ ろ 日 円 形 形 れ ろ 日 ろ 形 形 ろ と の と の と ろ と ろ と ろ と ろ と ろ と ろ と ろ と	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸·美濃系】		炊明皿		17C	
SK SK SK SK SK SK SK SK	185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196		DR13 DR14 DR14 DS13 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6	构円形 不 盤 形 不 盤 形	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸·美濃系】		炊明皿	坩堝鉄製品	17C	
S K S K S K S K S K S K S K S K S K S K	185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197		DR13 DR14 DR14 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10	构円形 不明 不 壁形 不 壁形 杯 円形 不 壁形 杯 円形 不 壁形 不 壁形 不 壁形 不 壁形	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸·美濃系】		灯明皿	坩堝鉄製品	17C	
S K S K S K S K S K S K S K S K S K S K	185 186 187 188 190 191 192 193 194 195 196 197 198		DR13 DR14 DR14 DS13 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10 17 × 16 × 3	构円形 不明 不 盤形 不 盤形 不 整形 不 整形 不 整形 不 整形 不 整形 不 整形 不 整形	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸·美濃系】		次可明血	坩堝鉄製品	17C	
S K S K S K S K S K S K S K S K S K S K	185 186 187 188 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200		DR13 DR14 DR14 DS13 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10 17 × 16 × 3 28 × 20 × 13	将円形 不够形 不整形 有四整形 不整形 不整形 有四整形 不完整形 不完整形 不完整形 不完整形 不完整形 不完整形 不完整形 不完	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸·美濃系】		次可明皿	坩堝鉄製品	17C	
S K S K S K S K S K S K S K S K S K S K	185 186 187 188 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200		DR13 DR14 DR14 DS13 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10 17 × 16 × 3 28 × 20 × 11 45 × 25 × 8 31 × 18 × 7	将円形 不明 不	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸·美濃系】		次可明皿	坩堝鉄製品坩堝	17C	
S K S K S K S K S K S K S K S K S K S K	185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 203		DR13 DR14 DR14 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10 17 × 16 × 3 28 × 20 × 11 45 × 25 × 8 31 × 18 × 7 59 × 48 × 14	将円形 不明 不	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸・美濃系】 小碗・小杯【瀬戸・美濃系】	中碗·小碗·中皿【肥前系】	次明皿	坩堝鉄製品	17C 18C 18C	
S K S K S K S K S K S K S K S K S K S K	185 186 187 188 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 203 204		DR13 DR14 DR14 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10 17 × 16 × 3 28 × 20 × 11 45 × 25 × 8 31 × 18 × 7 59 × 48 × 14 (104) × 84 × 34	将円形 不	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸·美濃系】		灯明皿	坩堝鉄製品坩堝	17C	
S K S K S K S K S K S K S K S K S K S K	185 186 187 188 190 191 192 193 194 195 196 197 198 200 201 203 204 205		DR13 DR14 DR14 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10 17 × 16 × 3 28 × 20 × 11 45 × 25 × 8 31 × 18 × 7 59 × 48 × 14 (104) × 84 × 34 (113) × 66 × 48	将円形 不	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸・美濃系】 小碗・小杯【瀬戸・美濃系】	中碗·小碗·中皿【肥前系】	*丁明皿	坩堝鉄製品坩堝	17C 18C 18C	
S K S K S K S K S K S K S K S K S K S K	185 186 187 188 190 191 192 193 194 195 196 197 198 200 201 203 204 205 206		DR13 DR14 DR14 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10 17 × 16 × 3 28 × 20 × 11 45 × 25 × 8 31 × 18 × 7 59 × 48 × 14 (104) × 84 × 34 (113) × 66 × 48 59 × 55 × 13	将円形 不一整形 不一整形 不在一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸・美濃系】 小碗・小杯【瀬戸・美濃系】	中碗·小碗·中皿【肥前系】	*汀明皿	坩堝鉄製品坩堝	17C 18C 18C	
S K S K S K S K S K S K S K S K S K S K	185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 200 201 203 204 205 206 207		DR13 DR14 DR14 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10 17 × 16 × 3 28 × 20 × 11 45 × 25 × 8 31 × 18 × 7 59 × 48 × 14 (104) × 84 × 34 (113) × 66 × 48 59 × 55 × 13 74 × 54 × 17	将円形 不一整形 不有整形 不不整件形形 不不整件形形形 有一种形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸・美濃系】 小碗・小杯【瀬戸・美濃系】	中碗·小碗·中皿【肥前系】	*汀明皿	坩堝鉄製品坩堝	17C 18C 18C	
\$ K	185 186 187 188 190 191 192 193 194 195 196 197 198 200 201 203 204 205 206 207 208		DR13 DR14 DR14 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10 17 × 16 × 3 28 × 20 × 11 45 × 25 × 8 31 × 18 × 7 59 × 48 × 14 (104) × 84 × 34 (113) × 66 × 48 59 × 55 × 13 74 × 54 × 17 70 × 59 × 24	将	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸・美濃系】 小碗・小杯【瀬戸・美濃系】	中碗·小碗·中皿【肥前系】	次丁明皿	坩堝鉄製品坩堝	17C 18C 18C	
S K S K S K S K S K S K S K S K S K S K	185 186 187 188 190 191 192 193 194 195 196 197 198 200 201 203 204 205 206 207 208		DR13 DR14 DR14 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10 17 × 16 × 3 28 × 20 × 11 45 × 25 × 8 31 × 18 × 7 59 × 48 × 14 (104) × 84 × 34 (113) × 66 × 48 59 × 55 × 13 74 × 54 × 17	将円形 不一整形 不有整形 不不整件形形 不不整件形形形 有一种形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸・美濃系】 小碗・小杯【瀬戸・美濃系】	中碗·小碗·中皿【肥前系】	次丁明皿	坩堝鉄製品坩堝	17C 18C 18C	
\$ K	185 186 187 188 190 191 192 193 194 195 196 197 198 200 201 203 204 205 206 207 208 209		DR13 DR14 DR14 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10 17 × 16 × 3 28 × 20 × 11 45 × 25 × 8 31 × 18 × 7 59 × 48 × 14 (104) × 84 × 34 (113) × 66 × 48 59 × 55 × 13 74 × 54 × 17 70 × 59 × 24	将	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸・美濃系】 小碗・小杯【瀬戸・美濃系】	中碗·小碗·中皿【肥前系】	次丁明皿	坩堝鉄製品坩堝	17C 18C 18C	
\$ K	185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 200 201 203 204 205 206 207 208 209 210		DR13 DR14 DR14 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10 17 × 16 × 3 28 × 20 × 11 45 × 25 × 8 31 × 18 × 7 59 × 48 × 14 (104) × 84 × 34 (113) × 66 × 48 59 × 55 × 13 74 × 54 × 17 70 × 59 × 24 19 × 18 × 10	将	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸・美濃系】 小碗・小杯【瀬戸・美濃系】	中碗·小碗·中皿【肥前系】	次可明皿	坩堝鉄製品坩堝	17C 18C 18C	
S K S K	185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 200 201 203 204 205 206 207 208 209 210 211		DR13 DR14 DR14 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10 17 × 16 × 3 28 × 20 × 11 45 × 25 × 8 31 × 18 × 7 59 × 48 × 14 (104) × 84 × 34 (113) × 66 × 48 59 × 55 × 13 74 × 54 × 17 70 × 59 × 24 19 × 18 × 10 52 × 52 × 13	将不明 形 不构 整 形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸・美濃系】 小碗・小杯【瀬戸・美濃系】	中碗·小碗·中皿【肥前系】	*丁明皿	坩堝鉄製品坩堝	17C 18C 18C	
S K S K	185 186 187 188 190 191 192 193 194 195 196 197 198 200 201 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212		DR13 DR14 DR14 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10 17 × 16 × 3 28 × 20 × 11 45 × 25 × 8 31 × 18 × 7 59 × 48 × 14 (104) × 84 × 34 (113) × 66 × 48 59 × 55 × 13 74 × 54 × 17 70 × 59 × 24 19 × 18 × 10 52 × 52 × 13 42 × 38 × 20 24 × 21 × 5	桁不明 形 不构字形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸・美濃系】 小碗・小杯【瀬戸・美濃系】	中碗·小碗·中皿【肥前系】	*汀明皿	坩堝鉄製品坩堝	17C 18C 18C	
S K S K	185 186 187 188 190 191 192 193 194 195 196 197 198 200 201 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212		DR13 DR14 DR14 DS13 DS15 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13 DQ13	23 × (16) × 5 32 × 27 × 13 (28) × 25 × 21 205 × 114 × 33 26 × 21 × 31 56 × 46 × 9 57 × 55 × 14 34 × 30 × 4 24 × 20 × 8 161 × 52 × 18 44 × 39 × 17 41 × 22 × 6 42 × 33 × 10 17 × 16 × 3 28 × 20 × 11 45 × 25 × 8 31 × 18 × 7 59 × 48 × 14 (104) × 84 × 34 (113) × 66 × 48 59 × 55 × 13 74 × 54 × 17 70 × 59 × 24 19 × 18 × 10 52 × 52 × 13 42 × 38 × 20	将不明 形 不构 整 形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形	抵【備前系】、棗 小碗【瀬戸・美濃系】 小碗・小杯【瀬戸・美濃系】	中碗·小碗·中皿【肥前系】	* 打明皿	坩堝鉄製品坩堝	17C 18C 18C	

土坑観察表(3)

<u> </u>	し田兄	分	表 (3)) 	r		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
	ļ	_		長径×短径×深 cm	形態	陶器()内は形状等の特徴を示す 【 】内は産地を示す	磁器()内は形状等の特徴を示す 【 】内は産地を示す	土器	その他遺物	遺物年代	備考
	214		DP15 DQ15	24 × 19 × 7 29 × 28 × 1	楕円形 不明				鉄製品		
\vdash			DQ15	36 × 32 × 8	円形						
sк	217	I۷	DQ15	40 × 38 × 14	楕円形	小皿(丸皿)【瀬戸·美濃系】				16C末	
-			DQ16	29 × 28 × 13	円形						
	-		DQ15 DQ15	51 × 44 × 21 121 × 32 × 16	円形 不整形						
		-	DY 12	128 × 80 × 29	不整形	小皿(折縁皿)【瀬戸・美濃系】	中碗·鉢【肥前系】			17~18C	
			DY13	105 × 103 × 49	円形	小皿·中皿·擂鉢·植木鉢【瀬戸·美濃系】				18~19C	
sк	223	IV	DY13	(67) × 66 × 32	不明	土瓶·人形		小皿			
1			DT13	39 × 38 × 10	円形						
-			DT13 DS15	44 × 39 × 14 24 × 19 × 14	円形 楕円形						
	\rightarrow		DR15	62 × 54 × 7	楕円形						
_	228	IV	DR15	(36) × 30 × 6	不明						
SK	230	IV	DR15	145 × 96 × 24	楕円形						
	_		DR15	27 × 22 × 42	桁円形						
	232	\top	DQ16 DQ16	32 × (28) × 12 199 × 180 × 36	円形 楕円形	雙·香炉【瀬戸·美濃系】、中碗【肥前系】、 中碗【肥前京焼風】	中碗-中皿【肥前系】		鉄、銅製品、銭貨	18C	
SK	234	IV	DQ17	145 × (47) × 40	不明	1 - 50 Fire B.151 M. Crast					
\vdash	\rightarrow		DR17	69 × 58 × 7	楕円形						
sĸ	236	IV	DQ13	35 × 27 × 37	楕円形						
H	237	-	DR13	35 × 25 × 30	楕円形						EE 42 14
		\Box	DV 16	138 × (95) × 41 (263) × 207 × -	不整形不明	中碗・擂鉢・壺・火鉢・合子・火もらい・人形・仏花瓶・	中碗·小碗·中皿·小杯·碗蓋·蕎麦猪口		鉄、銅製品、	18C	灰掻坑
	240	4		(263) × 207 × = (174) × (96) × 60	不明不明	聲盥·灯明皿【瀬戸·美濃系】、中碗【京·倡楽系】 大皿·灯明受皿【瀬戸·美濃系】	(肥前系) 中皿(肥前系)、瀬戸·美濃系磁器	焼塩壺	銭貨、煙管 銅、鉄製品	19~20C	吳 哲 地下室
SK	241	\rightarrow		$(174) \times (96) \times 60$ $(208) \times (152) \times 44$	不明不明	人皿"灯明交皿(湖户" 关展采	十皿1元则未入积广 失概不恒备		371-3XX 1200 ED	13 - 200	地下室
\vdash	243	1	DB44	119 × 93 × 16	楕円形	擂鉢、植木鉢				近代	
sк	244	IV	DS13	87 × 64 × 28	不整形						
_	245	\rightarrow	DS14	157 × 142 × 26	格円形	捏鉢【瀬戸・美濃系】、中碗【肥前系】、土瓶	中碗·中皿【肥前系】			18C	48 G G
SK	-	-	DU13 DT14	76 × 70 × 20 159 × 141 × 29	格円形 不整形	中碗【瀬戸・美濃系】			鉄製品	20C	桶底痕
_	-	īv	DU16	99 × 85 × 42	円形	1 776 EPTA / XIII XIII					便所遺構
sк	249	IV	DT14	27 × 23 × 23	楕円形						
SK		IV	DU14	32 × 30 × 29	円形						
SK		IV	DU14 DU14	27 × 27 × 10 (74) × 49 × 33	円形 不明			-			
SK	253	₩.	DU14	$(38) \times 33 \times 6$	不明						
-	254	IV	DV14	90 × 65 × 9	楕円形						
	256		DU15	106 × 62 × 69		瓶【備前系】			鉄製品、坩堝		
	257	1 - -	DV14	39 × (20) × 16	不明						
	258 259	-	DU15 DV15	(64) × 43 × 40 38 × 34 × 7	不明 円形	灯明皿【瀬戸・美濃系】			鉄製品		
		-	DV15	170 × 160 × 69	楕円形	小碗·火鉢【瀬戸·美濃系】	小碗【肥前系】				
_	261	ΙV	DV 15	49 × 38 × 29	楕円形						
	262	-	DV15	69 × 59 × 31	不明						
	263	\vdash	DV 15	23 × 22 × 20	円形			ļ		-	
	264 265		DW16	72 × 70 × 47	円形	捏鉢【瀬戸・美濃系】	碗蓋【肥前系】、小瓶【瀬戸・美濃系】	瓦質火鉢	銭貨、鉄製品	19C	桶底痕
SK	266	-	DV17	149 × 138 × 61	円形	小碗·擂鉢【瀬戸·美濃系】	中皿【肥前系】			18C	
sĸ	267	I۷	DV 18	58 × 46 × 10	楕円形						
sĸ	269	IV	DT 18	141 × 125 × 125	楕円形	中碗·小碗·小皿·捏鉢·灯明皿·灯明受皿·擂鉢· 仏花瓶【瀬戸·美濃系】	中院·小碗·中皿·小皿【肥前系】	銅製品		17~18C	
sĸ	270	IV	DW17	215 × 172 × 114	不整形	中碗·小碗·中皿·片口·甕【瀬戸·美濃系】、 小碗【肥前京焼風】中皿【肥前系】、壺【備前】	うがい茶碗・香炉【肥前系】	桶底板		17~18C	
	271	-	DS16	92 × 88 × 42	円形	徳利【瀬戸·美濃系】				18C	
\vdash	272	-	DT 19	98 × (45) × 34	不明	捏鉢【瀬戸・美濃系】		-			
	273	П	DT19 DV18	79 × (48) × 29 184 × 123 × 59	不明 楕円形	擂鉢【瀬戸・美濃系】 中碗・小碗・香炉・瓶・仏飯器・火もらい 【瀬戸・美濃系】 土鍋	中皿【肥前系】	焼塩蝨· 灯明皿	葵紋籠 甲製櫛	18C	「カ」
sĸ	275	IV	DW19	(136) × 131 × 78	不整形	小皿·片口·擂鉢【瀬戸·美濃系】 小碗【唐津系】、小碗【肥前京焼風】	小杯·中皿【肥前系】		硯	18C	
SK	276	IV	DX 18	126 × 102 × 13	楕円形	- 3 - 500 Filed Set NUMBER 1, 1, 500 File Hill NUMBER 1		 			
	277	₩	DY 18	93 × 71 × 35	楕円形						
sк	278	IV	DY 18	118 × 65 × 16	楕円形						
CV	279	[IV]	DY 19	95 × 96 × 22	円形		1		1	1	1

十坑観察表(4)

土均	亢観	察表	(4)							
通和名	NO	区検出位制	且長径×短径×深 cm	形態	陶器()内は形状等の特徴を示す 【 】内は産地を示す	磁器()内は形状等の特徴を示す 【 】内は産地を示す	土器	その他设物	迎物年代	仰考
sĸ	280	IV DY 18	183 × 154 × 120	桁円形	中碗·鬢盥【瀬戸·美濃系】、中碗【肥前系】 中碗【唐津系】	中碗·小碗·小杯·旮磁中皿【肥前系】			18C	
sĸ	281	IV DU17	(190) × (70) × 48	不整形	十能·植木鉢					灰掻坑
SK	282	IV DV15	(88) × 70 × 45	不明						
SK	283	IV DW15	246 × 139 × 28	不整形	小碗·植木鉢【瀬戸·美濃系】、土鍋	中碗·小碗·中皿【肥前系】			18C	
SK	284	IV DT17	104 × (90) × 55	不明	絞鉢·磴·香炉【瀬戸·美濃系】	小杯·中皿【肥前系】			18C	
SK			(66) × 64 × 30	不登形				銭貨		
SK	286	IV DU13	79 × 64 × 15	梢円形						
SK	287	IV DV14		不明						
SK	288 289	IV DV13	69 × 62 × 33	将円形						
SK	i—			不發形						
SK	-	IV DX14	163 × 93 × 64	不登形	行平·土瓶	小碗·紅皿【肥前系】			19C	
SK	292	IV DY15	350 × 257 × 50	不登形	中碗(肥前系)、火鉢(不明)	1) AME WITH TUTH THE WAY			130	灰掻坑
 	202	11 0110	000 × 201 × 00	11.55/12	中碗・掃鉢・灯明皿・灯明受け皿【瀬戸・美濃系】、					八里九
SK	293		133 × 130 × 56	円形	一	中碗-碗益(上絵付)【肥前系】		鉄製品	18C	
SK	294	1 DF48	100 × 92 × 77	不發形						
SK	296	1 DF47	27 × 17 × 31	桁円形	大碗中碗灯明受け皿【瀬戸・美濃系】香炉【唐津系】	中碗、小杯【肥前系】			18C	<u> </u>
SK	298	I DF47	28 × 25 × 4 25 × 18 × 3	円形		油壺【肥前系】	-		18C	
SK	299	I UF47	25 A 18 X 3	円形	(B) (c) (d) (m) (d) (u) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d		-			
SK	300	I DF47	32 × 29 × 14	円形	擂鉢·中碗·中皿(陶胎染付)·片口鉢【瀬戸· 美濃系】、中皿【肥前系】、火鉢	中碗、小碗、蒜安猪口【肥前系】			18~19C	
SK	301	1 DF47	214 × 190 × 69	長方形	灯明受け皿·片口鉢【瀬戸·美濃系】	小鉢、大皿【肥前系】	内耳鍋		18~19C	
SK	302	1 DE47	$(67) \times (37) \times 40$	不明	<u> </u>	蘇安猪口【瀬戸·美潟系】		鉄製品		
S.K	303	I DF46	32 × 25 × 23	桁円形			ļ			
SK	304	1 DF46	53 × 33 × 13	桁円形						
SK	305	I DF46	18 × 14 × 4	円形						
SK	306	I DF46	15 × 13 × 6	円形						
SK	307	1 DF46	129 × 99 × 33	不發形			<u> </u>			
SK	309	1 DE45	17 × 13 × 9	格円形		sty fam At at 1	ļ			
SK	310	1 DE45 1 DE46	110 × 100 × 48 150 × 108 × 48	不明不明		· 臺【肥前系】				
SK	312	1 DE46	153 × (65) × 50	不明	小皿·中皿·擂鉢【瀬戸·美瀛系】				17C	
131	312	I DL40	133 × (03) × 30	71.67	中院·小皿·片口鉢·擂鉢【瀬戸·美濃系】、中院					
SK	313	I DD46	221 × × 100	不明	【肥前京焼風】、中碗【肥前系】、中碗【不明】	中碗·仏飯器【肥前系】		鉄滓	17~18C	
sĸ	314	I DD47	20 × 17 × 23	円形				鉄製品		
SK	315	I DD47	19 × 15 × 9	构円形						
SK	316	I DD46	261 × 95 × 62	不整形	中碗【肥前京焼風】、植木鉢【瀬戸・美濃系】瓶【倡楽】				18C	
sĸ	317	I DD45	(127) × (82) × 55	不明	灯明受皿·御神酒徳利·植木鉢【瀬戸·美濃系】					
sĸ	318	I DE45	136 × (76) × 22	不發形	擂鉢【瀬戸·美濃系】					
SK	319	I DE45	71 × 49 × 12	楕円形						
s ĸ	320	I DD45	(84) × 82 × 18	不明						
SK	321	I DG44	 	円形						
SK	-	 								
	323									
-	324	+	22 × 22 × 35	円形			<u> </u>			
-	325	 	199 × 50 × 54	不整形	TO 100 1 00 100 100 100 100 100 100 100 1					
\vdash	326		176 × 84 × 100		天目茶碗・小皿・擂鉢【瀬戸・美濃系】		灯明皿	銭貨	16末~17C	
-	327	++	48 × 32 × 10 134 × 127 × 40	 	于日太疏,于m,损处[城市,参海支]				170.190	\vdash
SK	328	I DF44	134 × 127 × 40	不發形不明	天目茶碗·大皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】				17~18C	
SK	-	1 DE44	125 × 92 × 84	不發形	鉢·仏花瓶【瀬戸·美濃系】、中碗·合子【廥津系】				18~19C	
-	331	 	228 × 78 × 22	不登形	碗(陶胎染付)【瀬戸・美濃系】				18~19C	
	332	I DE43	114 × 98 × 16		The second of grown plants					
	333	 	+	不盛形						$\vdash \vdash$
\rightarrow	335			円形						
	336		24 × 19 × 11							=
ѕк	337	I DC44	15 × 12 × 7	円形						
SK	338	I DC44	(81) × 95 × 22	不盛形						
SK	339	I DB45	23 × 23 × 16	円形						
SK	340	I DB45	23 × 22 × 37	不登形						
SK	341	I DB45	22 × 17 × 6	柏円形						
	342			円形						
sĸ	343	++	<u> </u>	不整形						
	344									
-	345	 								
—	346	 - 	+	-						
SK	347	DA45	(51) × 60 × 2	不整形		L	l			

土坑観察表(5)

土り	LEX	纺	111	J)							
遺構名	NO	区	検出位置	長径×短径×深 cm	形態	陶器()内は形状等の特徴を示す	磁器()内は形状等の特徴を示す	土器	その他遺物	遺物年代	備考
		-				【】内は産地を示す	【】内は産地を示す				
SK	348	+	DA44	(170) × (129) × 38	不整形	小四/工程 中八号/【妆写 普通女】				100+	
SK	349	+	CY43	(55) × (33) × 41 18 × 18 × 7	不明	小皿(灰釉 内ハゲ)【瀬戸・美濃系】				16C末	
SK	350 351	H	DA43 DB44	(122) × 78 × 30	円形 不明						灰掻坑
SK	352	∺	DB44	25 × 19 × 9	格円形						灰魚坑
3 1	332	⊬	D044	23 13 13 1	THITIDIS						
sĸ	353	١	DG46	146 × 141 × 109	不整形	小皿(折縁皿·折縁ソギ皿·菊皿) 中碗・捏鉢・擂 鉢・半胴甕・茶壺・乗燭・水注・徳利【瀬戸・美濃系】	小碗【肥前系】		鉄製品	16末~18C	
sĸ	354	1	DH45	200 × (154) × 76	不整形	小皿(折縁ソギ皿)、小杯【瀬戸・美濃系】、 皿(鉄絵)【唐津系】		内耳鍋		16末~17C	
SK	355	╁	DA42	126 × 111 × 64	不整形						
SK	356	+	DD46	$(118) \times (34) \times 16$	不明						
SK	357	+	DH45	(138) × 142 × 29	不整形				_		
SK	358	-	DI45	104 × 103 × 8	不整形	小皿【瀬戸・美濃系】				16C末	1
SK	359	1	DG45	(235) × 128 × 103	不整形	7 1/1/2	大碗·中碗【肥前系】			18~19C	
sĸ	360	T	DH47	(89) × (80) × 10	不明						1
SK	361	T	DA43	19 × 17 × 39	円形						
SK	362	ī	DA43	17 × 16 × 3	円形						
SK	366	+-		93 × 50 × 14	長方形	植木鉢·大甕	中鉢【肥前系】			19C	便所遺槨
SK	367	+-		(63) × 55 × 11	不明	大甕				19C	便所遺構
SK	368	+-		65 × 36 × 10	楕円形					- 30	I ALLIA
SK	369	+-	 	32 × 32 × 20	円形						
		1							ビー球 陶製	i	
SK	370	1		90 × 78 × 60	楕円形	大甕	W-16.		玩具(グリコ)	20C	水琴窟
SK	371			28 × 28 × 9	円形						
SK	372	+	+	70 × 64 × 76	楕円形	水鉢·擂鉢【瀬戸·美濃系】、片口瓶				18~19C	ļ
SK	373	+-		144 × 85 × 43	格円形						ļ
SK	374	+	1	32 × 27 × 7	楕円形						
SK	375	H	DM48	77 × 77 × 9	円形						
SK	376	-	 	38 × 24 × 21	楕円形	擂鉢					<u> </u>
SK	377		 	82 × 67 × 23	楕円形				フイゴ羽口、銭貨		
SK	378		DK49	81 × 48 × 64	不整形	中碗·皿【瀬戸·美濃系】				17~18C	
sк	379	II	DK48	100 × 99 × 50	円形	中碗・壺・擂鉢・灯明受け皿【瀬戸・美濃系】 中碗【肥前京焼風】			鉄製品	18C	四位
sĸ	380	11	DK48	58 × (48) × 20	不明		中碗【肥前系】		煙管	18C	1
sĸ	381	11	DK01	80 × 78 × 16	円形	· 擅鉢【瀬戸·美濃系】	大碗·中碗·中皿【肥前系】	<u> </u>		18C	
sĸ	382		·	50 × (46) × 12	不明						
sк	386	11	DJ00	243 × (148) × 42	不明						
sĸ	387	11	DK48	(83) × 40 × 78	不明						
sк	388	11	DL47	106 × 48 × 45	不整形			1			1
SK	389		DN02	58 × 58 × 19	円形						
sĸ	390	11	DN02	87 × 76 × 45	不整形	擂鉢·鉢【瀬戸·美濃系】、片口鉢【唐津系】	中碗【肥前系】			18~19C	
sĸ	391	П	DM49	118 × (92) × 50	不整形	片口·擂鉢【瀬戸·美濃系】碗(陶胎染付)	中皿【肥前系】		鉄製品	17~18C	
611	200	1	D1440	02 × 40 × 7	2. pp 11/	【瀬戸·美濃系】、小碗【京·信楽系】		-		-	
SK	-	+-	+	93 × 48 × 7	不整形			-			
SK		+-	+		不明			<u> </u>			
SK	_	-		(60) × 59 × 4	長方形	小皿【瀬戸・美濃系】		/lv mm		170	
SK	-	-		165 × (120) × 94	- 長カ形 不整形	//···································		小皿		17C	
SK		-	 	65 × (34) ×	不明			-			
SK	_	+-	_	60 × 48 × 11	不整形	鉢(瀬戸·美濃系)、碗(唐津系)	中碗【肥前系】				
SK	_	+	_	88 × 66 × 62	不整形	一种,一大块水小水。旧 中不是	1 METUTALI				
SK	-	-		160 × 119 × 72	格円形	山茶碗·小皿【瀬戸·美濃系】				13~17C	
SK		+		75 × 51 × 7	不整形	TOTAL TAMABUTAN X EDITOR				10 - 170	
SK				(242) × (54) ×	不明	火鉢	中鉢【肥前系】		鉄製品		灰掻坑
SK		+	 	108 × (82) × 60	不明	小皿【瀬戸・美濃系】			鉄製品	16C末	八田北
SK		+		78 × 55 × 32		碗·擂鉢【瀬戸·美濃系】		-	-V-EXHH		
SK	-	+-	 	 		- 東·天目茶碗·中鉢·大皿【瀬戸·美濃系】		灯明皿	£#	17C	
SK	_	+	+	32 × 31 × 27	円形	THE PERSON AND PROPERTY AND PRO					
SK	_	-	 	36 × 32 × 9	楕円形		***				
SK	-	+	 			天目茶碗【瀬戸・美濃系】		内耳鉧		16末~17C	<u> </u>
SK			·	26 × 24 × 32	円形						
SK	_	+	 	40 × 29 × 16	楕円形				-		
SK		+	·	22 × 20 × 19	円形	土瓶	徳利【瀬戸·美濃系】		鉄製品 ハマグリ	19C	
sĸ	_	+-		89 × 76 × 9	楕円形			 			
зк		+	 	27 × 25 × 8	円形						
SK		+	_	41 × (36) × 63	円形		7616.		-		
-	424	+	+	86 × 58 × 3	楕円形						
SK										,	+
SK	425	11	DT43	24 × 23 × 11	楕円形					1 ,	1
sк			DT43		格円形 円形						

土坑観察表(6)

エリ	し使兄	. 祭	:衣(6)							
202	NO	Ø	検出位置	長径×短径×深 cm	形態	陶器()内は形状等の特徴を示す 【]内は産地を示す	磁器()内は形状等の特徴を示す 【 】内は産地を示す	土器	その他设物	设物年代	仰考
sĸ	427	11	DT43	26 × 24 × 27	円形						
SK	428	1	DS44	32 × 29 × 44	柏円形						
SK	429	1 1	DS44	49 × 48 × 59	円形						
SK	430 431	11	DS43 DR44	223 × 173 × 58 32 × 28 × 12	不整形 円形						
SK	432	\vdash	DR44	30 × 26 × 36	円形						
SK	433	+	DR43	55 × 51 × 21	円形						
SK	434	-	DR44	43 × 35 × 93	桁円形						
sĸ	435	II	DR44	36 × 32 × 39	稻円形						
sĸ	436	П	DQ44	46 × 30 × 36	桁円形						
sĸ	437	11	DQ44	24 × 19 × 27	桁円形						
SK	438	11	DQ44	$(73) \times (67) \times 37$	桁円形						
SK		\vdash	DS43	66 × 62 × 51	円形						
SK	441	11	DR43	38 × 35 × 18	円形						
SK	442 443	1) []	DR43 DQ43	84 × 81 × 47 73 × 45 × 6	円形 桁円形						
SK	444	┼	DS44	37 × 30 × 5	円形						
SK	445	11	DQ44	55 × 41 × 11	不整形						
SK	446	-	DQ43	38 × 34 × 30	円形						
SK	447	П	DQ44	48 × 37 × 34	桁円形						
sк	448	П	DQ43	40 × 36 × 28	不整形						
SK	449	Ш	DQ43	77 × 51 × 8	不整形	中碗【瀬戸·美濃系】、植木鉢	中碗【瀬戸·美溫系】				
SK	_	-	DQ42	156 × 65 × 66	桁円形						
SK	_	11	DQ42	43 × 39 × 20 24 × 22 × 31	円形						
SK	452 453	11	DO42	24 × 22 × 31 45 × 44 × 56	円形						
SK	455	11	DQ42	158 × 138 × 37	不整形	大皿・天目茶碗【瀬戸・美濃系】				17C	
SK	456	11	DS45	118 × 116 × 44	円形	八皿 八日 水死[旅/ 天藏宋]			匣鉢	170	
SK	_	1 1	DU43	66 × (29) × 28	不明						
SK	458	11	DU44	83 × (62) × 34	不明				内耳鍋		
SK	459	П	DU43	55 × 35 × 15	构円形					-	
sĸ	460	11	DU43	22 × 22 × 16	円形						
SK		11	DV42	221 × (213) ×	不明		小碗【肥前系】				灰掻坑
SK	462	11	DU43	(33) × (25) × 3	不明	小皿·大鉢·擂鉢·鬢盥【瀬戸·美濃系】 				17C	
SK	-	11	DU43 DU42	81 × (47) × 14 148 × (90) × 57	不明不明					170	
31	464	"	DU42	148 × (90) × 57	不明	中碗(半筒碗)【瀬戸·美濃系】 小皿(端反)·大皿·中碗·天目茶碗·蓋·鬢盥·				17C	
SK	465	11		(231) × 140 × 47	不整形	擂鉢【瀬戸·美濃系】	小杯·中碗【肥前系】			17C	
-	-	\vdash	DU42	188 × 129 × 76	不整形	大鉢·中碗·蓋物【瀬戸·美濃系】				17C	
SK	468	11	DV41	30 × 25 × 28	桁円形						
SK	469	11	DU41	44 × 32 × 33 (198) × (110) × 29	格円形 不明	中碗(半筒碗 SK471と同一固体)·小皿				17C	
		Ш	DU41	171 × 86 × 68	不整形	【瀬戸·美濃系】 中碗【瀬戸·美濃系】				17C	
SK	_	⊢		32 × 29 × 8	円形	ADDO COMMENT				.,,	
SK				77 × 66 × 38	楕円形						
SK	474	П	DS42	36 × 34 × 24	円形						
sк			DS42	25 × 24 × 33	円形						
SK		-	DS42	22 × 20 × 20	円形						
S K	_	-	DS41 DT41	140 × 134 × 74 (76) × (44) × 12	不整形不明						
SK				23 × 22 × 18	円形						
SK				40 × 40 × 10	円形						
-	_	\rightarrow	DS42	62 × 58 × 74	円形						
sĸ	482	п	DS42	44 × 30 × 7	楕円形						
SK		-	DS41	63 × 58 × 57	稻円形						
SK			DS41	28 × 16 × 19	构円形						
SK		-		34 × 33 × 14	円形						
SK				33 × 24 × 37							
SK	_	-	DR42 DR41	43 × 43 × 5 18 × 18 × 39	円形						
		П				小皿(折縁皿、折縁ソギ皿)・擂鉢・水滴					
sĸ		Щ	DS40	236 × (220) × 58	不整形	「瀬戸・美濃系】、甕【常滑系】			鉄製品	16末~18C	
sĸ				53 × 44 × 16	构円形						
SK			DS39	34 × 27 × 29	楕円形	摺鉢【瀬戸·美濃系】					
SK	493 494	-	DS39	36 × 22 × 36	格円形	四耳亞【瀬戸·美濃系】				13C	
	444	1111	DS39	24 × 20 × 30	桁円形		1				

土坑観察表(7)

エリ	1. 隹兒	祭	表(()				,	,		,
遺構名	NO	区	検出位置	長径×短径×深 cm	形態	陶器()内は形状等の特徴を示す 【 】内は産地を示す	磁器()内は形状等の特徴を示す 【]内は産地を示す	土器	その他遺物	遺物年代	備考
sк	495	Π	DS39	34 × 32 × 21	円形		小碗【肥前系】			18C	
sĸ	496	П	DS40	171 × (118) × 14	不整形						
SK	497	=	DR40	176 × (130) × 17	不明						<u> </u>
SK	498	11	DR39	230 × (143) ×	不整形	中皿·小皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】				17~18C	
SK	499	11	DR41	299 × 119 × 67	不整形	風炉·炬燵·甕·壺【瀬戸·美濃系】、土瓶	小碗【肥前系】			18~19C	
SK	500	+	DP43	(252) × (181) × 105	不明						地下室
SK	501	11	DT39	141 × (43) × 47	不明	天目茶碗				17~18C	
sĸ	502	II	DS38	(302) × 224 ×	不整形	土鍋	小碗·小杯【瀬戸·美濃系】 中皿【肥前系】			19C	
s ĸ	503	11	DS38	104 × 57 × 24	不整形		小碗【瀬戸·美濃系】			19C	
sĸ	504	11	DT38	(226) × (62) × 17	不明	天目茶碗·小皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】	小杯【瀬戸·美濃系】、小杯【肥前系】			17~19C	
sĸ	505	п	DT38	(182) × 161 × 84	不整形	小皿(折縁皿 内ハゲ)・擂鉢・鉢(向付)・天目茶 碗・小壺【瀬戸・美濃系】、皿【唐津系】、甕【常滑】	 	小皿	碗形流動滓	17C	
SK	506	11	DU39	134 × 85 × 66	楕円形	中皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】	中皿【肥前系】	小皿		17C	
SK	507	Н	DU38	(142) × (63) × 88	不明	鉢【瀬戸·美濃系】				17~18C	
SK	508	11	DU39	(75) × (66) × 14	不明						
SK	509	11	DV39	173 × 158 × 52	不整形	天目茶碗·小皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】				17C	
sĸ	510	II	DV40	134 × 66 × 19	楕円形						
sĸ	511	11	DV41	35 × 35 × 4	円形						
sĸ	513	II	DW41	(248) × (81) × 47	不整形	中碗·中皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】	中皿·小皿【肥前系】			18C	灰掻坑
sĸ	514	Ti	DW40	215 × (147) × 54	不明	擂鉢【瀬戸·美濃系】			銅製品	17~18C	
sĸ	515	II	DT39	277 × (114) × 108	不明	中碗·蓋·擂鉢【瀬戸·美濃系】				18C	
SK	517	11	DQ43	173 × (82) × 69	不明						
SK	518	П	DU40	60 × 27 × 15	楕円形						
SK	519	ī	DG46	(108) × 154 × 68	不明	擂鉢					
SK	520	1	DF44	27 × 25 × 25	円形						
sĸ	521	1	DF46	(17) × 19 × 84	不明						
SK	522	1	DG43	100 × (76) × 62	不明						
sĸ	523	11	DT42	168 × 81 × 94	不整形	小皿【瀬戸·美濃系】	中碗【肥前系】		鉄製品、 漆皮膜	17~18C	
sк	524	11	DU43	× × 18	不明			†			
sк	525	-	DU42	110 × 80 × 88	不整形			T			
sк	526	П	DS39	37 × 31 × 16	桁円形						
SK	527	11	DR39	22 × 18 × 5	楕円形						
SK	528	- 11	DR38	38 × 30 × 29	楕円形						
SK	529	11	DR37	26 × 22 × 28	円形						
SK	530	11	DS37	18 × 16 × 13	円形						
SK	531	II	DS37	44 × 26 × 20	楕円形						
SK	532	- 11	DS37	44 × 29 × 22	楕円形						
SK	533	П	DS38	(81) × (35) × 43	不明	甕【常滑系】				16末~170	:
sĸ	534	. II	DS37	32 × 25 × 8	楕円形						
sĸ	537	п	DQ41	(410) × (267) ×	不整形	中碗·片口·水滴·小杯·小皿【瀬戸·美濃系】、 中碗·小碗【肥前系】、中皿【唐津系】	小杯·中碗·小碗·脊磁鉢【肥前系】 背花大皿【中国】		烷塩盛·碗形 流動滓、巻貝	17~18C	
SK	539	11	DT40	(32) × (30) × 3	不明						
SK					楕円形						
SK	541	11	DV41	31 × 24 × 20	楕円形						
SK	542	11	DV41	28 × 27 × 10	円形						
SK	543	II	DV39	(90) × (71) × 15	不明	擂鉢·香炉【瀬戸·美濃系】				17C	
SK	544	II.	DU39	96 × (62) × 13	不明						
SK	545	11	DR41	(431) × (293) × 69	不明						
SK	547	Ш	DS43	29 × 25 × 22	不整形						
SK		+	 	<u> </u>	楕円形			ļ			
SK			-	29 × (20) × 8	不明						
sĸ	_	-	 	$(41) \times (26) \times 18$	不明						
sĸ	-	+			不明				-	ļ	
SK		+-	 	·	円形			<u> </u>	-	ļ	
SK		-				小皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】		-	-	ļ	
SK	+	+			不明			1		ļ	
SK			+		円形			ļ	<u> </u>		
sĸ	+	+				擂鉢【瀬戸·美濃系】				ļ	
SK	-	+	 	(114) × (60) × 92	-			1			₩
SK	-		· 	(163) × (68) × 26	不明			 			ļ
SK	-	+	+	 	+	4.			1		
SK	-	-			+				1		
SK	_	-	+					ļ	-		1
	564	-			+						
SK	565	11	DS42	30 × (24) × 19	楕円形						

土坑観察表(8)

	LE	てか	衣(0)							
202	NO	X	検出位置	長径×短径×深 cm	形態	陶器()内は形状等の特徴を示す 【]内は産地を示す	磁器()内は形状等の特徴を示す	土器	その他设物	追物年代	仰考
sĸ	566	11	DQ40	(146) × (84) × 70	不明	中碗·小碗·天目茶碗·擂鉢【瀬戸·美濃系】			銅、鉄製品、 鉄滓、漆皮膜	18C	
SK	567	11	DQ40	(159) × (74) × 54	不明	擂鉢					
SK	568	11	DQ40	65 × 44 × 65	不整形						
SK	570	11	DQ39	(78) × (39) × 55	不明						
SK	571	+		82 × 39 × 42	柏円形						
SK	572	+-	DV41	38 × 37 × 43	円形						
SK	573	+	DV41	28 × 25 × 43	柏門形						
SK	574 575	+-	DV41	41 × 29 × 81 25 × 22 × 20	桁円形						
SK	576	+	DV41	29 × (27) × 13	円形						
SK	577	+	DU41	31 × 27 × 6	円形					-	
SK	578	+	DV40	32 × 30 × 6	円形						
sĸ	579		DW41	40 × 36 × 3	円形						
sĸ	580	11	DW41	42 × 40 × 4	円形						
SK	581	11	DW41	32 × 26 × 5	円形						
SK	582	- 11	DW41	51 × 25 × 38	构円形						
SK	584	11	DU43	29 × 26 × 13	円形						
SK	585	+	DV43	24 × 24 × 13	円形						
SK	586	+	DV43	18 × 17 × 16	円形						
SK	587	+	DU43	28 × 24 × 36	円形						
SK	588 589	+-	DU43	39 × 21 × 23 63 × (23) × 17	桁円形						
SK	589	+	DU43	50 × (14) × 19	不整形不明	小碗【瀬戸·美濃系】					
SK	591	+	DW41	26 × 22 × 4	円形	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
SK	592		DX40	(183) × (99) × 63	不明						
sĸ	593	11	DX40	(245) × (99) × 46	不明	小皿【瀬戸·美濃系】				17C	
SK	594	IV	DT25	108 × 92 × 15	稻円形	銅製品					
sĸ	595	IV	DU24	225 × 216 × 106	楕円形	中碗·鉢·瓶·擂鉢·香炉·鬢盥【瀬戸·美濃系】 大鉢【唐津系】、中碗【肥前京焼風】中碗【肥前系】	中碗·小碗·仏飯器【肥前系】	火鉢	鉄製品、馬歯	17C	
SK	596	IV	DU23	98 × 54 × 15	楕円形						
SK	597	١V	DU23	(94) × (75) × 10	不明						
SK	598	-	DU22	(121) × 115 × 59	不整形	擂鉢·瓶【瀬戸·美濃系】、徳利【肥前系】	中皿【肥前系】			17C	
SK	599	+	DU22	27 × 26 × 19	円形						
SK	600	+	DU22	37 × 24 × 48	将円形	徳利【備前系】	+ P¢ fem ÷ ₹ 3			17 100	
SK	601 602	+	DU21 DV20	$141 \times (112) \times 47$ $(148) \times 122 \times 20$	不整形不明	中皿【肥前京焼風】	中碗(肥前系) 仏飯器(肥前系)			17~18C	
SK	603		DT24	22 × 17 × 5	円形	于血(nch)示及医型	1公政会にルードル			160	
sĸ	604	+	DU24	29 × 22 × 25	桁円形						
SK	605	IV	DU24	22 × 18 × 12	円形					-	
SK	606	IV	DU23	42 × 25 × 36	桁円形						
sĸ	607	IV	DV20	55 × (36) × 8	不明						
	_	-	DT24	38 × 38 × 28	円形						
SK	-	-		31 × 26 × 16	円形						
SK	-	+		27 × 26 × 13 96 × 69 × 21	円形						
SK	-	+	DU10	72 × 65 × 12	桁円形 方形					-	
SK		-		60 × 51 × 51	村円形						
SK	-	-	DU12	27 × 25 × 12	円形						
sĸ		-	DU12	114 × 45 × 71	构円形	小皿【瀬戸·美濃系】				16C末	
sк	_	+	_	21 × 18 × 20	円形						
SK	-	+		40 × 20 × 40	构円形						
SK			DT12	20 × 20 × 26	円形						
SK		-	DT 13	27 × 22 × 12	格円形	。hm[城市 单流元]				165=	
SK	620	IV	SV12	130 × 105 × 18	小登形	小皿(瀬戸・美濃系)				16C末	
			DT14	275 × 226 × 35	不盛形	小皿(丸皿 内ハゲ)·天目茶碗(瀬戸·美濃系) 鉢【備前】	中国磁器	小皿	坩堝、漆皮膜	17C	
S K	_	+	DR11 DR12	30 × 25 × 31 39 × 32 × 12	桁円形 桁円形						
SK		_		42 × 37 × 29	柏円形						
-	_	+	DQ12	28 × 26 × 23	円形				-		
SK	-	+	DQ12	46 × 44 × 23	円形						-
SK	_	-		51 × (37) × 13	不明				-		$\neg \neg$
SK	628	١٧	DR13	36 × 35 × 15	円形						
sĸ	_	+	DS12	34 × 32 × 24	円形						
_		+		(228) × (86) × 16	不明						
SK	631	IV	DT13	23 × 23 × 20	円形						

土坑観察表(9)

土功	1觀	.祭	表(9)							
遺構名	NO	ĸ	検出位置	長径×短径×深 cm	形態	陶器()内は形状等の特徴を示す 【]内は産地を示す	磁器()内は形状等の特徴を示す 【]内は産地を示す	土器	その他遺物	遺物年代	備考
SK	632	-		30 × 28 × 12	円形						
SK	633	+	DQ13 DR14	37 × 26 × 21 48 × 40 × 15	格円形 格円形						
SK	635	-	DR14	67 × 35 × 40	构円形						
sĸ		-	DR15	29 × 26 × 16	円形						
SK	637	N	DR17	25 × 22 × 7	楕円形						
SK		-	DR17	30 × 26 × 45	构円形		Para -				
SK	639 640	+	DR17 DQ17	24 × 22 × 15 52 × 28 × 31	円形 不整形						
SK	641		DR16	34 × 34 × 51	円形	-					
SK	642	IV	DR17	30 × 28 × 66	円形					`	
SK	643	IV	DQ17	24 × (12) × 37	不明						
SK		+-	DP13	35 × 31 × 15	円形						
SK	645 646	+	DV12 DV11	53 × 50 × 37 60 × 49 × 20	円形 桁円形						
SK	647	+	DW11	44 × 34 × 30	桁円形						
SK	648	IV	DV13	109 × 83 × 22	桁円形						
SK	649	IV	DV14	35 × 31 × 35	楕円形	小皿【瀬戸·美濃系】					
SK	650	-	DV13	162 × 91 × 30	格円形						
SK	651 652	-	DX12 DV13	310 × (157) × 16 36 × 27 × 33	不明 楕円形						
SK	653	-	DW13	39 × 27 × 20	楕円形				-		
SK	-	-	DW13	37 × 34 × 35	円形						
sк	-	-		29 × 26 × 8	楕円形						
SK	657	+	DX14	37 × 37 × 50	円形					-	
SK	658 659	-		27 × 26 × 39 116 × 71 × 38	格円形 不明				 		
SK	660	+		32 × 31 × 36	円形					-	
SK	661	IV	DR13	32 × 31 × 32	円形			-			
SK	662	IV	DW16	120 × 90 × 19	不整形						
SK	663	+		44 × 38 × 17	円形						
SK	664			35 × 30 × 17 23 × 21 × 41	精円形 円形						
SK	666	+	DX12	18 × 14 × 22	楕円形		.,				
SK	667	IV	DX 12	22 × 19 × 44	円形						
SK	668	+-	-	30 × 27 × 32	円形				ļ		
SK	669	IV	DY 15	34 × 30 × 23	桁円形	上的 小红 // 红织 梅丛 [城市 台灣五]	+10 1.10 1.47 +m // 6089				
sĸ	ļ	<u> </u>			不整形	中碗·小杯·仏飯器·擂鉢【瀬戸·美濃系】 乗燭·十能·土鍋	中碗·小碗·小杯·大皿·仏飯器 【肥前系】	焼塩壺	銅·鉄製品	18~19C	
SK	671	+-		140 × 119 × 35	格円形				ļ <u>.</u>		
	672			51 × (22) × 18 29 × 27 ×	不明 円形				 		
		_	DQ16		円形						
sĸ	675	IV	DQ17	(26) × 26 × 56	不整形						
_	676	+		40 × 30 × 34	桁円形						
-	677	-		93 × (62) × 45 31 × 29 × 20	不明 円形	中碗·香炉【瀬戸·美濃系】			 		
	679	1			桁円形	中皿·鎧茶碗·中碗·小碗·馏鉢·仏花瓶【瀬戸·美 濃系】、小碗【京·倌楽系】、小皿【肥前京焼風】土鍋	1	植木鉢		18~19C	
sĸ	680	IV	DW12	25 × 24 × 10	円形						
	681	+			円形				鉄製品		
	682	+		.	円形					_	
	683 684	-		190 × 85 × 17 (120) × 115 × 18	格円形 不明						-
	685	+	DN03	273 × (38) × 62	不整形						
-	686	-	_	 	不整形						
	689	+			不整形						
	691		 	$(181) \times (112) \times 140$	 				<u> </u>		
	692 693			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	不明不明				-		
	695	+		65 × (52) × 25	不明	中碗【瀬戸・美濃系】	中碗【肥前系】		鉄製品	18C	
	698	+		105 × (81) × 96	不整形						
sк	699	II	DM02	(102) × (70) × 98	不明						
1	700	1	DN01	(272) × × 77	不整形	小碗·擂鉢【瀬戸·美濃系】	亞花皿【中国】		銅、鉄製品、 煙管	17~18C	
sĸ	700	L									
SK	701	11		20 × 20 × 10	円形						
S K		11	DM01	20 × 20 × 10 70 × 40 × 17 (202) × 161 × 50	円形 楕円形 不整形						

土坑観察表(10)

	しまた	示	衣 (10)							
迎和名	NO	Ø	検出位置	長径×短径×深 cm	形態	陶器()内は形状等の特徴を示す 【]内は産地を示す	磁器()内は形状等の特徴を示す 【 】内は産地を示す	土器	その他追物	迫物年代	仰考
SK		-	DK01	30 × 20 × 24	楕円形						
SK	_	-	DM01	108 × (55) × 55	不明						
SK	708 709	-	DL00	164 × 148 ×	格円形	小皿【瀬戸・美濃系】			ļ	17C	
SK	710	-	DL00 DK49	225 × (114) × 83 253 × (110) × 55	不明不明	擂鉢·鉢〔瀬戸·美濃系〕				16末~17C	
3 1	710	"	DN49	253 × (110) × 55	<i>ጉ</i> ዓ	Am ### 40 AB # # A // CB // THE	ch Tri J. Tri ME FROM the UT T		 		
sĸ	711	R	DJ00	(201) × (134) × 103	不明	中皿·擂鉢·片口·中甕·植木鉢·仏飯器·仏花瓶・ 灰吹(瀬【瀬戸・美濃系】、小碗【京·信楽系】	中碗·小碗·瓶【肥前系】		巻貝	18C	
SK	712	П	DK01	(148) × (81) × 119	不明	小皿·灯明受皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】	中碗【肥前系】		母	17~18C	
sĸ				(132) × (69) × 34	不明	天目茶碗·小皿·中皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】	1 Medianisma	小皿		17C	
SK	715	11	DL49	37 × 33 × 34	円形			- · - -		,,,,	
SK	716	Ш	DL49	32 × 28 × 3	円形						
SK	717	П	DL49	37 × 21 × 14	桁円形				鉄製品		
SK	718	11	DL49	47 × 28 × 7	构円形						
SK	719	Ш	DL49	26 × 18 × 19	构円形						
SK	720	П	DL49	28 × 18 × 17	楕円形						
SK	721	H	DL49	58 × 38 × 4	构円形						
SK	722	11	DM00	60 × 32 × 7	桁円形						
SK	723	-	DM00	187 × 147 × 94	桁円形	皿·碗·鉢·擂鉢·仏花瓶【瀬戸·美濃系】			銅、鉄製品	17C	
SK	724	#	DM49	86 × 80 × 11	桁円形						
sĸ	725	=	DN00	338 × 248 × 93	不整形	大碗・中碗・小皿・擂鉢・水鉢・灯明皿・灯明受皿・ 瓶・仏飯器・仏花瓶・ミニチュア徳利【瀬戸・美 濃系】、小皿【肥前系】、火もらい・土瓶蓋	中皿·小皿·瓶【肥前系】			17~18C	
SK	726	11	DN49	30 × 25 × 15	桁円形						
SK	727		DN49	34 × 24 × 10	桁円形						
SK	728	11		(158) × (44) × 76	不明	中碗【瀬戸·美濃系】	育花大皿(中国)			17~18C	
SK	729			(198) × (56) × 57	不明						
-	730	-	DO01	154 × 150 × 46	桁円形	70 t m 1804 F17 - 11 - 1					
SK	731	11	DO49	221 × 176 × 55	构円形	碗·小皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】 	育花中皿【中国】		内耳土器	17C	
	732	-	DP00	25 × 25 × 8	円形						
	734	-	DM49 DM48	32 × 32 × 7 (58) × (27) × 4	円形						
	735 736		DM48	35 × 21 × 11	不明 桁円形						
\vdash	737	-	DM49	(33) × 26 × 4	桁円形						
\vdash			DK48	100 × 93 × 31	円形	 片口·皿【瀬戸·美濃系】、中碗【肥前系】				17C	
	739		DL49	27 × 18 × 9	桁円形	THE MENT PRODUCTION					
\vdash	741		DL48	30 × (24) × 41	不明						
SK	742	П	DL48	103 × 91 × 22	桁円形	擂鉢【瀬戸·美濃系】				17~18C	
SK	743	11	DL47	(223) × (30) × 61	不明	中皿·鉢·擂鉢·香炉【瀬戸·美濃系】		小皿		17~18C	
sĸ	744	11	DM47	97 × (57) × 52	不明	灯明受け皿【瀬戸・美濃系】	夺花小皿【中国 明末】			17C	
SK	745	II	DM46	(117) × (44) ×	不明	中碗·擂鉢【瀬戸·美濃系】	中碗【瀬戸·美潟系】			17C	
s ĸ				315 × (231) × 97		大院·中院·灯明受皿·蛰·植木鉢【瀬戸·美澳系】 中皿【肥前京焼風】·小碗【唐津系】	中碗·小碗·蓋·紅猪口【肥前系】			18C	
SK		-	DM48	34 × 22 × 4	构円形						
	748 749	-	DM48 DM48	25 × 20 × 3	构円形						
SK		-		48 × 41 × 4 (161) × (102) × 84	円形 不明	天目茶碗·小皿·擂鉢·壺【瀬戸·美濃系】甕【常滑系】	/\m			16末~17C	
SK		-		$(77) \times (45) \times 7$	不明	八口 示例:"小皿 田野 : 亞 枫尸 * 天藏 术 \ 提 吊 / 清 木	- Orim			10 X - 17 C	
SK				(182) × (84) × 45	不明	小皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】	碗(白磁)【中国】			16末~17C	
SK	_	\vdash	DK00	162 × (128) × 43	不明	- Carrier Carrier					
sк		-		(217) × (162) × 41	不明						
SK	755	IV	CB15	67 × 63 × 62	円形						
SK	756	ΙV	CB15	34 × 27 × 16	桁円形						
sĸ			CB15	84 × (84) × 13	不整形				銭貨		
sĸ		-		(165) × (97) × 7	不發形						
SK		_		(127) × 112 × 14	不明						
SK		\vdash	DW16	50 × 45 × 32	不整形						
SK		-	DY 15	22 × 19 × 9	円形						
SK		\vdash	DW12 DW11	17 × 16 × 37 42 × 36 × 65	円形						
SK		-		30 × 23 × 42	柏円形						
SK			DU13	36 × 27 × 36	柏円形						
SK	_	! - 1	DR14	46 × 37 × 35	梢円形						
SK		-1	DR15	46 × 40 × 16	円形						
SK	_	\vdash	DS16	42 × 42 × 28	円形						
sк		-	DS16	30 × 28 × 76	円形						
sк	770	IV	DP16	36 × 27 × 32	桁円形						
sк	771	IV	DT 18	26 × (20) × 7	不明				-		
sĸ	772	١٧	DU19	36 × 36 × 42	円形						

土坑観察表(11)

<u> 上り</u>	しほど	. 宗	衣し	11/							,
遺構名	NO	区	検出位置	長径×短径×深 cm	形態	陶器()内は形状等の特徴を示す 【]内は産地を示す	磁器()内は形状等の特徴を示す 【]内は産地を示す	土器	その他遺物	遺物年代	備考
sĸ	773	IV	DV 19	33 × 32 × 37	円形						
SK	774	-	DV20	23 × 22 × 14	円形		V P V V V V V V V V V V V V V V V V V V				
SK	775	-	DV20	28 × 22 × 9	桁円形						
-	776	-	DV20	38 × 32 × 44	方形						
SK	777	1	DV20	22 × 18 × 16	梅円形						
SK	778	-	DV20	38 × 33 × 45	格円形						
SK	779	IV	DP16	33 × 32 × 37	円形						
SK	780 781	12	DP16 DP01	33 × 50 × 39 127 × (92) × 20	格円形						
SK	782	" ∨	DU19	33 × 28 × 44	格円形 格円形						
SK	783	-	DT24	23 × 16 × 33	格円形						
\vdash	784	-	DT24	20 × 18 × 21	円形			-			
SK	785	-	DR15	47 × 20 × 24	楕円形						
SK	786		DR15	57 × 28 × 15	不整形						
sк	787	-	DY13	20 × 19 × 24	桁円形						
sĸ	788	ΙV	DR17	42 × 31 × 29	桁円形						
SK	789	١٧	DU15	27 × 26 × 12	円形						
SK	790	١٧	DT 15	(43) × 35 × 11	不明	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,					
SK	791	I۷	DT16	92 × 56 × 10	楕円形						
sк	792	ΙV	DU15	130 × 81 × 17	楕円形						
SK	793	11	DP01	(183) × (180) × 102	不整形	天目茶碗·小皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】		内耳鍋		17C	
sĸ	794	н	DP02	(252) × (81) × 62	不明	擂鉢·植木鉢【瀬戸·美濃系】	仏飯器【瀬戸·美濃系】			19C	
sĸ	795	11	DP02	207 × (110) × 85	不明	植木鉢				近代	
SK	796	١V	DT16	129 × 81 × 38	楕円形						
SK	797	IV	DT 16	48 × (39) × 6	不明						
sĸ	798	П	DQ01	$(120) \times (37) \times 51$	不明						
SK	799	١٧	DU15	31 × 28 × 8	円形						
SK	800	IV	DU16	74 × 52 × 9	楕円形						
-	801	IV	DX 17	119 × 33 × 49	不整形						
-	802	IV	DX 18	22 × 20 × 12	円形						
-	803		DX 15	(134) × (48) × 14	不明						
\vdash	804		DR16	50 × 38 × 8	梅円形						
1		1	DU20	36 × 36 × 57	円形						
		IV	DS16	26 × 25 × 6	円形				<u> </u>		
	807 808	IV IV	DR14 DT17	(35) × 35 × 23 56 × 52 × 81	不明 円形	**					
		IV	DT 19	$(149) \times (77) \times 84$	不整形	中碗【瀬戸·美濃系】、甕【常滑系】	中国磁器	焼塩壷		17C	
-		\vdash	DT 18	100 × 66 × 14	不整形	1 700 4877 天服水水盖上市/井水江	T EM MARK	- 大地里		170	
-	811	1—1	DT 18	57 × 42 × 50	楕円形						
	812	-	DU18	108 × 99 × 51	不整形						
sĸ	813	IV	CB16	40 × 36 × 14	円形						-
SK	814	١٧	CB16	43 × 42 × 14	不整形						
sк	815	I۷	DV 19	164 × 122 × 61	不整形	水注【瀬戸·美澱系】	小碗【肥前系】			17C	
SK	816	11	DP01	(89) × 78 × 79	不明	中皿【瀬戸·美濃系】				18~19C	
sĸ	817	I۷	DR13	34 × 28 × 28	楕円形						
SK	818	IV	DR12	28 × 26 × 13	円形						
sĸ		-	DR11	120 × 77 × 21	楕円形						
SK		-		24 × 22 × 49	円形						
sĸ			DS15	50 × 36 × 16	楕円形		-				
sĸ		-		63 × (42) × 25	不整形						
SK		-		58 × (56) × 15	不整形						
SK				35 × 23 × 12	构円形						
SK		\rightarrow	DR14	25 × (18) × 50	不明						
SK			DR14	26 × 23 × 15	构円形						
\rightarrow			DW14	23 × 17 × 15	构円形						
-			DW14	50 × 45 × 53	格円形 mx						
\rightarrow			DV16	68 × 65 × 6	円形						
		-	DW16 DW15	34 × 24 × 13 28 × 22 × 8	格円形 格円形				-		
SK	_	\vdash			相円形 関丸方形						
SK		-	DY 14	138 × 99 × 33	南 八 万 形 南 円 形						
SK		-	DX 15	32 × 26 × 23	梅円形	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
1	835	- 1	DX14	(87) × 60 × 17	不整形			-			
sĸ		-	DY17	176 × 83 × 43	不整形	指鉢【瀬戸·美濃系】					
-	837	—	DY16	150 × 101 × 36	不整形	摺鉢【瀬戸·美濃系】					
		П							煙管·鉄製品、		
SK	ช38	'V	CA16	143 × 139 × 84	円形	片口·擂鉢【瀬戸·美濃系】	中碗【肥前系】	焼塩蝨	漆皮膜	17~18C	
							· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		L		

土坑観察表(12)

_上り	し形式	尓	表(14)							
退抑名	NO	区	検出位置	長径×短径×深 cm	形態	陶器()内は形状等の特徴を示す 【 】内は産地を示す	磁器()内は形状等の特徴を示す 【 】内は産地を示す	土器	その他追物	追物年代	仰考
SK		-	DY17	26 × (24) × 72	不明						
SK	840	\vdash	DY16	188 × (59) × 20	不明						
SK	841 842	1 1	DY16 CA16	19 × 18 × 24 40 × (34) × 19	円形						
SK	_	\vdash	CA 17	222 × 46 × 102	円形 不整形						
SK	844	١٧	CA16	28 × 24 × 28	柏円形						
SK	845	IV	CA 16	26 × 23 × 7	円形						
sк	846	IV	CB16	32 × 25 × 42	构円形						
SK	847	١٧	DU19	(136) × (85) × 87	不明	擂鉢【瀬戸·美濃系】					
SK	848	IV	DU20	(130) × (29) × 47	不明						
SK	849	IV	DR17	20 × 17 × 8	円形						
SK	850	IV	DR18	20 × (19) × 12	不明						
SK	851 852	IV IV	DP15 DP14	27 × 21 × 9 22 × 20 × 3	桁円形 桁円形						
SK	853	IV	DQ14	31 × 22 × 13	桁円形						
SK	854	\vdash	DQ17	$(72) \times (24) \times 11$	不明						
SK	855	IV	DP16	(40) × 37 × 12	不明				銭貨		
SK		\vdash	DT19	(153) × (65) × 118	不明						
sк	857	111	CK23	30 × 28 × 32	円形						
sĸ	858	111	CK23	40 × 42 × 29	円形						
SK	859	Ш	CJ23	30 × 24 × 30	构円形						
SK	860	111	CJ23	34 × 33 × 26	円形						
SK	861	11)	CJ23	36 × 33 × 20	円形			<u> </u>			
SK	862 863	133	CJ23 CH21	26 × 22 × 30 28 × 28 × 15	不發形						
SK	864	-	CH21	35 × 28 × 44	桁円形						
SK	865	111	CH21	32 × 30 × 35	円形						
SK	866	111	CG21	27 × 29 × 31	円形						
SK	867	111	CG21	31 × 29 × 30	円形						
SK	868	Ш	CG21	25 × 26 × 12	楕円形						
sĸ	869	+	CG22	27 × 27 × 28	円形						
SK	870	-	CG22	26 × 24 × 45	円形						
SK			CG22	32 × 30 × 25	円形						
SK	872	1	CF22	(36) × 26 × 10	梅円形						
SK	873 874	11)]]]	CE21 CG19	58 × 34 × 26 37 × 34 × 13	格円形 円形						
SK	875		CE25	28 × 27 × 31	円形						
SK	876	-	CF27	43 × 40 × 51	円形						
sĸ	877	m	CF26	35 × 28 × 8	円形						
SK	878	Ш	CH25	21 × 20 × 20	円形						
SK	879	111	CJ24	100 × (50) × 26	不明						
_		-		203 × 160 × 31							地下室
SK		\vdash		58 × (54) × 11 157 × 136 ×	不够形						
SK		1-1		(187) × (118) × 54	不發形不明	大皿·瓶·鉢·擂鉢【瀬戸·美澱系】			漆皮膜	17C	地下室
SK		1-1	CJ21	× ×	不明	擂鉢·徳利《瀬戸·美濃系》、中皿《肥前京焼風》	中皿【肥前系】· 存花皿【中国】	鉄製品	本以 版	18C	- US 1 2015.
		-		(165) × (103) × 67	不登形	中碗(せんじ碗)・小碗・擂鉢【瀬戸・美濃系】	中皿·香炉【肥前系】			18C	
sĸ	886	,,,	CI21	88 × 99 × 53	不強形	擂鉢【瀬戸·美濃系】、中碗【肥前系】徳利	中皿【肥前系】・中国磁器			17~18C	
ļ						【備前系】、甕【常滑系】、灯明受け皿					
SK	887	-	CI21	154 × 122 × 22 55 × (31) × 9	不明不明	大皿·中皿·擂鉢【瀬戸·美溵系】	中皿【肥前系】			17C	
SK			CI21	116 × (110) × 14	不明不明				煙管		
SK	890	1-1	CI22	100 × 90 × 54	桁円形				ATE NA		
SK		1	Cl24	160 × 148 × 50	不明	 小皿(折緑皿 内ハゲ)・徳利・擂鉢【瀬戸・美濃系】	中国磁器			16末~17C	
sĸ	_	-	CJ23	(130) × 128 × (69)	不明	小皿(丸皿、稜皿、折綠皿、襞皿)【瀬戸·美濃系】		内耳鍋	坩堝、鉄製品	16C末	
sк	894	Ш	CI23	85 × 66 × 40	桁円形	小皿(端反皿)【瀬戸·美濃系】				17C	
SK		l 	CI23	(77) × 63 × 25	不明						
SK	896	111	Cl22	158 × 135 × 48	构円形	小皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】				17C	
sĸ	897	III	CH23	432 × 203 × 59	不發形	大碗·中碗·小皿·叠蓋·香炉·貸盥【瀬戸·美濃系】、 中碗【唐津系】、大碗【肥前系】、中碗(木下弥刻印) 【肥前京燒風】	小杯·小杯(上絵)·大皿·盤·订磁中皿 【肥前系】、中国订花皿			17~18C	
sк	898	111	C124	(58) × (33) × 10	不明						
sĸ		-	CF19	44 × 43 × 10	円形	甕【常滑系】					
SK	900	111	CG20	66 × 63 × 3	不整形	整【常滑系】	,				
s ĸ		Ш	CH22 CG23	250 × 171 × 39 78 × 63 × 41	不 強形 桁円形	小皿(折縁皿)·中皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】· 甕【常滑】	16末~17C				
SK		+	CG23	36 × 33 × 19	和円形						
<u> </u>	557	1	10020	1 33 7 30 7 13	13/12		L		L		

土坑観察表(13)

ユリ	LES	강	表(19)							
遺構名	NO	K	検出位置	長径×短径×深 cm	形態	陶器()内は形状等の特徴を示す 【 】内は産地を示す	磁器()内は形状等の特徴を示す 【]内は産地を示す	土器	その他遺物	遺物年代	備考
sк	905	111	CG22	(20) × (8) × 25	不明						
SK	906	111	CG22	75 × (45) × 15	不明						
sк	907	111	CF22	220 × (173) × 10	不明						
sк	908	111	CG23	(220) × (123) × 51	不明						
sк	909	111	CG24	79 × (45) × 9	不明						
SK	910	111	CG24	124 × (107) × 52	不整形	天目茶碗·皿【瀬戸·美濃系】	育磁·小杯【肥前系】、中国磁器		鉄製品	17C~18C	
SK	911	111	CH23	19 × 18 × 43	円形						
sк	914	┶		(225) × 145 × (50)	楕円形	中碗·鎧茶碗·灯明受け皿·片口·火鉢·水鉢·植木 鉢·水注【瀬戸·美濃系】、中碗【唐津系】、香炉·土鍋	中碗·仏飯器·段重·ミニチュア徳利 【肥前系】		銭貨·煙管· 鉄製品	18~ 19C	
SK	917			(101) × 45 × 9	不明						
SK		1111		(107) × 32 × 26	不明	中碗【瀬戸・美濃系】、碗【肥前系】	中皿·小杯【肥前系】	-		18C	
SK	919	+		(67) × (62) × 13	不明						
SK	920		 	217 × 158 × 20	不整形						
SK	921	+	-	90 × (88) × 23	不明	小皿【瀬戸・美濃系】				17C	
SK	922			100 × 82 × 32	格円形	擂鉢【瀬戸・美濃系】					
SK	923	+		72 × 39 × 31	不明				土器	弥生時代	
SK	924	+	-	177 × 136 × 20	不明						
SK	925	+		239 × 171 × 54	不整形			-			
SK		111		147 × (86) × 19	不整形	MAL AND FAX - MARKET	- m frm + x 1 +				
SK	927			(102) × (100) × 39	不明	擂鉢、鬢盥【瀬戸・美濃系】	中皿【肥前系】、中国磁器	HT 65 -		18C	
SK	928	+	_	(287) × (112) × 24	不明	中碗·小皿【瀬戸・美濃系】、甕【常滑】		灯明皿		17C	
SK	929	+		152 × 125 × 31	不明	中皿・天目茶碗・擂鉢【瀬戸・美濃系】			CH SHI CI	17C	
SK	930) 1	CF25	(231) × 178 × 30	不整形			 	鉄製品		
sĸ		111		112 × (66) × 27	不明	小皿·擂鉢·植木鉢·徳利【瀬戸·美濃系】、 ・童【信楽系】	小皿·碗蓋·蓋物【肥前系】		銭貨·鉄製品· 銅製品	18~19C	
SK	932			129 × 123 × 48	不整形				<u> </u>		
SK	933			44 × 32 × 27	桁円形						
SK		111		125 × (71) × 25	不整形	植木鉢·擂鉢·香炉·徳利【瀬戸·美濃系】	中皿·小杯【肥前系】		鉄釘	18C	
SK	935			28 × (20) × 58	不明			<u> </u>			
SK	936			95 × (70) × 43	不明	中碗【瀬戸・美濃系】			鉄製品		
SK		111		142 × (100) × 20	不明	香炉·擂鉢【瀬戸·美濃系】皿【肥前系】。鉢【肥前京焼風】				18C	
SK	938			251 × 155 × 23	不整形	徳利【備前系】、中碗【唐津系】	中碗【肥前系】·脊花中皿【中国】	ļ		18C	
SK	940	-		(153) × 97 × 26	不明	天目茶碗·擂鉢【瀬戸·美濃系】			鉄製品		
SK		III		(119) × (61) × 16	不明			<u> </u>			
SK	950	+		82 × 76 × 27	格円形						
SK	951 952	+-		104 × 96 × 64 155 × 121 × 36	不整形 桁円形	徳利·擂鉢【瀬戸·美濃系】、土瓶	ch TC di TC (Bm ± 1 7 7)	≱T ΩD m		10 100	
SK	-	111		85 × (44) × 24	不明	124小曲种 1 树上,关极未入工版	中碗·小碗【肥前系】 中碗【瀬戸·美濃系】	灯明皿	鉄製品	18~19C	
SK	954			130 × 82 × 24	不整形		中碗·小碗【肥前系】		鉄製品	18C	
SK	955	+		30 × 24 × 27	桁円形		1 Me di Megachiano	 	37.355.00	100	
SK	1	01		27 × 25 × 50	円形			 			
sĸ	-	3 111		91 × (22) × 41	不明						
SK	_	+-	-	177 × 135 × 22	不整形						
sк	960	+-	-	51 × 41 × 12	桁円形						
SK	-	111		42 × 39 × 10	円形						
SK	963	3 111	CB26	(160) × 110 × 22	不整形						
sк	964	III	CB26	93 × (88) × 26	円形		背花小皿【中国】		鉄製品		
SK	965	5 111	CA27	37 × 31 × 44	楕円形						
SK	966	111	CA27	50 × 37 × 28	楕円形	火鉢					
SK	967	(1)	CB27	64 × (48) × 34	不明				鉄製品		
sк	968	3 111	CB27	177 × (107) × 31	不整形						
SK	-	-	 	221 × (130) × 41	不整形						
sĸ	-			87 × 81 × 21	円形	土瓶蓋			須恵器		便所遺構
SK	972	2 111		44 × 44 × 7	円形						
SK	973	111	CE21	137 × 84 × 79	不整形	中碗【瀬戸·美濃系】					
sĸ	974	ııı	CG20	134 × 129 × 58	円形	天目茶碗·小杯·小皿(丸皿)·鉢(向付)·摍鉢· 捏鉢【瀬戸·美濃系】				17~18C	
sĸ	983	111	CG19	(54) × (26) × 5	不明						
sк	984	10	CG20	115 × (75) × 32	不明						
sк	985	111	CG20	(194) × (170) × 39	不明	天目茶碗·小皿(折緣皿)·擂鉢【瀬戸·美濃系】				16末~17C	
SK	986	111	CF21	32 × .27 × 26	円形						
sк	987	111	CF21	29 × 26 × 16	円形						
sк	988	3 111	CH23	70 × (66) × 25	不明						
sĸ	989	111	CH22	232 × 198 × 25	不整形	天目茶碗·小皿(丸皿、端反皿、折線皿)·大皿· 擂鉢【瀬戸·美濃系】、甕【常滑系】				16末~17C	
SK	990)	Cl23	155 × (71) × (69)	不明	小皿(折縁皿、端反皿)·臺【瀬戸·美濃系】				16末~17C	_
		+-	<u> </u>					灯明皿			
SK	991	_	CI23	42 × (39) × 71 29 × (19) × 22	不明不明	小皿(折緑皿)【瀬戸·美濃系】 	白磁皿	漆皮膜		16末~17C	
	1002	<u> </u>	0322	23 7 (13) 7 22	דעייוי		1	1			

十坑観察表(14)

エリ	几觀	祭	表(14)							
2013	NO	X	検出位置	長径×短径×深 cm	形態	陶器()内は形状等の特徴を示す 【]内は産地を示す	磁器()内は形状等の特徴を示す 【 】内は産地を示す	土器	その他追物	追物年代	仰考
SK		_	CF22	16 × 16 × 10	円形						
SK	997	+	CD27	54 × 35 × 46	桁円形						
SK	998	+	CF25	85 × (38) × 19	不明	天目茶碗・小皿(稜皿、折縁皿)【瀬戸・美濃系】				17C	
SK	999	+		(111) X X	不明						
<u> </u>	1000	1	CF24	63 × (26) × 7	不明						
SK	1001	+ 1	CF24 CF23	(16) × × 35 22 × 18 × 25	不明						
<u> </u>	1002	+-+	CG23	22 × 18 × 25	桁円形 円形				-		
	1003	+	CG23	407 × (68) × 28	不整形	 小皿(折緑皿)【瀬戸·美濃系】	中国磁器	фня	鉄滓、漆皮膜	16== 170	
	1005	+		$(194) \times (121) \times 50$	不整形	小皿(折綠皿)·中皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】	十四年	N中脚		16末~17C	
-	1010	+	CE28	$(85) \times (65) \times 17$	不明	擂鉢【瀬戸・美濃系】				10 % - 17 C	
\vdash	1011	1	CJ24	63 × 30 × 12	桁円形	IMPERATO X ARCAN					
-	1012	\vdash	Cl24	64 × 40 × 15	楕円形						
	1013	-	CH21	207 × (102) × 23	長方形	中皿【肥前京焼風】	中碗·臺【肥前系】			18C	
\vdash	1014	+	CG20	52 × 48 × 18	円形		7.70				
sĸ	1015	111	CG20	211 × (78) × 11	不明						
SK	1016	111	CF20	78 × 35 × 33	不整形						
sĸ	1017	ııı	CH24	(179) × (151) × 46	不明	小皿·鉢【瀬戸·美濃系】					
SK	1018	111	CG24	30 × 19 × 7	桁円形			l			
sĸ	1019	111	CG24	24 × 20 × 4	榕円形						
sĸ	1020	111	CG24	26 × 20 × 14	楕円形						
SK	1021	Ш	CG25	45 × (30) × 5	不明						
s ĸ	1022	III	CF26	48 × 40 × 23	桁円形						
SK	1023	111	CF25	123 × 28 × 8	楕円形						
SK	1024	+	CF25	103 × 42 × 9	不整形		·				
-	1025	+ +	CE25	21 × 20 × 13	円形						
-	1026	+ +	CE25	68 × 46 × 21	格円形						
	1027	╌	CF25	147 × 135 × 8	桁円形						
	1028	1-1	CE24	39 × 27 × 12	桁円形						
-	1029	+ +	CF22	41 × 27 × 20	桁円形						
	1030	+	CD23	25 × 23 × 12	円形						
	1031	+-+	CE25	30 × 23 × 16	格円形						
\vdash	1032 1033	+	CF27 CE28	(155) × (62) × 15	不明 円形						
-	1033	-	CE28	19 × 18 × 22 (61) × (34) × 21	不明	皿【瀬戸·美濃系】					
SK	1035	+		$(34) \times (34) \times 21$ $(191) \times (137) \times 23$	不明				土師器		
SK	1036	+	CD28	253 × (107) × 4	不明						
SK	1037	╌	CD27	26 × 26 × 7	円形	小皿(丸皿)【瀬戸·美濃系】				16C末	
-	1038	+ +	CD27	24 × 22 × 26	円形	TIM (VOLIM) EARLY XARONS				100%	
SK	1039	+		(116) × 109 × 44	不登形	小皿(丸皿)【瀬戸·美濃系】				17C	
sк	1040	ııı	CE25	65 × (33) × 11	构円形						
sк	1041	111	CD25	× 167 × 111							
sк	1042	111	CD24	69 × 24 × 21	不登形						
SK	1043	Ш	CD25	187 × (185) × 89	不明	小碗·蓋物·片口鉢·蓋【瀬戸·美澱系】	中碗·小皿·小瓶【肥前系】			18C	
SK	1044	Ш	CD25	(139) × (66) × 30	不明	灯明皿【京·信楽系】、徳利【備前系】	中国磁器	土鍋	銅·鉄製品	18C	
sк	1045	Ш	CD26	× 208 × 114	不明	中碗·擂鉢·徳利【瀬戸·美濃系】、中碗【唐津系】	中碗【肥前系】、中国磁器			17~18C	
SK		-		(140) × (41) × 63	不明	天目茶碗·小皿(端反皿)·鉢·擂鉢【瀬戸·美濃系】		灯明皿		17C	
SK	_	-		(143) × 106 × 38	不明	徳利(備前系)	小杯【肥前系】、中国磁器		鉄製品	17~18C	
sк			CD27	89 × 74 × 39	不整形	小皿【瀬戸・美濃系】				17C	
SK			CC25	153 × 72 × 16		小皿(端反皿)【瀬戸·美濃系】				17C	
SK		 	CC25	75 × (70) × 13	不明						
S K	1051	"	CD24	21 × 20 × 9	円形						
sĸ	1052	[m]	CD23	167 × (99) × 28	不發形				土師器、 漆皮膜		
SK	1052		CD23	105 × 97 × 11	関サキマ						
SK		-	CE23	132 × 85 × 30	関丸方形 桁円形		中碗【肥前系】		土師器	18C	
SK		++	CD23	65 × 24 × 5	桁円形		1 METHODIANA			100	
SK	-	+ +	CD23	55 × 32 × 7	构円形						
sĸ		\Box	CC23	332 × (218) ×	不強形	天目茶碗·中皿·小皿·擂鉢·茶臺【瀬戸·美濃系】、 「鬼【常滑系】	中皿【肥前系】		鉄製品、銭貨	17~18C	
sĸ	1060		CC24	(123) ×(103) × 9	不發形	小皿(折縁皿 内ハゲ)・天目茶碗【瀬戸・美濃系】				16C末	
1	1061	+ +	CC24	86 × (49) × 15	不明	Mingrams パープ / / ハロハがたれた 大橋木』				.30%	
SK	_	+		$(190) \times 75 \times 40$	不明						
		H			1 773	小皿(端反皿)·中皿·擂鉢【瀬戸·美濃系】、					
sĸ	1064	111	CB23	231 × 157 × 89	不發形	小皿(端及皿)'中皿'播鈴[瀬戸'美濃米]、 大甕[常滑系]		灯明皿		17C	
sĸ	1065		CB24	24 × 20 × 10	桁円形						
sĸ	_	1 1	CB26	32 × 24 × 18	格円形						
	ــــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	لنب									

土坑観察表(15)

ユーフ	LHOU	. 75	132	10/							
遺構名	NO	区	検出位置	長径×短径×深 cm	形態	陶器()内は形状等の特徴を示す 【 】内は産地を示す	磁器()内は形状等の特徴を示す 【 】内は産地を示す	土器	その他遺物	遺物年代	備考
SK	1067	Ш	CA25	50 × 45 × 13	円形						
SK	1068	111	CB26	31 × 25 × 16	楕円形						
SK	1069	Ш	CA27	80 × 75 × 9	不整形						
SK	1070	111	CA27	26 × 23 × 20	円形						
SK	1071	111	CA27	(23) × 19 × 14	不明						
SK	1072	111	CA27	40 × 39 × 4	円形						
SK	1073	111	CA27	(83) × (54) × 10	不明						
sĸ	1075	111	CB27	(97) × (48) × 13	不明						
SK	1076	III	CB27	228 × (142) × 43	不明						
sĸ	1077	181	CC28	166 × (107) × 81	不明	中皿·瓶·擂鉢【瀬戸·美濃系】、中碗(木下弥刻印) 【肥前京焼風】、中碗【唐津系】	中碗·小杯·蓋物【肥前系】			17~18C	
SK	1078	111	CC28	(159) × (36) × 48	不明						
SK	1079	HI	CC29	37 × 33 × 20	円形						
SK	1080	111	CD29	(142) × (49) × 16	不明						
SK	1081	111	CC28	74 × (33) × 6	不明						
sк	1082	111	CC28	30 × 27 × 20	円形						
sк	1083	111	CD28	21 × 21 × 25	円形						
SK	1084	111	C121	212 × (158) × 39	楕円形	小皿(丸皿 内ハゲ、折線皿)【瀬戸・美濃系】				16C末	
SK	1085	111	CB24	(136) × (123) × 44	不整形	天目茶碗·小皿·鉢【瀬戸·美濃系】				16末~17C	
SK	1086	111	CB27	28 × 26 × 6	円形						
SK	1087	III	CC26	126 × 97 × 24	不整形				鉄製品		
SK	1088	3 111	CC26	(45) × (30) × 7	不明						
SK	1089)	CC26	86 × (56) × 26	不明						
SK	1090	III	CB25	85 × 46 × 6	楕円形						
SK	1091	1111	CE21	120 × 74 × 23	楕円形						
SK	1092	2 111	CE21	193 × 132 × 46	楕円形						
SK	1093	3 111	CA27	19 × (13) × 18	不明				鉄製品		
SK	1094	111	CA27	20 × (18) × 17	不明						
SK	1095	5 111	CC27	(101) × (53) × 26	不明	小皿【瀬戸·美濃系】				16C末	
sк	1096	ill 8	CE22	24 × 20 × 5	円形						
SK	1097	7 (1)	CA26	(37) × (13) ×	不明						
SK	1098	3 111	CC26	(215) × 134 × 87	不整形		背花中皿【中国】				
SK	1099) IV	DS17	(270) (196) 68	方形						
S K	1100) IV	DY 17	25 22 67	円形						
SK	1101	ı	DV41	49 23 33	楕円形						



第Ⅳ章 総 括

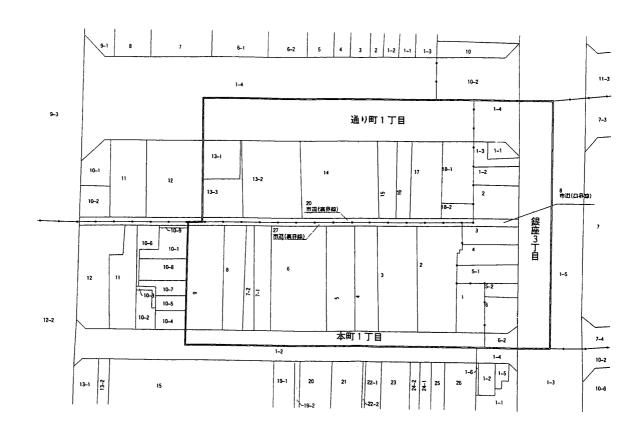
今回の調査は、飯田市橋南第二地区市街地再開発に先立つ発掘調査であり、試掘調査により遺構の遺存状態が比較的良好と考えられる個所について発掘調査を実施した。その調査結果は、本文中に記したとおりであり、2面にわたる発掘調査により城下町飯田の往時の姿に迫るものとなった。特に、16世紀末葉から17世紀前半の遺構は、城下町飯田の出発点を示す資料であり、飯田の近世史を解明する上で貴重な情報となるべきものである。また個々の遺構の中でも水琴窟は、粋で風情を愛する飯田町人の姿を示すものであろう。また、数多い遺物の中でも三ツ葉葵紋鼈甲製櫛は、当時の商人と飯田藩との繋がりを考える上で興味深い資料といえる。こうした多大な成果をあげた調査であるが、現時点の調査成果の到達点と課題について若干の考察を行い、今次調査の成果としたい。

第1節 今次調査区内の家並復元

江戸時代の飯田城下町を示す資料としては、17世紀前半に描かれた飯田城絵図(下伊那教育会蔵)等の絵図が現存する。絵図によれば今次調査区東側は街路を挟んで城の北堀となり、南側に大手門が近接している。このため北堀に隣接する地区を「堀端」と呼称してきた経過がある。実際の家並を記す資料としては、宝暦2年(1752年)・寛政9年(1797年)・天保2年(1831年)・明治23年(1890年)の家並帳が残っている(村澤 1954)。この宝暦から天保の家並帳をみると、各町屋は堀端の街路に平行する方向に棟方向を持つ細長い区画と推定されるが、昭和22年の飯田大火後、番匠町(現 通り町一丁目)や本町・堀端の街路の拡張や裏界線の整備等が行われたため、街路を基準とする家並復元は困難な状況となっている。

こうした中ではあるが、調査成果を元に家並を復元するための作業を行った。まず、宝暦・寛政・天保の家並帳を対比すると、本町側は宝暦から天保にかけて、各戸の間口はさほど変化しないのに対し、通り町(旧番匠町)側はかなり変化が見られる。このため本町側の家並に注目することにし、間口の寸法が記載され、かつ最も新しい天保2年家並帳と、平成11年の公図を対比する作業を行った(挿図5)が、江戸時代の堀端街路西端は前述のとおり拡幅されているため、家並の起点を決めることができず、公図との対比は困難であった。しかし、各町屋の間口と公図の間口の対比では、本町1丁目2番地が10m、3番地が10.3mであるのに対し、天保家並帳の万家甚兵衛宅と木下長四郎宅控の間口は共に5間3尺(約9.9m)と近似している。また、この2筆を藤家彦右ェ門宅(5間4尺 約10.3m)と万家甚兵衛宅に比定した場合、堀端に接する野原半三郎宅は現在の街路より西側に入り込んでしまうため、街路拡幅の史実にそぐわない。逆に万家甚兵衛宅と木下長四郎宅控を公図の2筆にあわせた場合、江戸時代堀端街路の西端は現在の街路より約2m東側となる。こうした点から本町1丁目2番地が万家甚兵衛宅、3番地が木下長四郎宅控と推定することができよう。

公図と家並帳の対比の他に、今次調査、区から確認された石列01と石列06は共に屋敷境を示す区画の 石積みと推定される。二つの石列間の距離はおよそ9.2mで、間口の幅を示している可能性が高い。





五間三尺五寸 上間三尺八寸 上面 一口	七間二尺九寸	四間三尺	_	五間一尺六寸	- 1	七間二尺八寸(間三尺	三間五尺 間			四間五尺 平	三間	五間	五間	五間三尺四寸 中
三 一 一 一 尺 五 寸 一 尺 五 寸 一 尺 五 寸 一 尺 五 寸 一 尺 五 寸 十 五 寸 七 五 寸 七 五 寸 七 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 寸 七 五 五 十 七 五 五 十 七 五 五 十 七 五 五 十 七 五 五 十 七 五 五 十 七 五 五 十 七 五 五 十 七 五 五 十 七 五 五 五 五 五 五 十 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	伊原虎之助	質田今主三郡	牧や伊六	幸七		新屋小三郎			問屋 野原半三郎			平野屋彌吉	鶴や宇七	濱田屋久右工門	釘や與兵衛	庄屋作左工門
岛 小 野 野 島 山 島 升 吉 吉 中 木 万 藤 藤 田 村 田 屋 田 田 島 下 屋 藤	五 間	五 間 四 寸	五間三尺	五間三尺	三間三尺五寸	四間三尺	二間三尺	五間	四間	三間二尺	_		凹間	は間にマノナ	十 日 三 デ ノ マ	八間
島田屋虎之助 島田屋虎之助 島田屋虎之助 島田屋虎之助	野原半三郎	藤屋彦右工門	万屋甚兵衛	木下長四郎控	中島や彌助控	吉田や佐七	吉田や佐七控	升屋久兵衛	島田や忠兵衛	山村屋治助	島田や久四郎	野田や清之助	野田や卯八	ト 林系三郎	大村	島田屋虎之助

挿図5 現代の公図と家並帳(天保2年)

前述の成果と組み合わせ家並を公図に当てはめると、この位置は島田屋久四郎宅に位置する。島田屋久四郎宅の間口は5間1尺5寸(約9.45m)で石列間の幅に近似しており、この区画が島田屋久四郎宅と推定される。

一方、番匠町側では平野屋弥吉に関連する商店が現存し、野原半三郎・綿屋小三郎に関連する法人の所有する駐車場が調査区内に存在した。これらを参考に、前述のとおり江戸時代の堀端街路を2m東側にずらした個所を起点として家並を当てはめていく作業を行った。しかし、間口は家並帳で判断できるものの、各町屋の奥行きがどの程度であったかは判断できない。

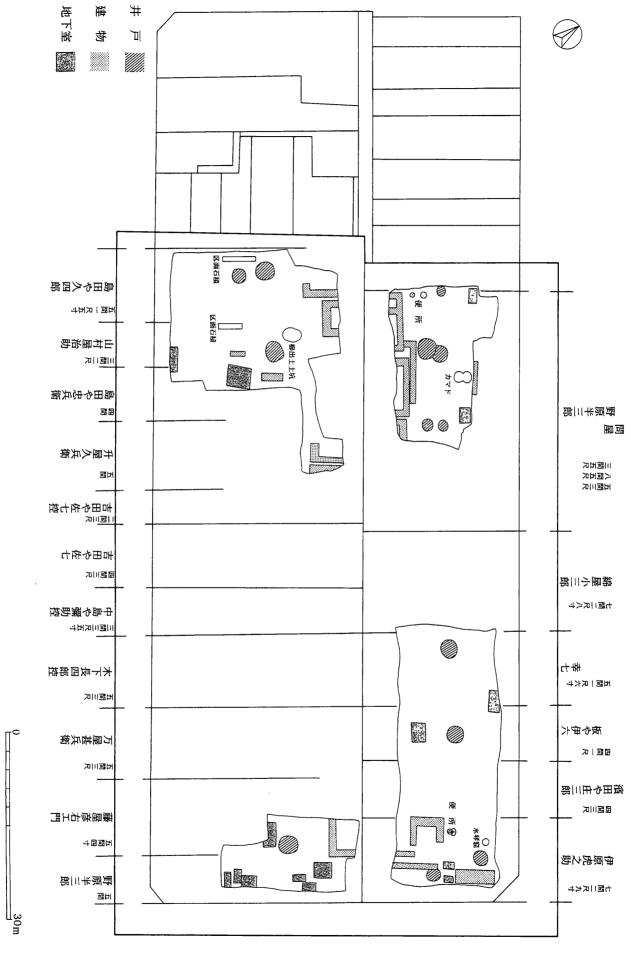
こうして公図内に天保年間の家並を当てはめ、更に調査成果を重ね合わせ、想定町並図を作成した (挿図6)。この想定図には建物基礎や区画石積、井戸、地下室、便所及び主要遺物出土遺構を入れてい るが、建物基礎については原位置で観念的に表記している。想定図中、最も広い間口を持つ野原半三郎 邸に注目すると、現在の通り町街路側(北東側)から南西に建物基礎→カマド→井戸→建物基礎の順で 遺構が配置されている。 当時の街路は北東側にあたるため、この方角にある建物基礎が母屋と推定され、 南西側の建物基礎群は土蔵である可能性が高い。また、IV区北側に集中する建物基礎群も野原邸の土蔵 基礎と主軸が同一であり、これらが野原邸の土蔵基礎に含まれる可能性が高い。またI区北側の建物基 礎もIV区の建物基礎と平行するため、このラインが番匠町側と本町側の境と推定される。土蔵と母屋の 間には建物が見られず、中庭として利用されていたと推定される。想定図に示していないごみ穴等の土 坑はこの空間に集中しており、母屋と土蔵の間の空間は常にごみ穴等の掘削場所として利用されていた ことが推定される。また野原邸の場合、井戸が合計4基確認されているが、土蔵に接する2基については 石が抜かれ埋め戻しを受けている。寛政9年の家並帳などでは野原邸が細分され、異なる人物の屋敷が 記されていることから、野原邸が天保期の規模になる段階で既存の井戸を埋め戻した可能性が考えられ る。また野原邸内には少なくとも4~5棟の土蔵が確認されており、同時期並存数は不明であるものの、 間口の広さ等を考慮してもかなりの豪商であったことが推定される。同様に水琴窟が作られた井原虎之 助邸も複数の土蔵基礎が確認されている。

一方、建物基礎が見られない他の町屋の中で、本町側の藤屋彦右衛門邸や番匠町側の板や伊六邸に注目すると、井戸及び地下室は造作されるものの、地下室の配置に規則性は見られない。このため母屋から町境までの裏側は、井戸を除くとかなりのスペースをもつ裏庭があったと考えられる。この空スペースは、ごみ穴等のスペースとして利用されていたと推定されよう。

次に調査で確認された井戸の配置状況を見ると、ほぼ各戸に1基の井戸が設置されていたと推定される。各戸における井戸の位置も、全体としては街路と平行した直線上に並ぶ規則性が認められ注目される。また便所は、土蔵のある2軒のみに見られ、いずれも2基1単位で、母屋から離れた中庭部分に配置されている。これは外便所が作られ、大便所と小便所が分けられていたことによるものと考えられる。

ところで、三つ葉葵紋鼈甲製櫛が出土した土坑274は、想定図によると山村屋治助邸にあたる。山村屋邸は間口3.2間と本町側では小規模な部類で、野原邸に代表される豪商とはかなり格差が見られる。また櫛に共伴した陶磁器は18世紀代であるが、陶磁器類が製作された年代と廃棄された年代には隔たりがあることを考慮する必要がある。

以上から天保期の本町、番匠町の町屋は、現在の通り町の街路及び本町の街路側にそれぞれ広がっており、その町境は現在の裏界線より南側である可能性が高い。また、野原邸・伊原邸にみられる母屋→



挿図6 家並復元図

中庭→土蔵の順で配置され、中庭内には井戸・便所が作られる豪商的な町屋と、母屋→裏庭のみの町屋の2種類が存在したと考えられる。

第2節 水琴窟について

今次調査の特筆すべき内容の一つとして、土坑370の水琴窟がある。水琴窟については、愛知県名古屋市名古屋城三の丸遺跡で、土坑内に逆位に埋置された常滑焼の甕・鉢類が4例(S X 111~S X 114)調査されており、転置甕として報告されている。その内容は、『土坑中に、底部に穿孔した常滑窯産の大形甕又は鉢を伏せた状態で配置した一連の遺構、穿孔は全て焼成後に為されており、この施設に用いられた甕、鉢類は一般製品の転用と考えられる。これは、穿孔部分から汚水を流し、甕内において、地中への自然浸透を図る一種の汚水処理施設と考えられ、この方法が特異に発達したものがいわゆる「水琴窟」となる。転置甕は、その処理能力からみて、台所など、一時に多量の排水を流す部分での使用は困難であり、断続的に少量の汚水を出す、「手水鉢」等と組み合わされ、設置されたものと考えられる」(財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1990)とされる。

今次調査された土坑370はまさにこうした設置状況を示す転置甕であり、水琴窟であることは疑いない。窟洞として常滑焼の赤物(赤焼き)とよばれる大甕が使われており、口径65cm、高さ約70cm、縁の部分が肥厚する。甕の生産年代は19世紀代で、当初水甕として使われていたと考えられるが、縁の部分が壊れたため、底に穿孔して水琴窟の窟洞として転用されたと考えられる。現地表面から甕底部までの深さは約20cmであるが、既存施設の解体作業等により窟口部分は失われており、残念ながら水琴窟の上部構造は判らない。明治から飯田大火後まで同所にあった綿彦商店(呉服商)の杉山尚次氏によれば、先々代の頃より茶室と手水鉢・小さな池や大きな岩のある庭園があったということであり、水琴窟の存在についても記憶されていた。

水琴窟が庭園施設として作られるようになったのは江戸時代中期以降といわれ、発掘された6例(愛知県名古屋市名古屋城三の丸遺跡4例、兵庫県伊丹郷町遺跡、東京都文京区東京大学構内遺跡)のうち、18世紀前半に製作された常滑産甕の転用例が初出で、19世紀の中頃には窟洞専用器としての甕生産が始まっていることが判明している(江戸遺跡研究会編 2001)。もっとも盛んに作られたのは明治以降のようで、飯田城下町遺跡内では他に明治初年に作られたとされる水琴窟の例がある。

以上より、今次調査の水琴窟は明治初年以降に造られたものと考えておきたい。

【引用参考文献】

- ・財団法人 愛知県埋蔵文化財センター 1990 『名古屋城三の丸遺跡 (Ⅱ)』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第16集
- ・江戸遺跡研究会編 2001 『図説江戸考古学研究事典』こうした状況から
- ・龍居造園研究所編 1990 『水琴窟の話』 建築資料研究社

第3節 鼈甲製櫛について

今回の調査で特筆される遺物として、ゴミ穴(土坑274)から見つかった櫛がある。漆塗りで表裏面に蒔絵(まきえ)が施されており、丸に三ツ葵の家紋(いわゆる『三ツ葉葵』)や松・藤などの草木文があしらわれている。文様が表裏面で『三ツ葵』紋が同位置にくるように意匠されているとともに、『三ツ葵』紋は葉の表裏面が意識され表裏で表現が異なっている。鼈甲(べっこう)製と考えられる。

この『三ッ葵』紋の蒔絵が施された鼈甲製櫛について、櫛研究の第一人者橋本澄子氏に写真により鑑定をお願いしたところ、

- ・形・文様を総合するとかなり格調の高い櫛と思われる。
- ・屋敷跡からの発掘品は過去にかなり発見されているが、蒔絵の施されたものは珍しく、この種の 櫛は実用品としての解櫛(ときぐし)というより、装飾品としての挿櫛と思われる。
- ・棟幅が細く、文様は棟から歯の部分まで続いており、中心の『丸に三ッ葵』紋も歯の部分まで施されている点、時代は下るのではないかと考えられる。
- ・文様の施されている飾は、棟の部分に限られていて歯の部分と区別されるのが一般的であり、そのうち歯の部分が短くなり、棟の部分を広くとり文様が主になってきた。その結果棟と歯の境を無視して大きく模様を画く様式が18世紀末からみられるようになった。この櫛の模様もその様式が影響されているものと考えられる。
- ・『三ツ葵』紋については、蕊(葉脈)の数等から将軍家か御三家か区別が可能であるが、不鮮明 で断定できない。

という御所見をいただいた。「江戸時代後期文化・文政期以後の飾り櫛は多彩なものが生まれ、材質には木・象牙・鼈甲・馬爪(ばず)・牛爪・ガラスなどが用いられた」(橋本 1983)ことから、文化・文政年間以降に位置づくものと考えておきたい。

この鼈甲製の櫛がどのような経緯で商家に渡ったのか、今のところ不明である。しかし、本櫛が文化・文政年間以降に位置づくものと考えられることから、この頃に絞ってみる。すると、この時期には、堀氏10代藩主堀親書(1786~1848年)が、幕府の奏者番・寺社奉行、さらに若年寄・御側用人を経て老中格として天保の改革に参画している。外様の小大名として破格のこうした出世は、堀氏の水野忠邦をはじめとする幕府重役との婚姻政策に拠るところが大きいことが指摘されている(鈴川 2002)。さらに、親書が領内より巨額な御用金を徴収し、幕府への奉公金として支出していたこともまた、幕政への参与の足がかりとなったことは容易に想像がつく。この御用金徴収を支えた政策として、武士や役人への取立など特権の売買を柱とした親書の撫民政策があったとされる(同前)。追手門から延びる目抜き通りに位置するとはいえ、決して裕福とはいえない商家跡から出土したこの鼈甲製の櫛は、こうした親書が採った報償制度の一端を窺う資料といえよう。類例として、市内には他にも『三ッ葵』紋がついた文物があることが知られており、中には将軍家慶(在位1837~1853年)の紋と考えられるものもある。すなわち、親書は領民から徴した御用金と婚姻政策を背景として幕閣としての権勢を得て、将軍家等から賜った品々を御用金等の見返りに領民へ下賜したとも考えられる。さらに飛躍するが、天保の改革が株仲間といった特権階層の解体などを目論んでいたことからみて、その飯田の領民が御用金を提供した背後には大消費地江戸への参入といった飯田商人の思惑が働いたのではないかと考えられる。

また、堀親審・親義(1814~1880年)親子に焦点をあてると、櫛が廃棄されるに至った事情も朧気ながら浮かび上がってくる。親審 同様、親義も奏者番になり幕政に参与し、幕末には京都守護職松平容保ともに京都の治安維持にあたった。さらに徳川慶喜嘆願を岩倉具視に出すなど、倒幕派と鋭く対立した。この結果、飯田藩は新政府ににらまれ、新政府は飯田城を徹底的に破却するに至っている。こうした幕末明治初年の飯田藩をめぐる政治状況に、『三ツ葵』紋の鼈甲製櫛も翻弄され、ごみ捨て穴に廃棄されたのではなかろうか。火事で焼けたり、破損したりしたものでない点、特殊な事情で廃棄されたことを物語るといえる。

とはいえ、話は逸れた。考古学的には、遺構・遺物の項で述べたとおり、櫛に伴出した遺物は18世紀 代の様相を示している。櫛が出土した遺構の年代については、これ以降であることは間違いないが、残 念ながら詳細時期を把握するまでには至っていない。遺構の時代性のさらなる検討、そして文献史学か らのアプローチに、この櫛がたどった数奇な運命の解明を期待したい。

【引用参考文献】

鈴川 博 2002 『消された飯田藩と江戸幕府』 南信州新聞社

橋本澄子 1983 『くし 櫛』國史大辞典4 吉川弘文館

第4節 出土陶磁器の概観

今次調査区からは16世紀末~20世紀代までの各時代時期の陶磁器類が出土している。これらの遺物は比率を提示することはできないが、16世紀末から17世紀初頭は瀬戸・美濃系が圧倒的に多く、器種としては折縁皿・折縁ソギ皿・丸皿等の小皿類を中心に、天目茶碗・擂鉢類が見られる。瀬戸・美濃系以外には常滑系の翌類、中国磁器類が少量出土している。遺物の製作年代のみ注目すると、この16世紀末から17世紀初頭は、飯田城を含む伊那郡が、武田氏の支配から織田・豊臣氏による支配へと移り変わった段階で、毛利・京極両氏により本町や番匠町が城下町としての整備された時期に相当する。これ以降19世紀まで瀬戸・美濃系陶器類が圧倒的に多く出土し、肥前系の磁器類、肥前系の陶器類、京・信楽系、備前系の順で少なくなる傾向がある。飯田藩は17世紀後半から藩主が堀氏へ替わり、伊那街道・三州街道・秋葉街道を利用した中馬による物資輸送が盛んな時代を背景に、瀬戸・美濃系のみならず各地の陶磁器類が城下町に流通したと考えられる。幕末の19世紀には遺構数が減少するものの、瀬戸・美濃系の磁器類が少量のみ見られるが磁器類の主体は肥前系である。こうした傾向は平成11年度調査個所とも共通している。中国陶磁類は平成11年度調査の特定遺構からの出土による伝世・収集等の所見と異なり、当該時期の遺物が出土する遺構からの出土事例が多いが、肥前系磁器の流入と共にその数を減らす傾向にある。

この他、鼠志野沓形碗や織部等の高級茶器・食器類は極めて少なく、磁器類も上絵が施されるものや 薄手の小杯等は僅かで、厚手の碗・皿類が主体となる。

第5節 縄文時代から中世の様相

ここでは江戸時代を除く今次調査区の土地利用について概観する。

1) 縄文時代

Ⅲ区B面を中心に縄文時代前期前半及び中期後半の遺物が散漫に分布する。遺構は確認されていないものの、縄文時代前期前半は数十軒単位の大規模な集落が各地に見られるようになる時代である。飯田市内でも松川を挟んで南側対岸の田井座遺跡等で集落が確認されているため、今次調査区周辺にも大規模な集落が存在した可能性がある。

2) 弥生時代

各地区B面から弥生時代後期の方形周溝墓が合計4基確認されているが住居址は確認されていない。 平成11年度調査区からも方形周溝墓が1基確認されており、当該地周辺が弥生時代後期には集落域では なく墓域として利用されたことが推定される。

3) 古墳時代

須恵器片が出土しているが当該期のものか判断できない。第Ⅱ章の中でも触れてきたが、市内に古墳が存在した可能性があり、或いは弥生時代後期に引き続き墓域として利用されていた可能性もある。

4) 奈良。平安時代

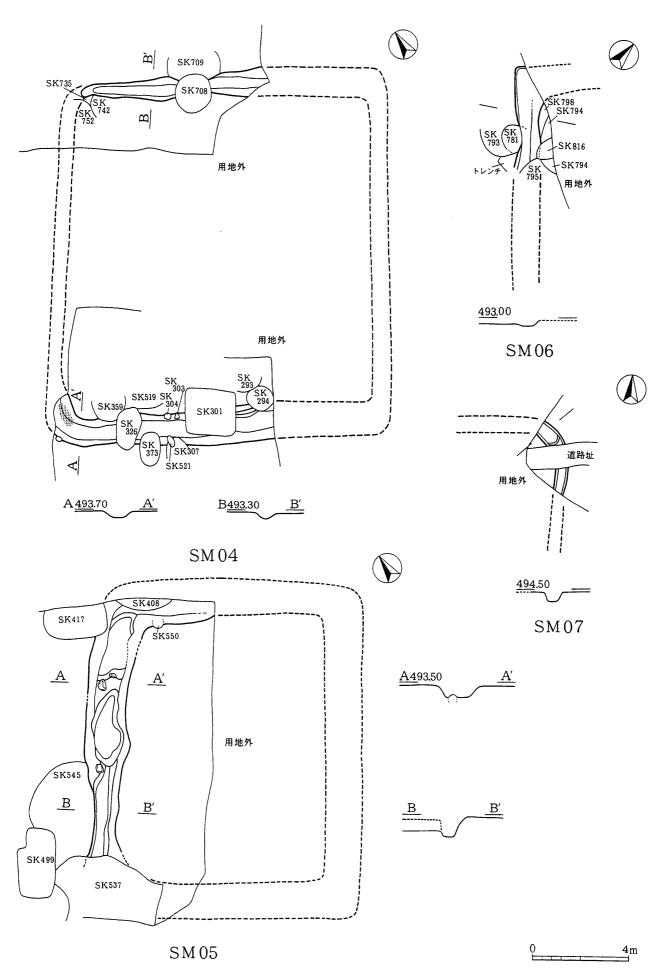
平成11年度調査区からは直線的な溝が検出されている。今次調査区からも溝址31・32によって区画された道路址が注目され、溝址の埋土中からは土師器片が少量出土している点から、平安時代の可能性を有している。道路幅が約3mと狭く、官道に特徴的である土坑状の掘り込みの連続もはっきりとは捉えられなかったものの、官道の支道である可能性も否定できない。道路址以外の住居址等の遺構は確認されておらず、集落域以外の土地利用が行われていたと推定される。

5) 中世

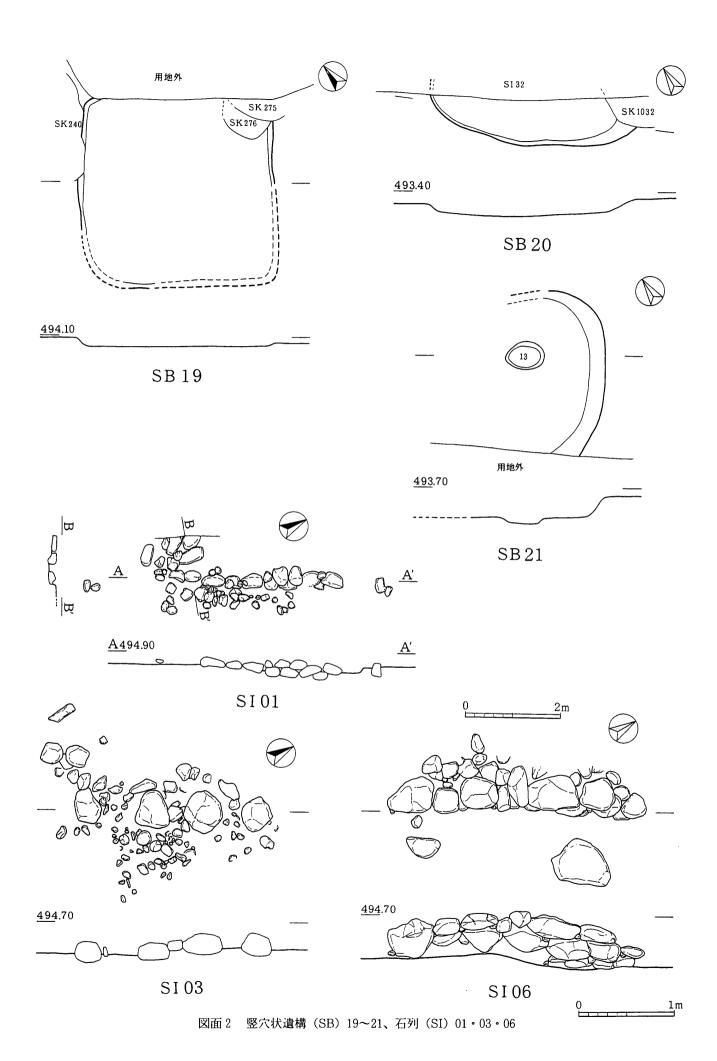
II 区B面北側・IV 区B面南側を中心に、平面形が方形で、遺構埋土が江戸時代の土坑と異なる柱穴が多数検出されている。掘立柱建物址を構成する柱穴群である可能性が高いが、建物址として捉えられる配置は確認されなかった。すでに述べてきたとおり、本町及び番匠町が城下町として整備されたのは16世紀末から17世紀初頭であることを考慮すると、城下町整備以前から、この地域に飯田城に付随する集落もしくは城関連の施設が存在していた可能性が高い。

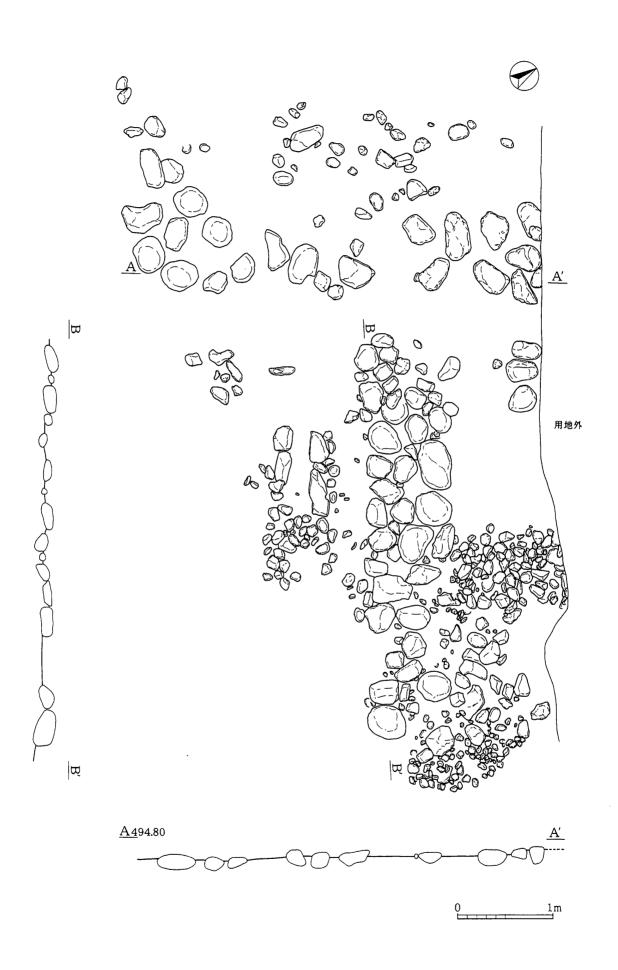
第6節 結語

前述のとおり、今次調査は既存建物基礎による遺構面の破壊個所が多く、計画地全域をすべて調査し たわけではない。しかし、平成11年度調査の成果を受け、2面にわたる調査を実施し、江戸時代初頭か ら幕末にかけての城下町の移り変わりを確認することができた。特に、享保年間の家並帳と調査成果の 擦りあわせにより、当時の短冊形の区画内での商家や町屋の建物配置がある程度つかめたことは大きな 成果といえる。しかしながら各遺構の詳細や配置状況等について十分な考察を行うことができず、また、 時間的制約や担当者の資質により膨大な量の出土遺物に関する観察が誠に不十分であることは否めな い。こうした状況であるものの、江戸時代から連綿と続く本町・通り町一丁目の調査区は、近代的な複 合施設として、新たな街を形成する一翼を担うこととなった。しかし今次調査の成果を含め、大火で失 われた城下町としての飯田の歴史・風土・文化を明らかにし、学び伝えていくことこそ未来の飯田に必要 欠くべからざる我々の重要な使命であることを肝に銘じなければならない。また現在、今次調査区周辺 では老朽化した建物の更新や再開発が計画され、これらに先立つ発掘調査が進行中である。こうした成 果も踏まえ、失われた城下町を再び蘇らせるための更なる検討が必要となろう。また、今後更なる開発 も予想される飯田城下町遺跡では、これまで以上に文化財保護の本旨に沿ったたゆまない努力が肝要と なろう。なお、発掘調査にあたり、地元本町・通り町の方々、関連する諸機関の皆様方、発掘調査に携 わった方々には多大なご支援をいただき無事調査を終了する運びとなった。文末ではあるが感謝申し上 げる次第である。

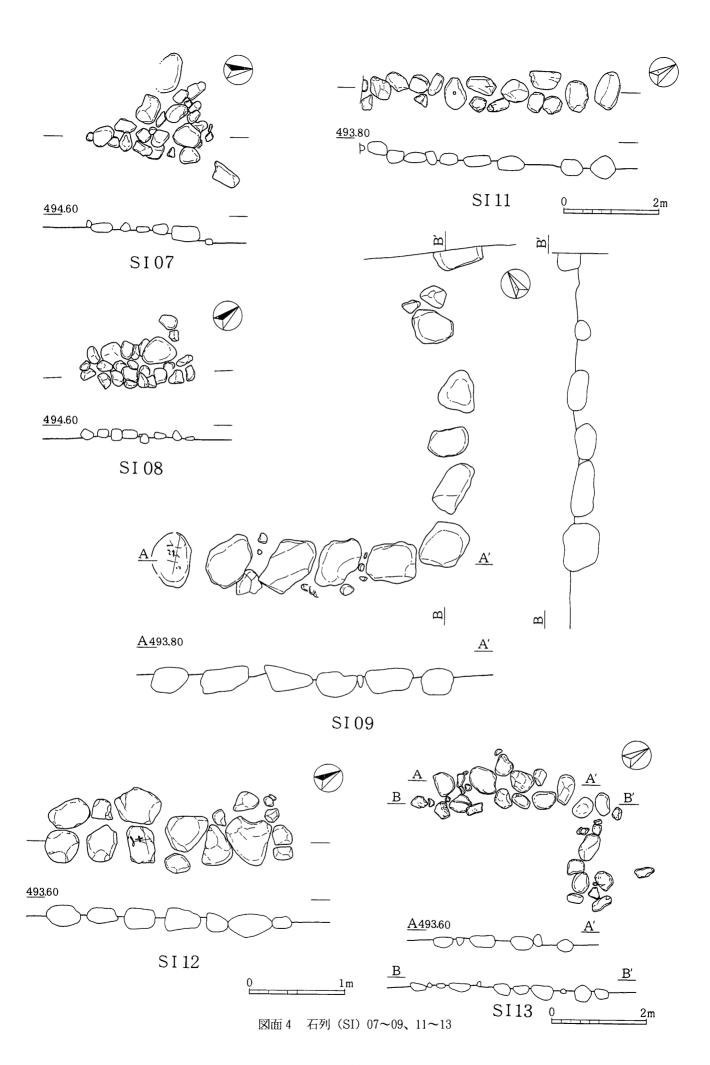


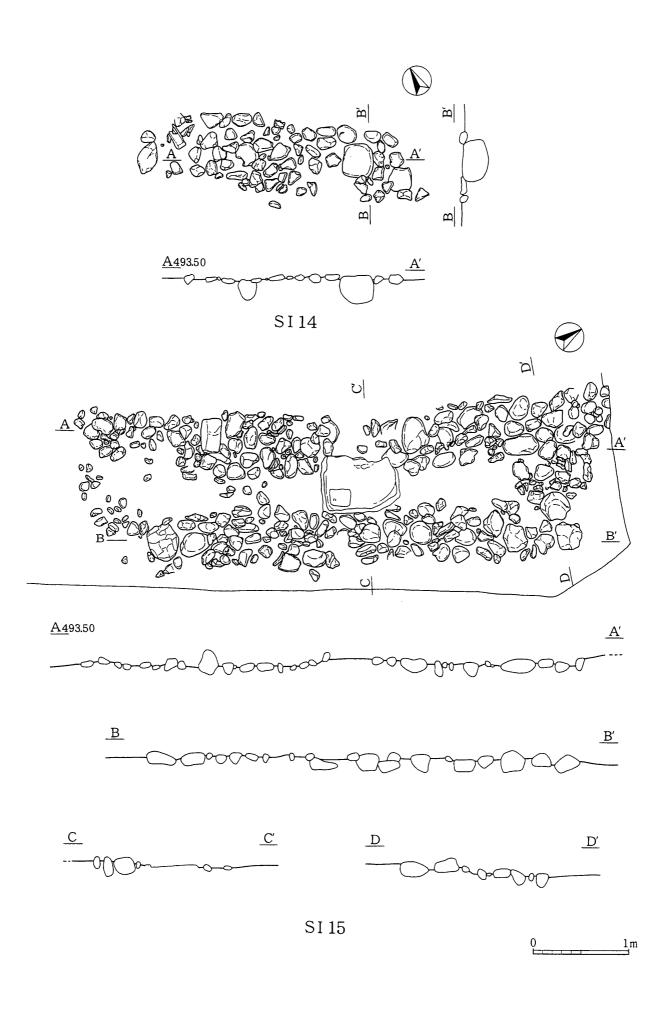
図面 1 方形周溝墓 (SM) 04~07



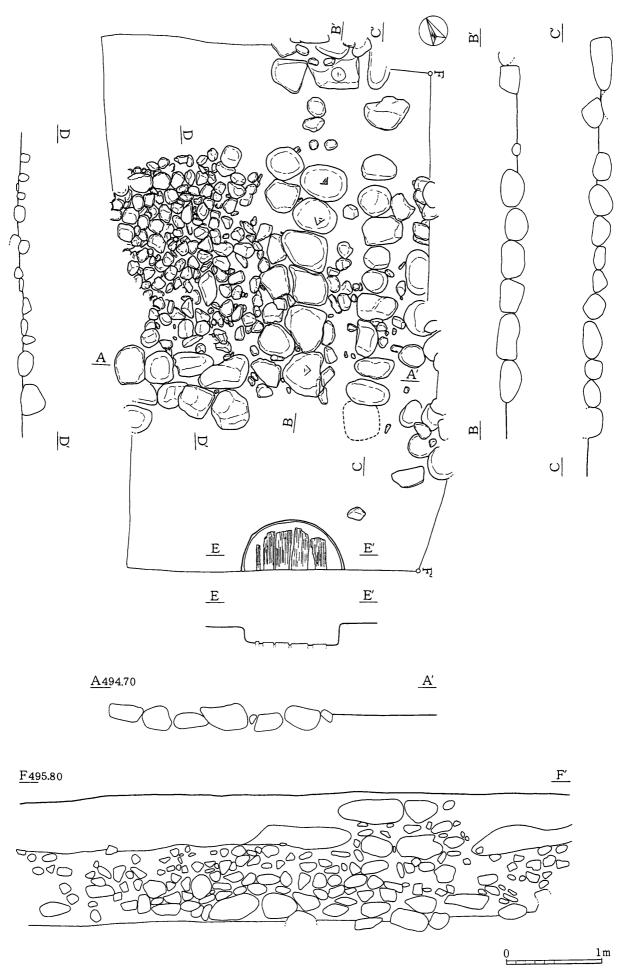


図面 3 石列 (SI) 04

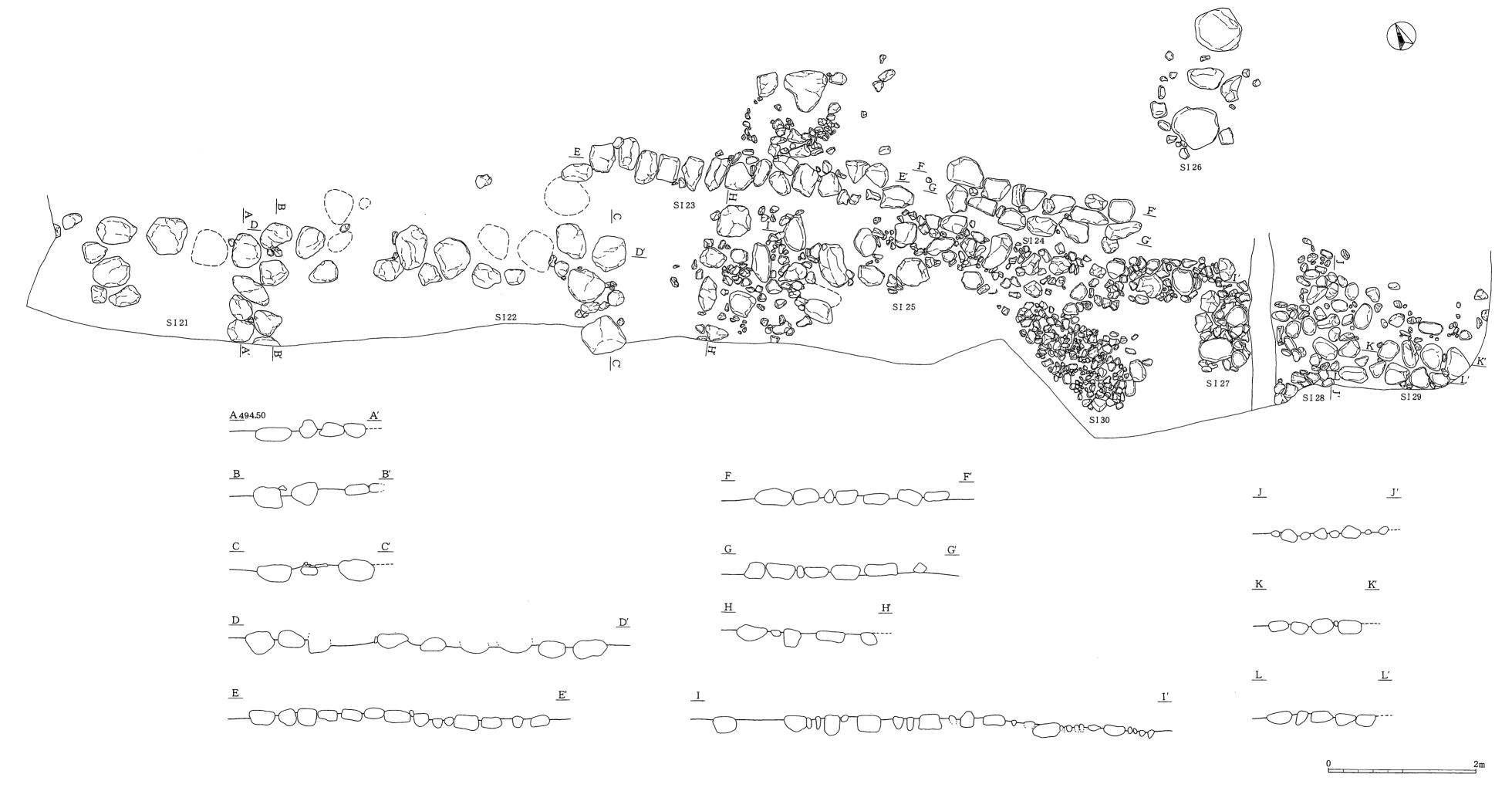




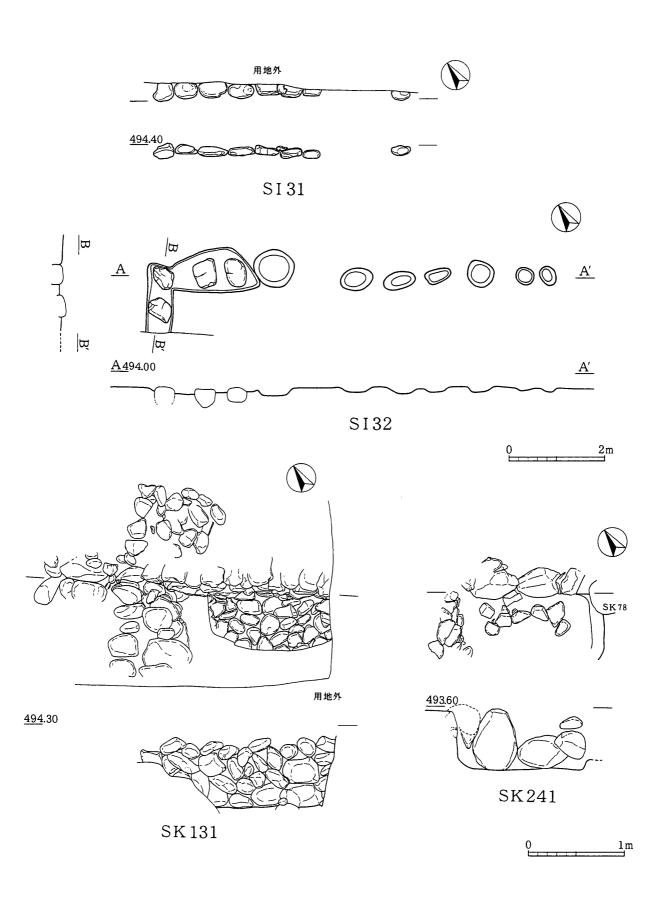
図面 5 石列 (SI) 14・15



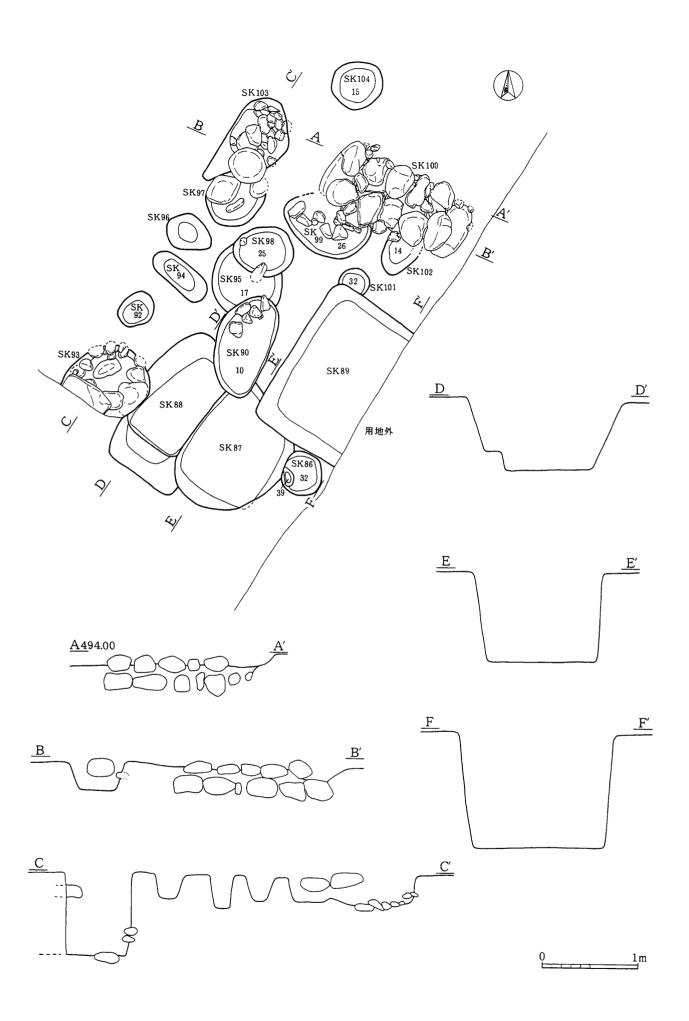
図面 6 石列 (SI) 33・34、土坑 (SK) 135



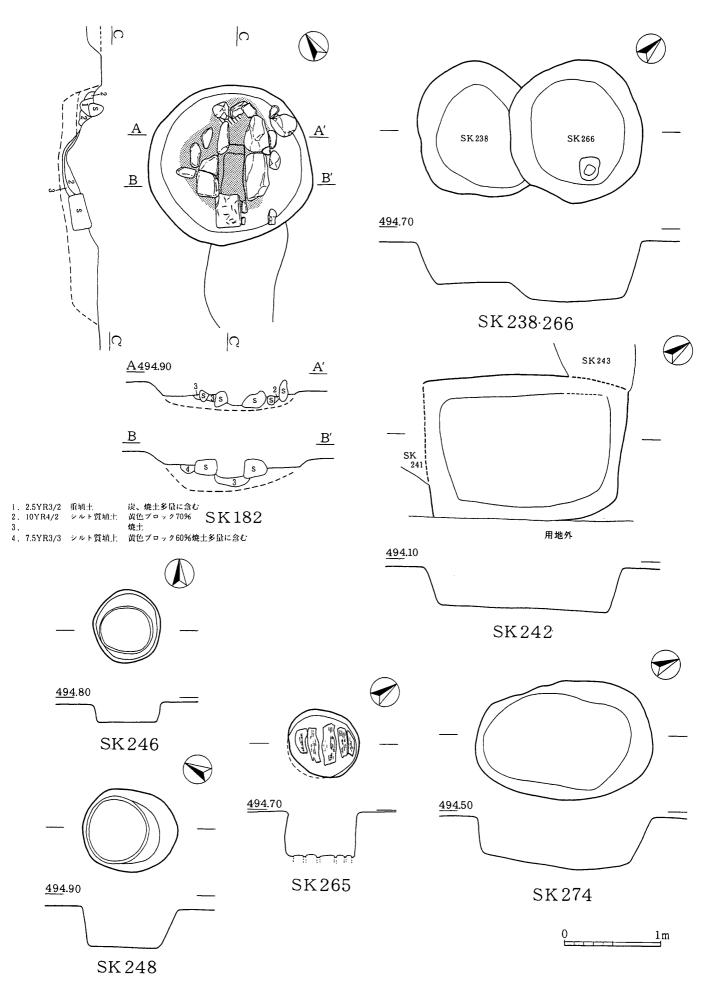
図面7 石列 (SI) 21~30



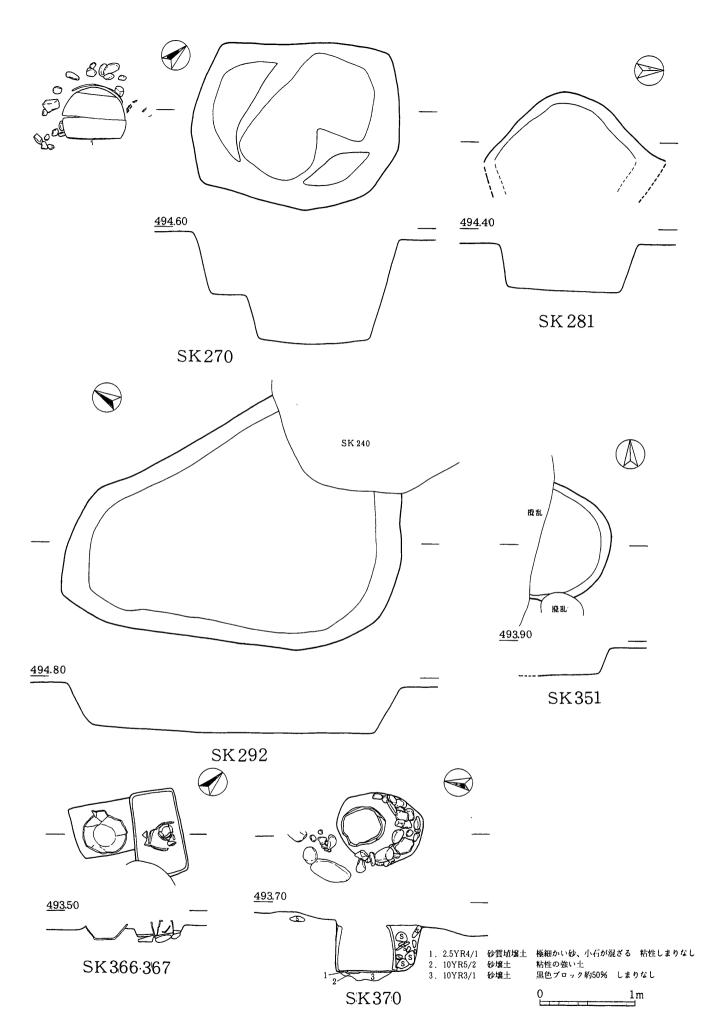
図面 8 石列 (SI) 31·32、土坑 (SK) 131·241



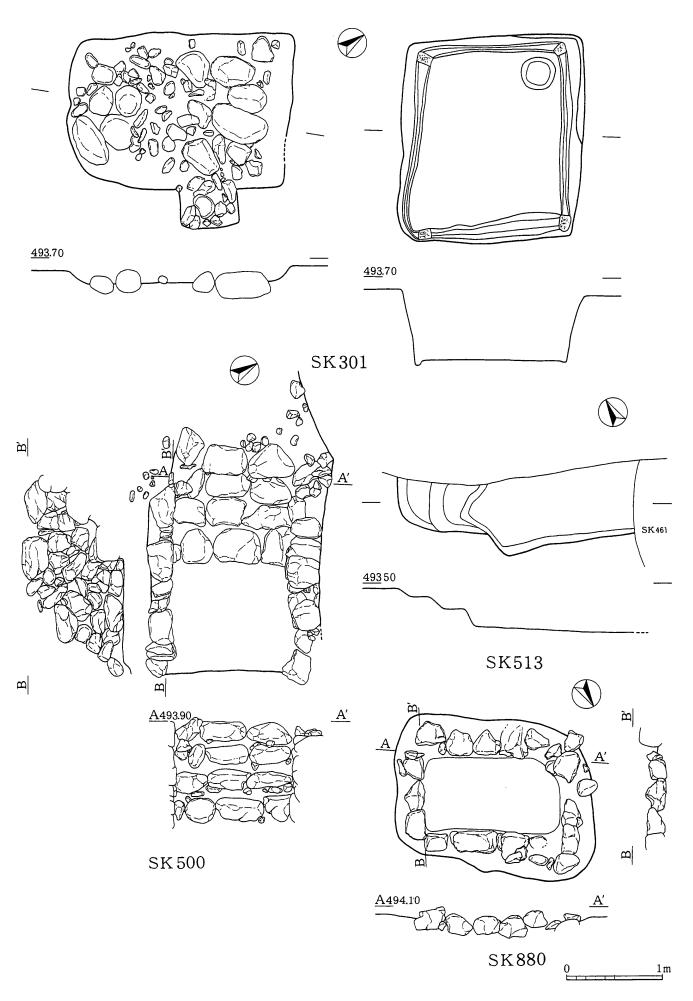
図面 9 土坑 (SK) 86~90・92~104



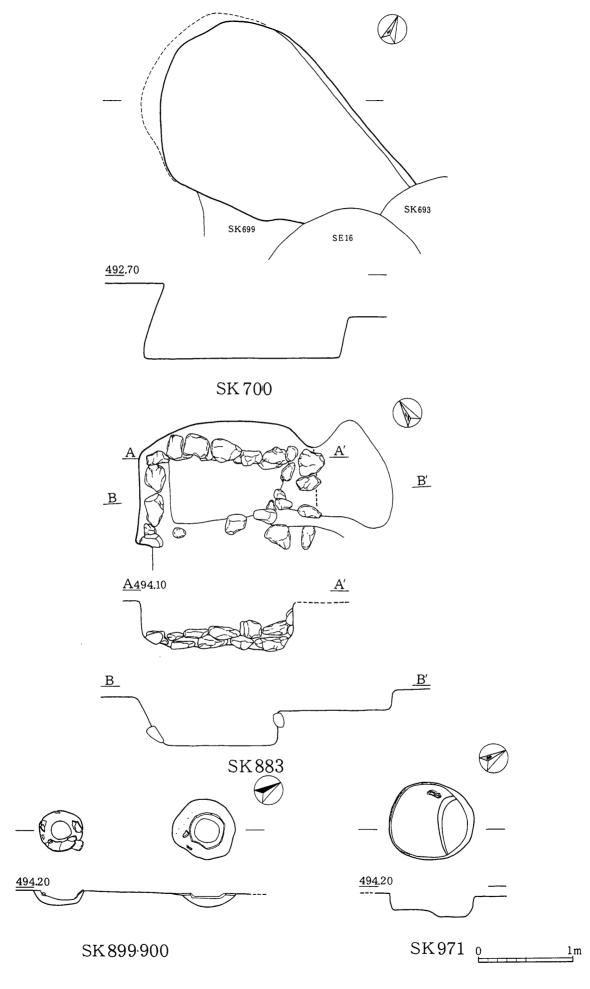
図面10 土坑 (SK) 182・238・242・246・248・265・266・274



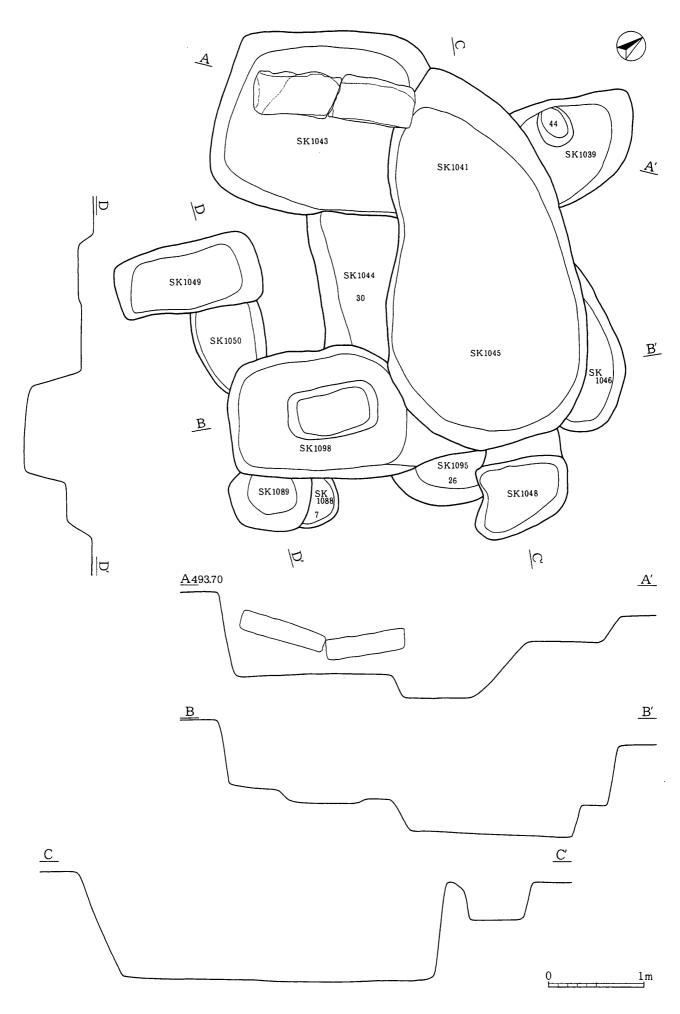
図面11 土坑 (SK) 270・281・292・351・366・367・370



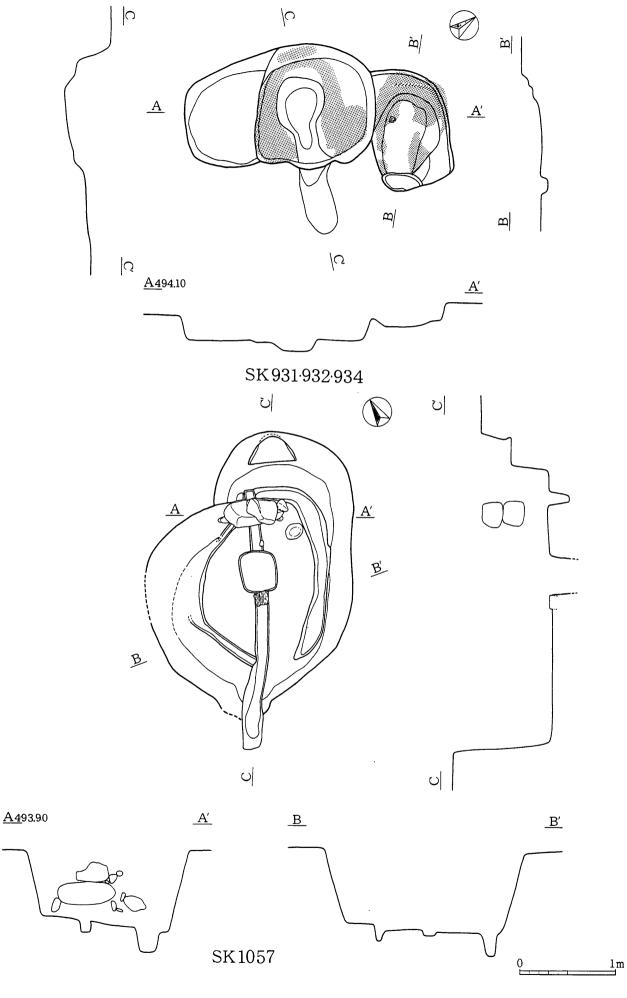
図面12 土坑 (SK) 301・500・513・880



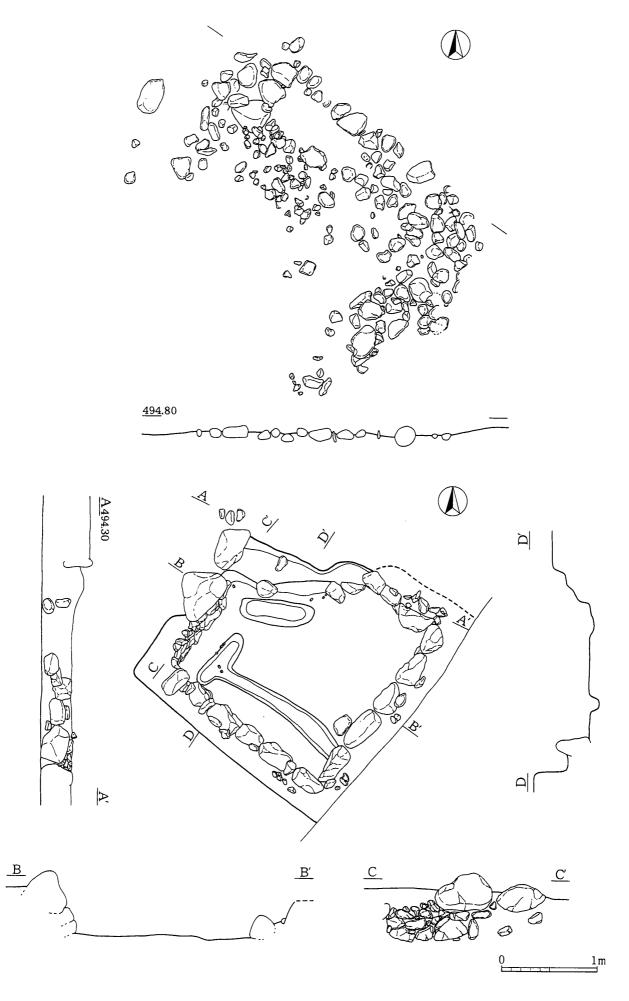
図面13 土坑700・883・899・900・971



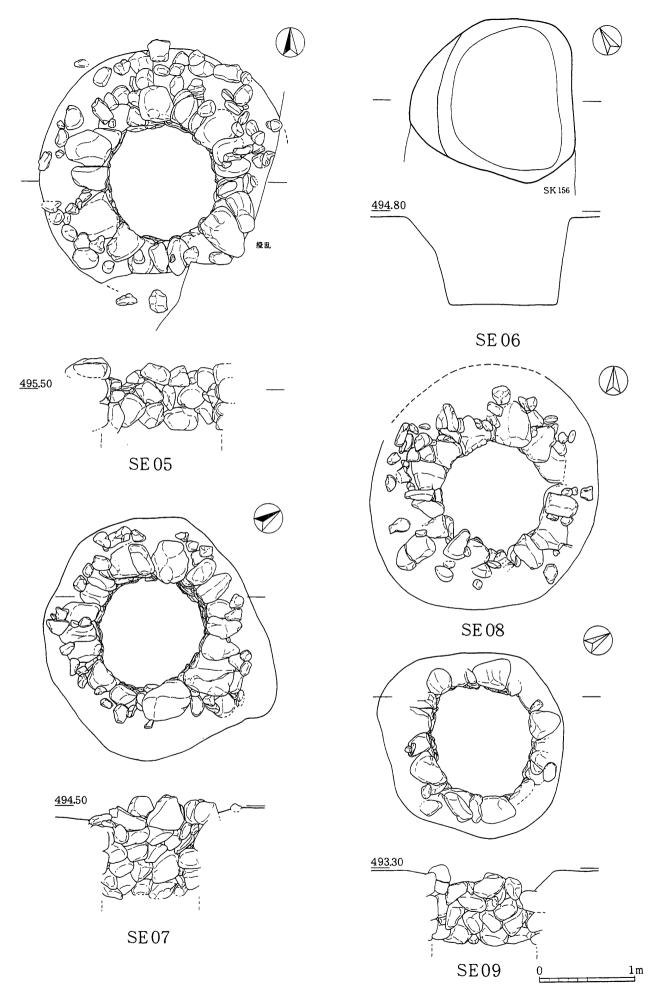
図面14 土坑 (SK) 1045周辺



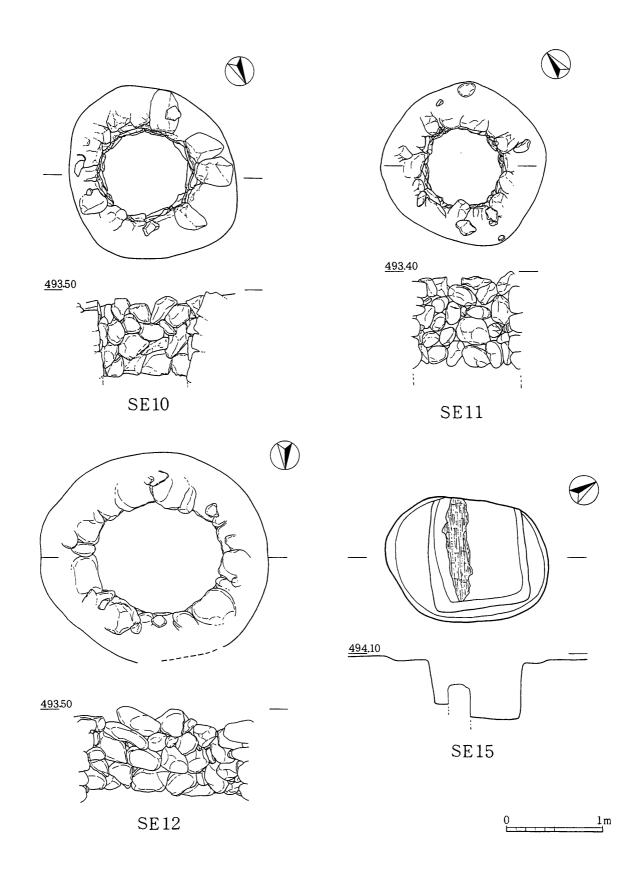
図面15 土坑 (SK) 931・932・934・1057



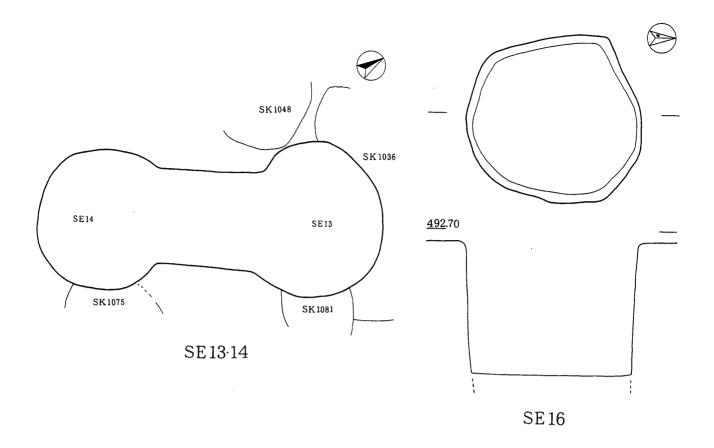
図面16 土坑 (SK) 1099

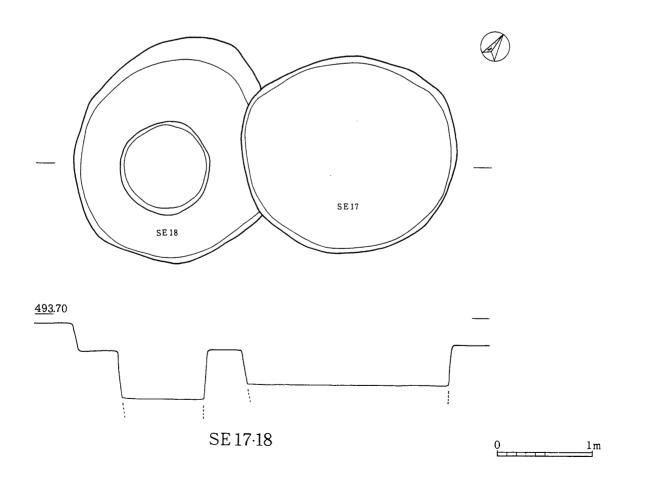


図面17 井戸址 (SE) 05~09

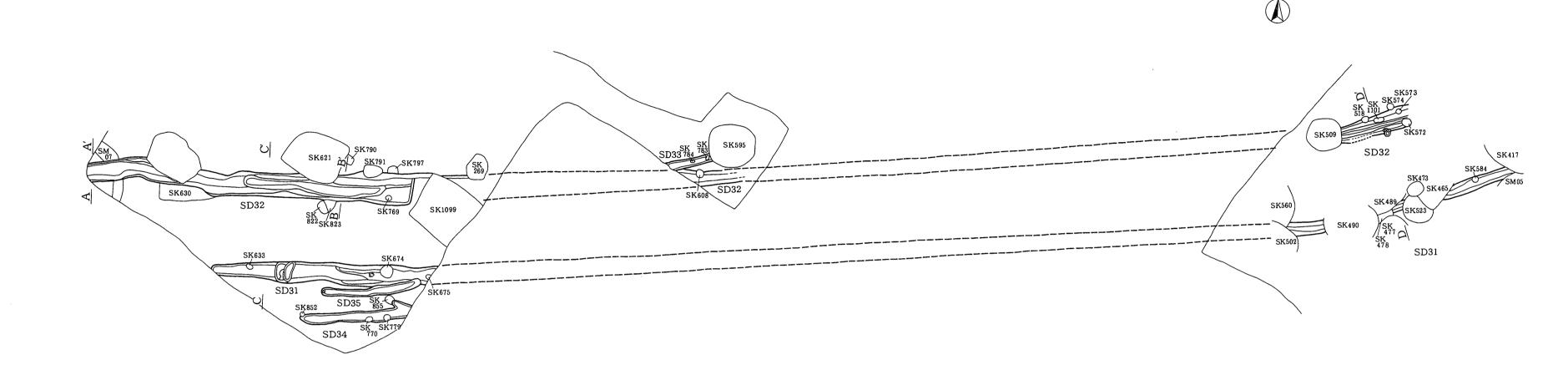


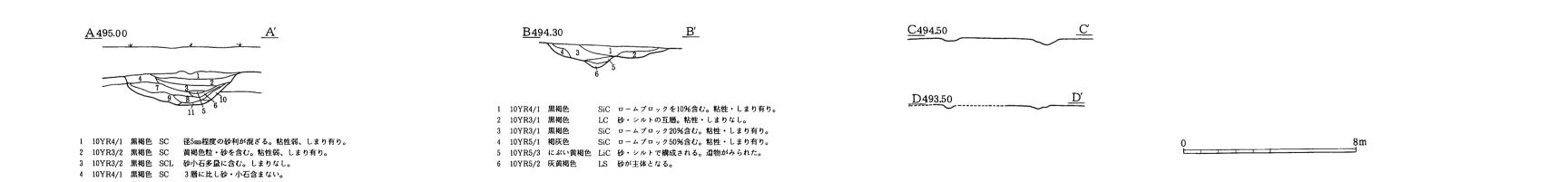
図面18 井戸址 (SE) 10~12・15





図面19 井戸址 (SE) 13・14・16~18





 5
 10YR2/2
 黒褐色
 SCL
 細かい砂・シルトより構成される。

 6
 10YR2/1
 黒色
 SiCL
 砂を含まない。粘性・しまり有り。

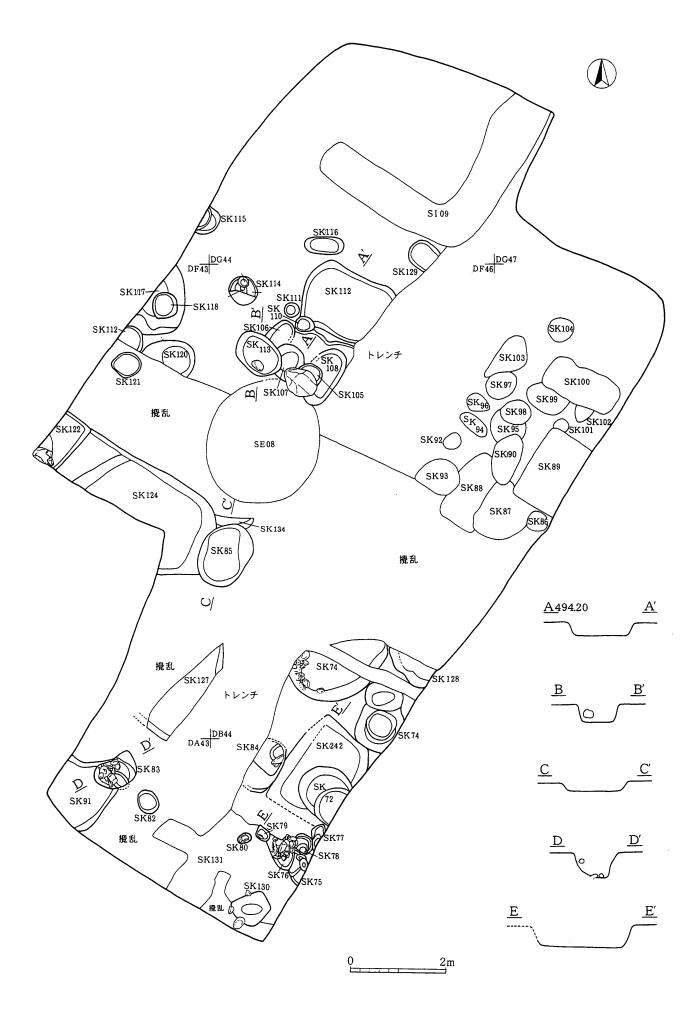
 7
 10YR2/2
 黒色
 SiCL
 六層と同じで色の差のみで分層。

 8
 10YR3/2
 黒褐色
 SC
 砂・黄色粒子・小石含む。

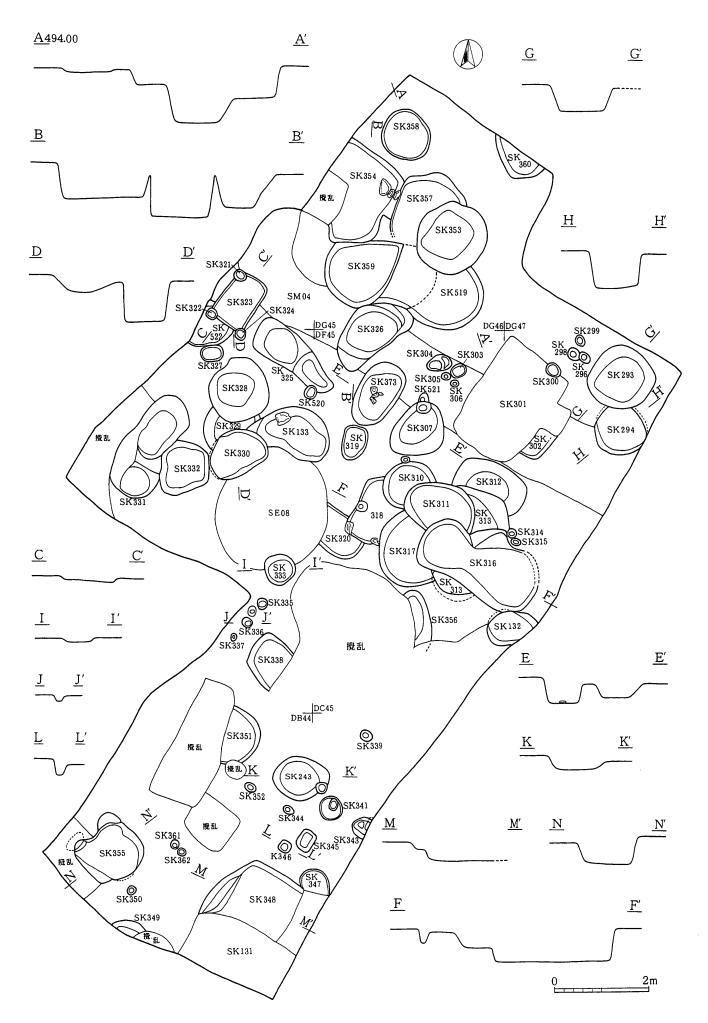
 9
 10YR4/1
 黒褐色
 SiCL
 黄色粒子を含み粘性・しまり有り。

 10YR3/1
 黒褐色
 SiCL
 9層に近似。粘性・しまり有り。

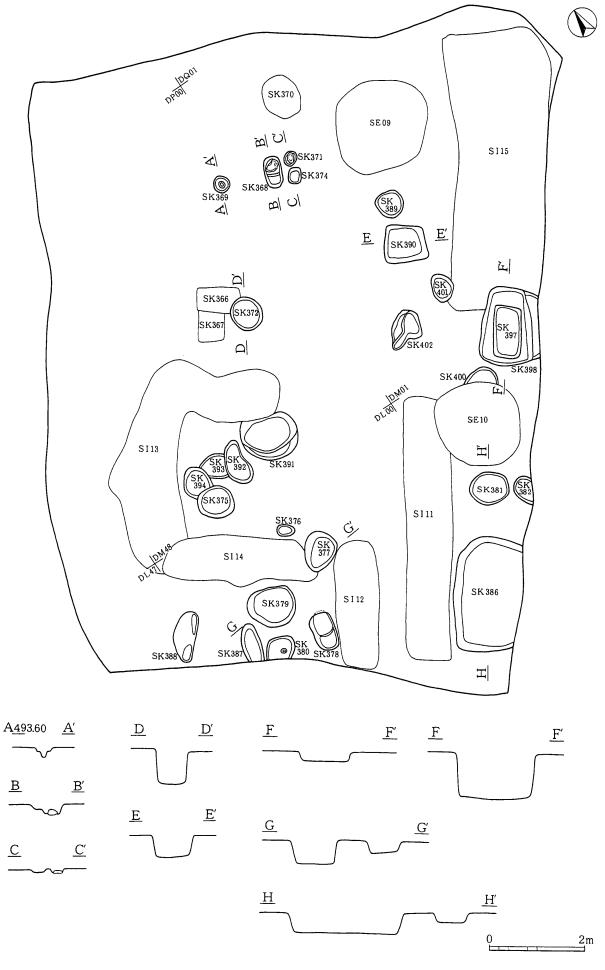
11 10YR2/1 黒色 SC 小石・砂・シルトから構成される。 遺物がみられた。



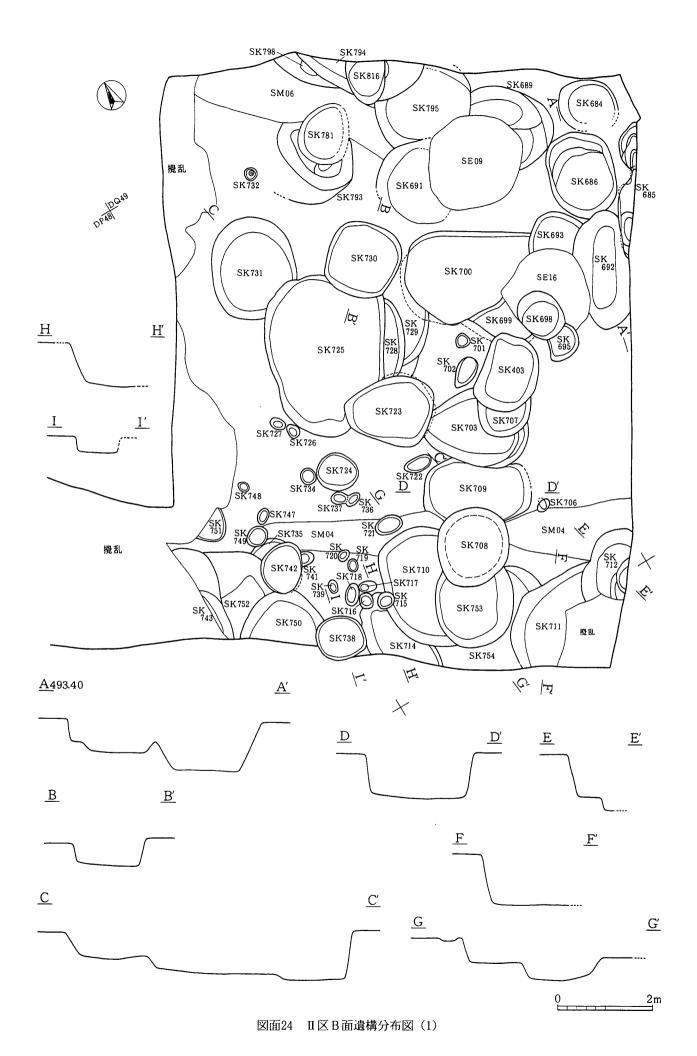
図面21 I区A面遺構分布図



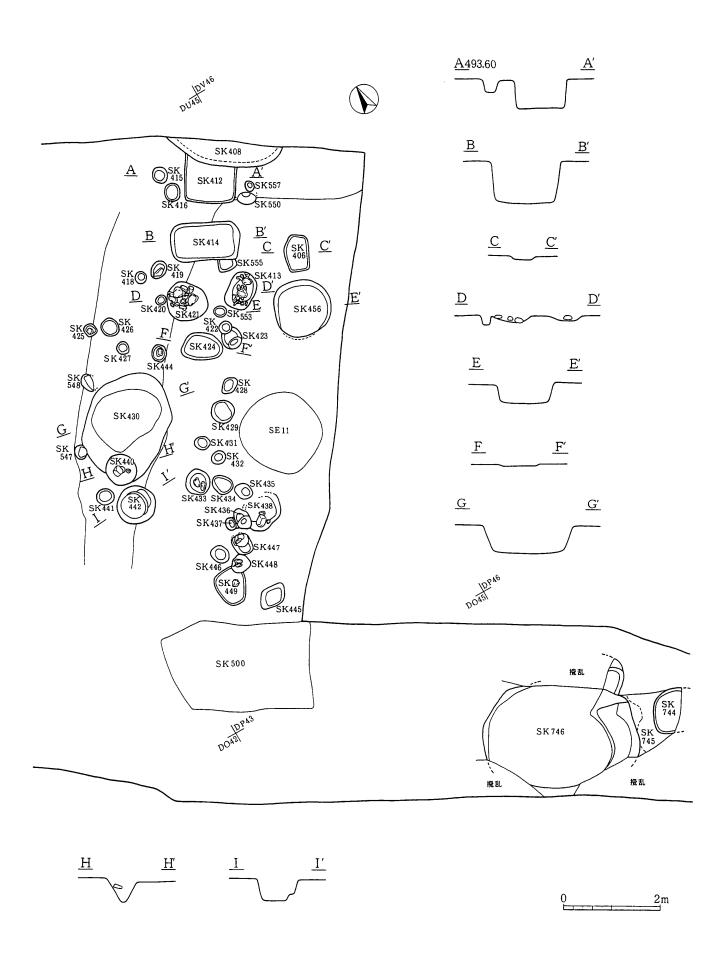
図面22 I区B面遺構分布図



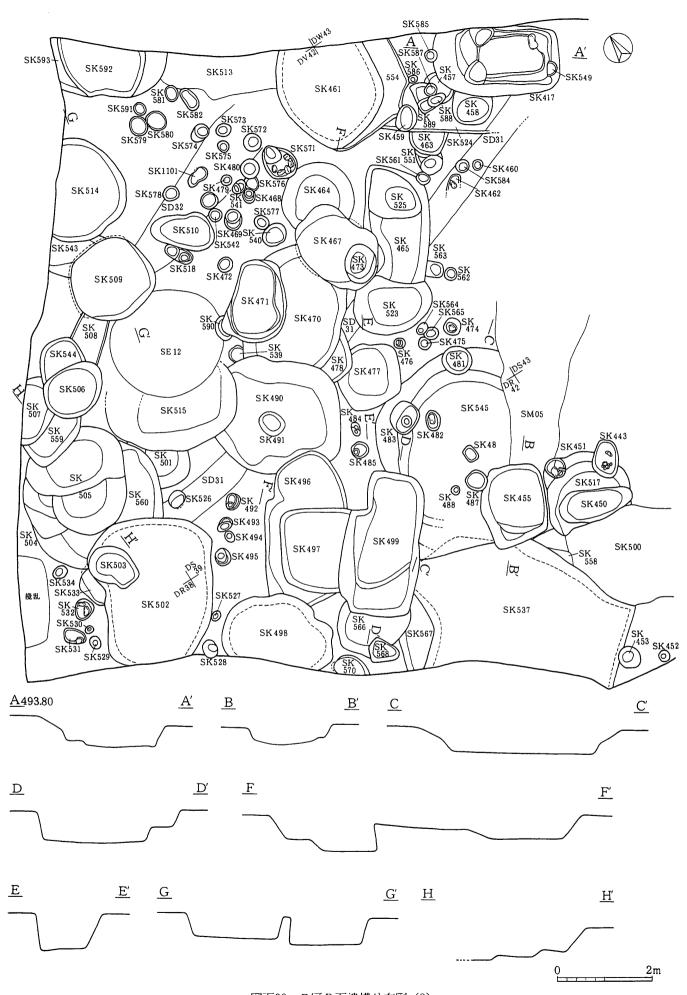
図面23 Ⅱ区A面遺構分布図



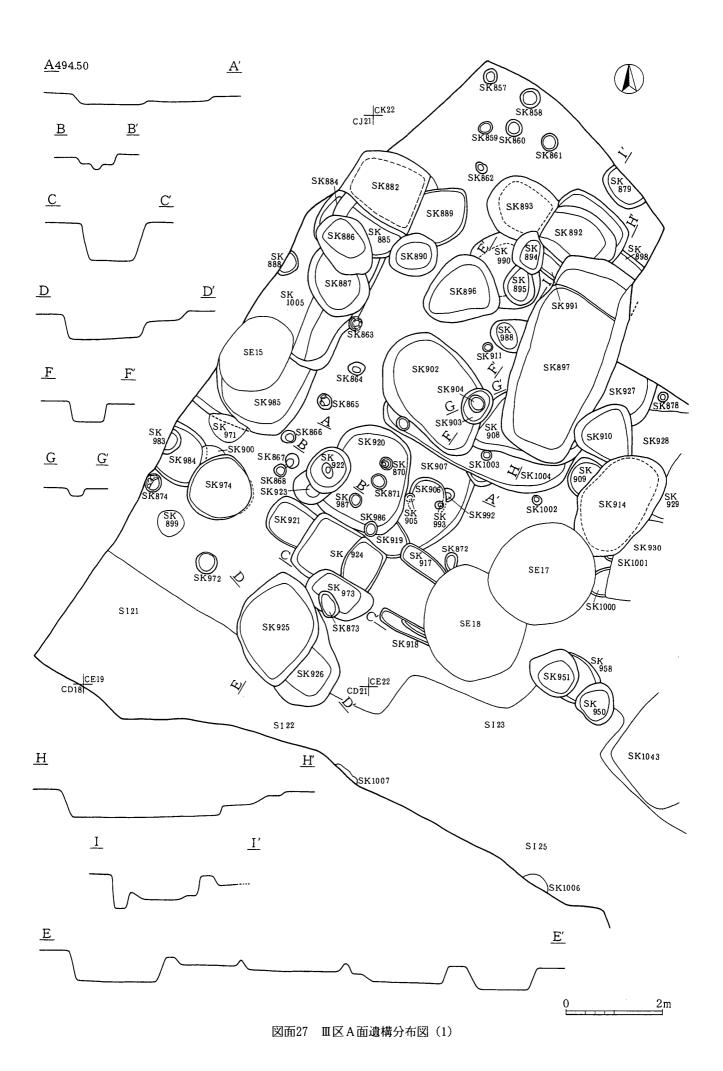
-88-

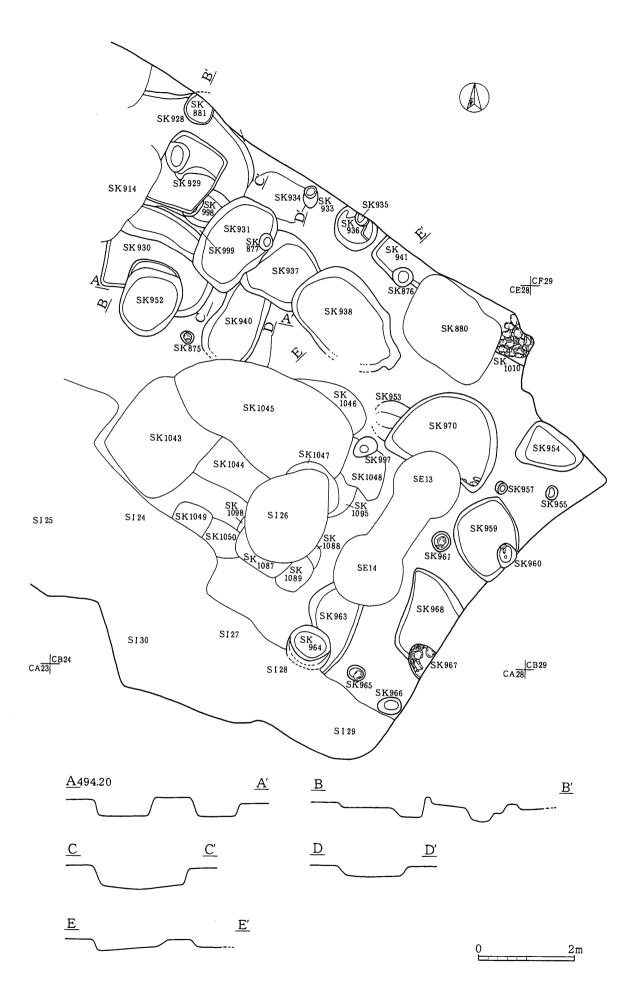


図面25 Ⅱ区B面遺構分布図(2)

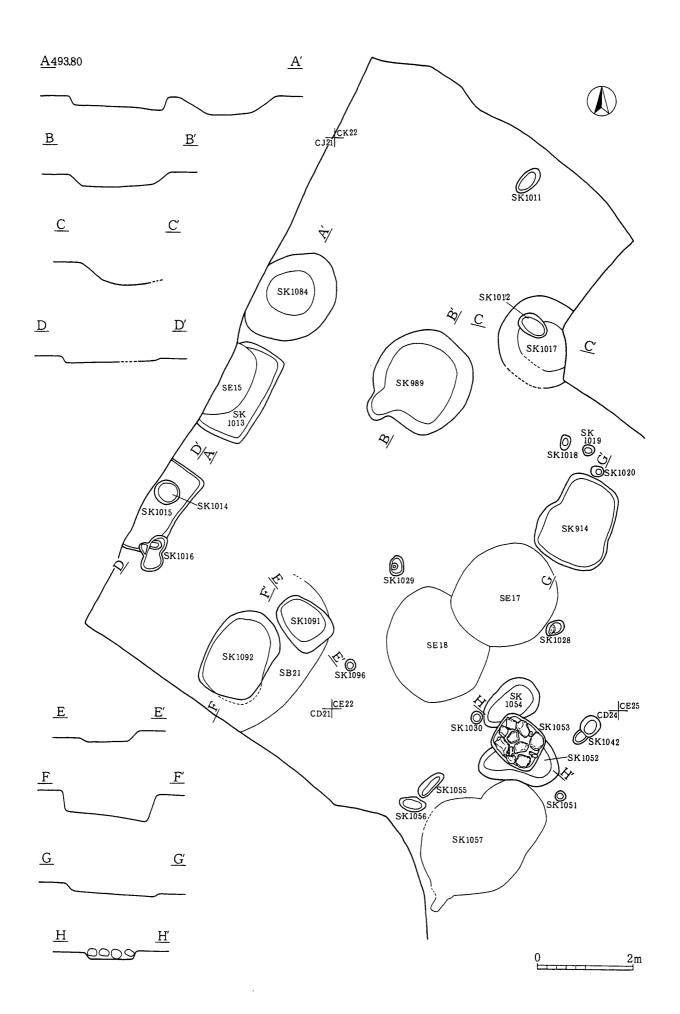


図面26 Ⅱ区B面遺構分布図(3)

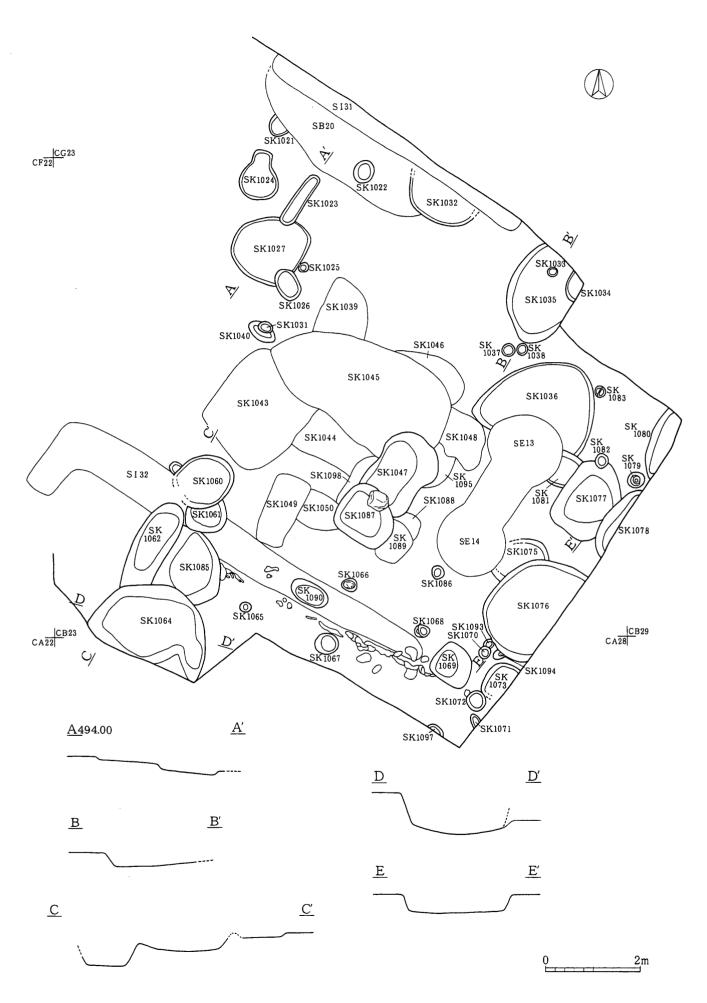




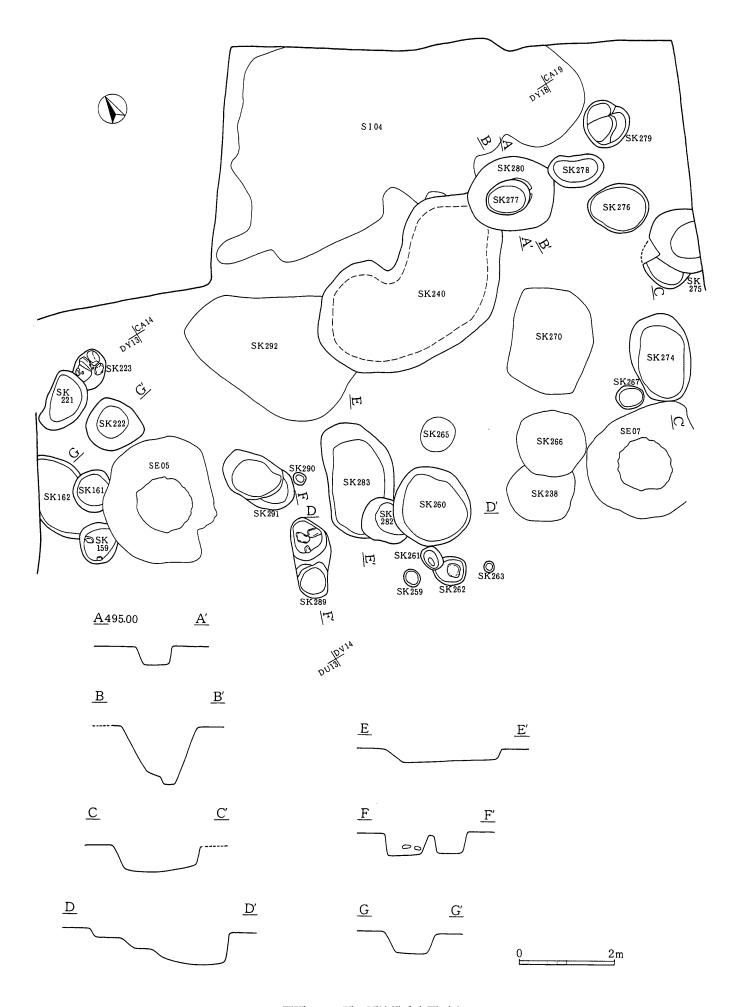
図面28 III区A面遺構分布図(2)



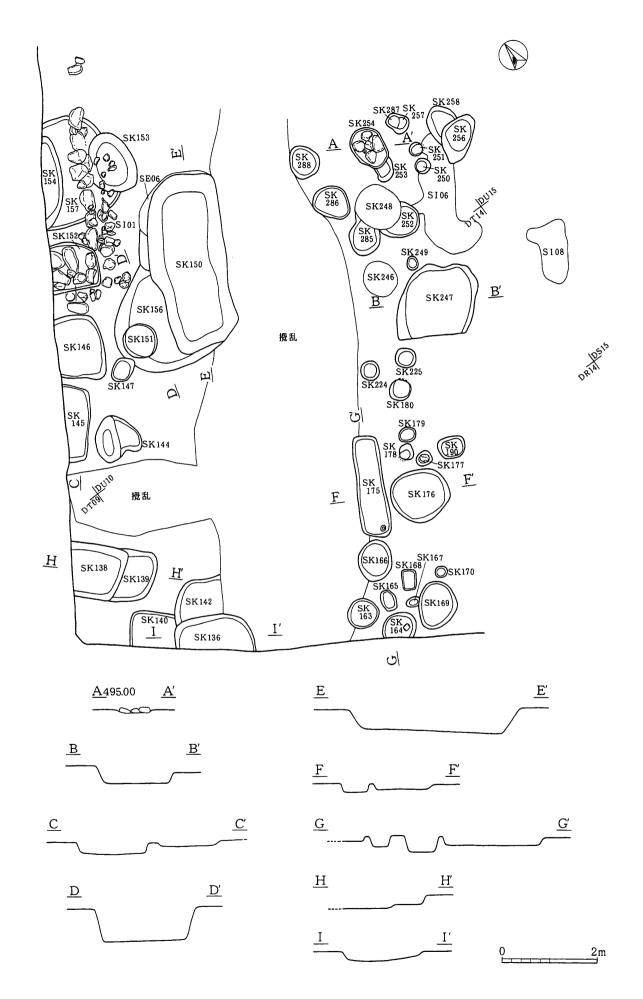
図面29 Ⅲ区B面遺構分布図(1)



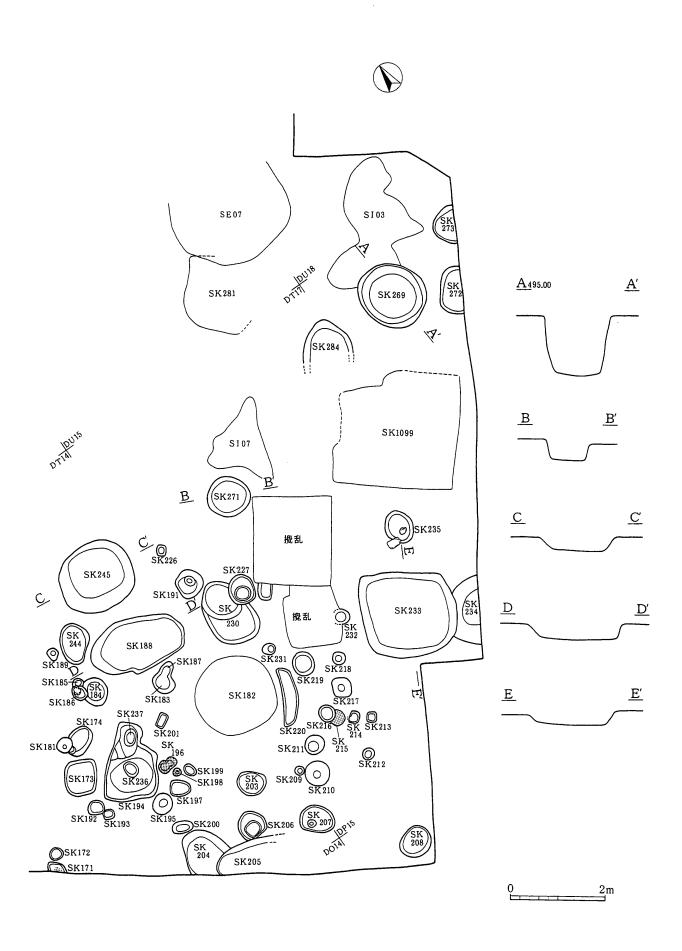
図面30 Ⅲ区B面遺構分布図(2)



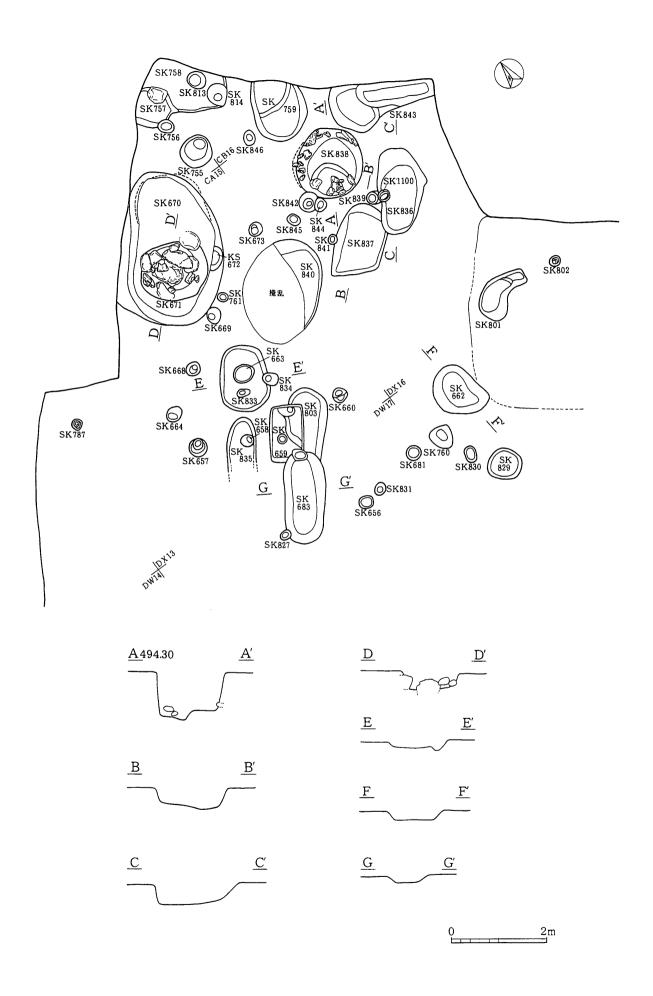
図面31 N区A面遺構分布図(1)



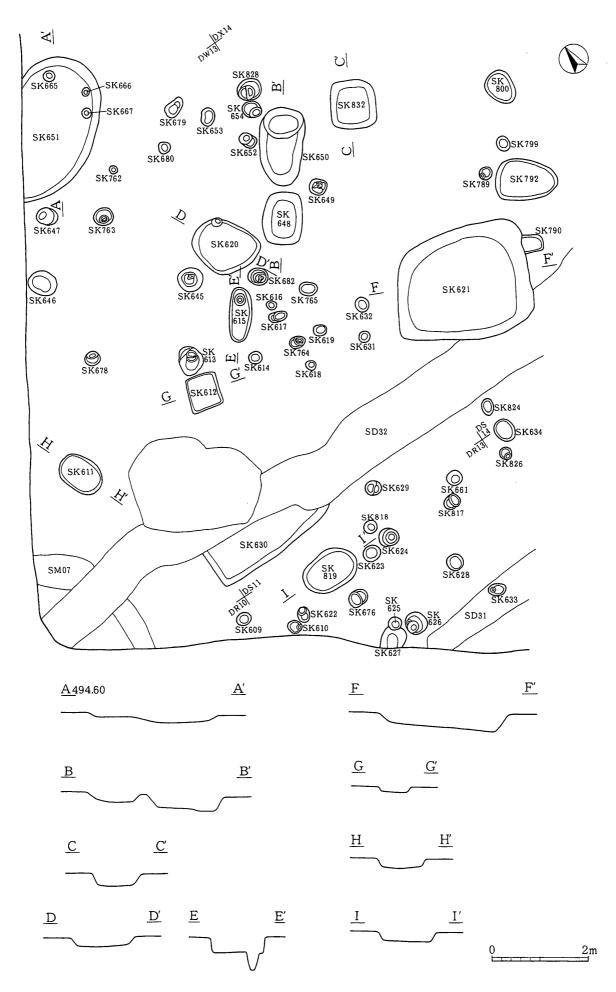
図面32 IV区A面遺構分布図(2)



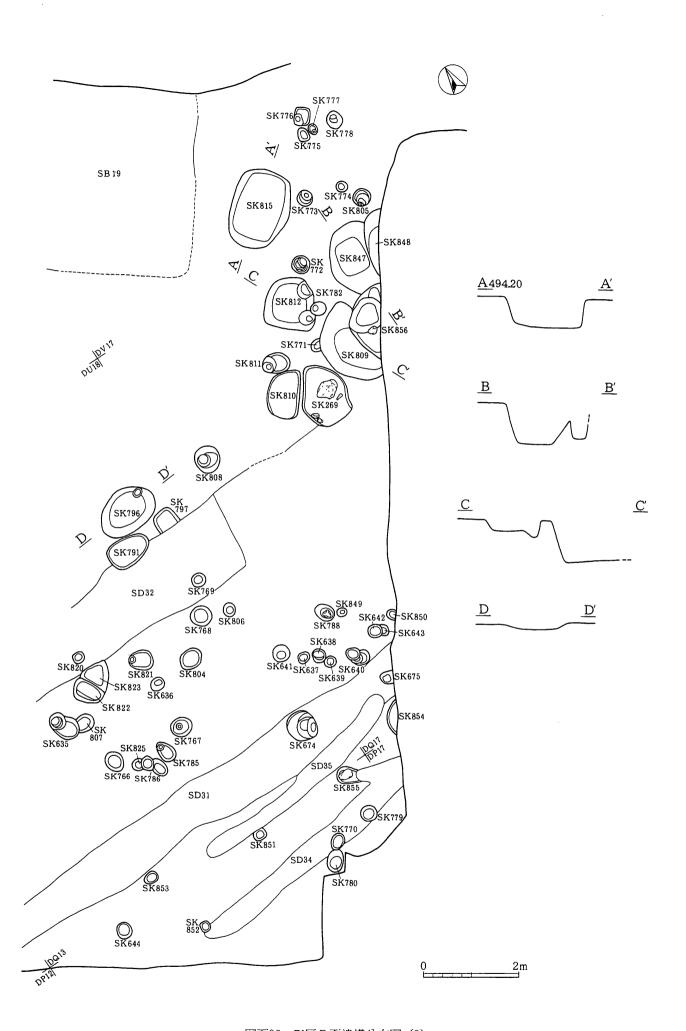
図面33 IV区A面遺構分布図(3)



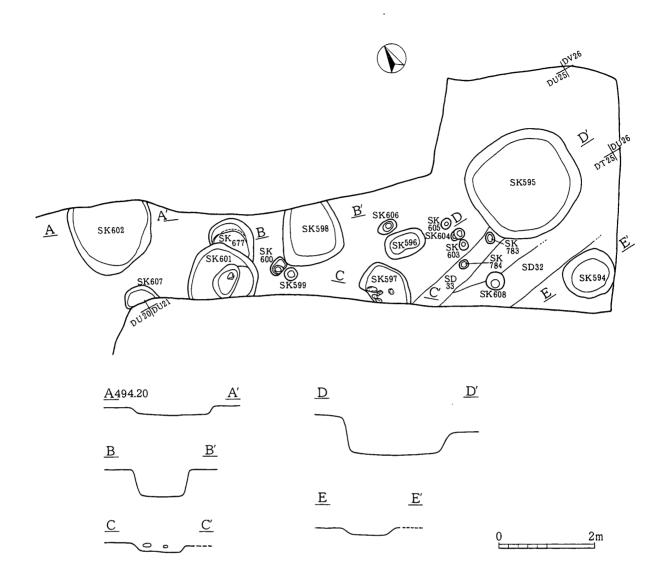
図面34 IV区B面遺構分布図(1)



図面35 IV区B面遺構分布図(2)

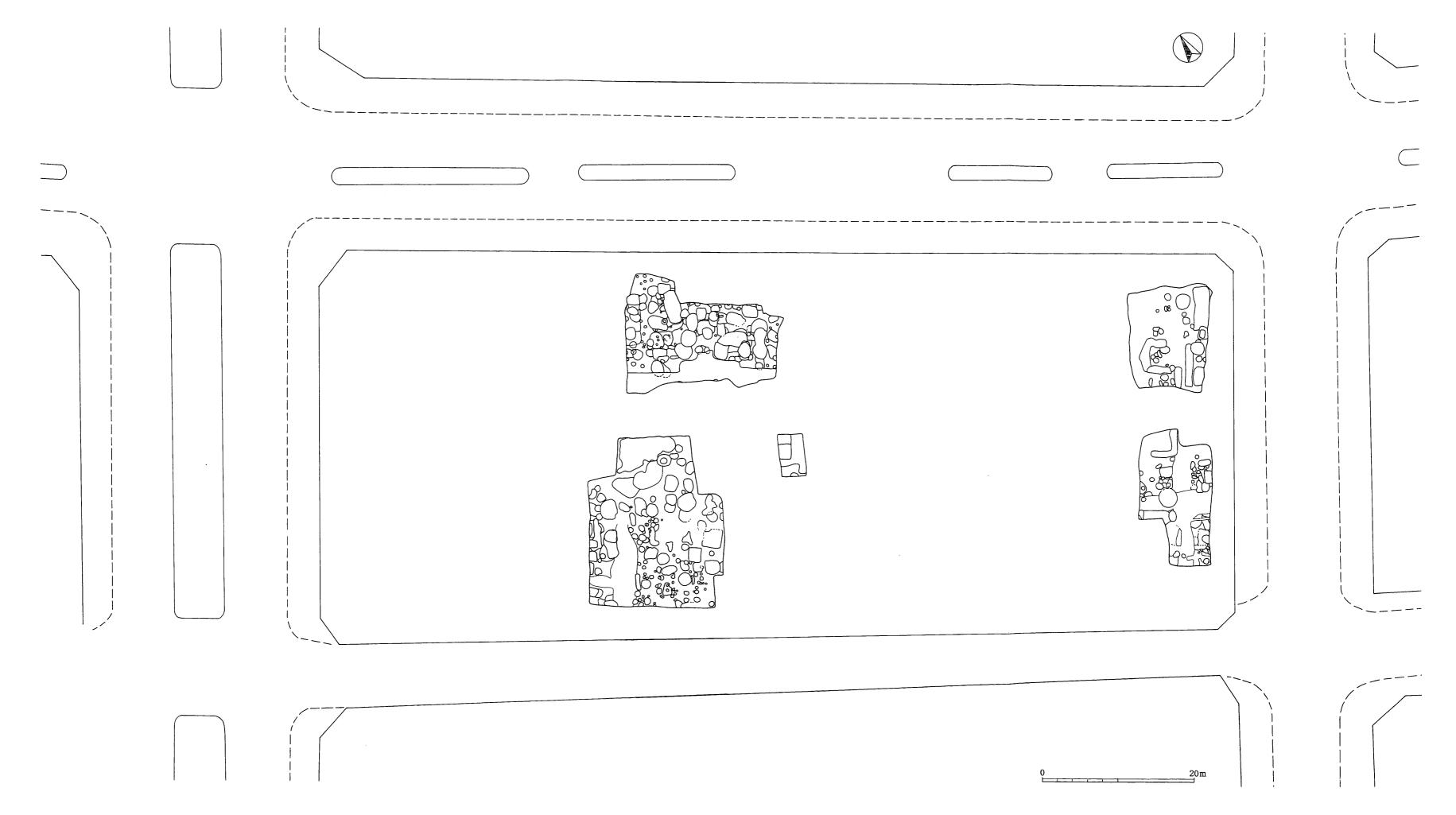


図面36 IV区B面遺構分布図(3)

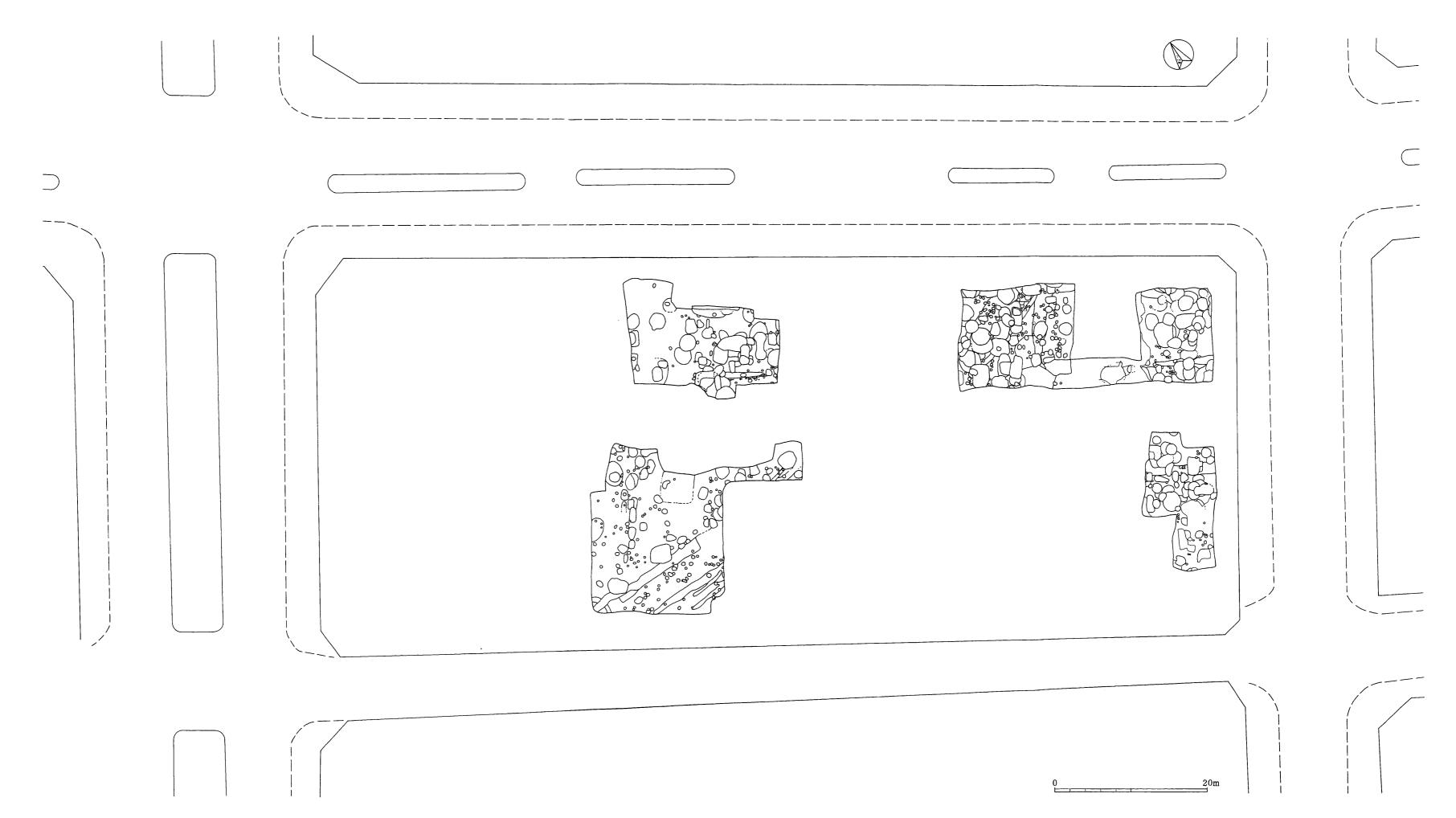


図面37 IV区B面遺構分布図(4)

	·	•	

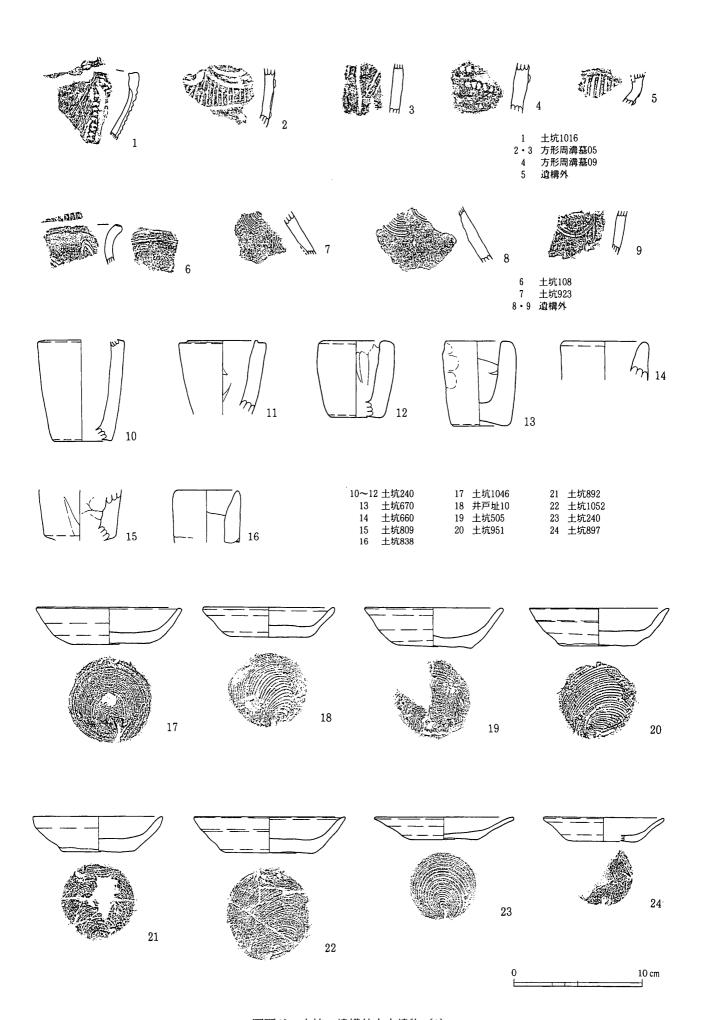


	,

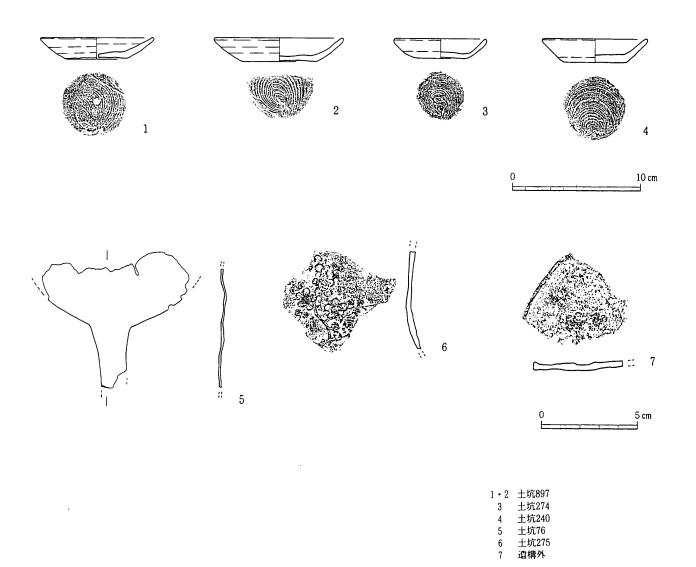


図面39 調査区内遺構配置図(B面)

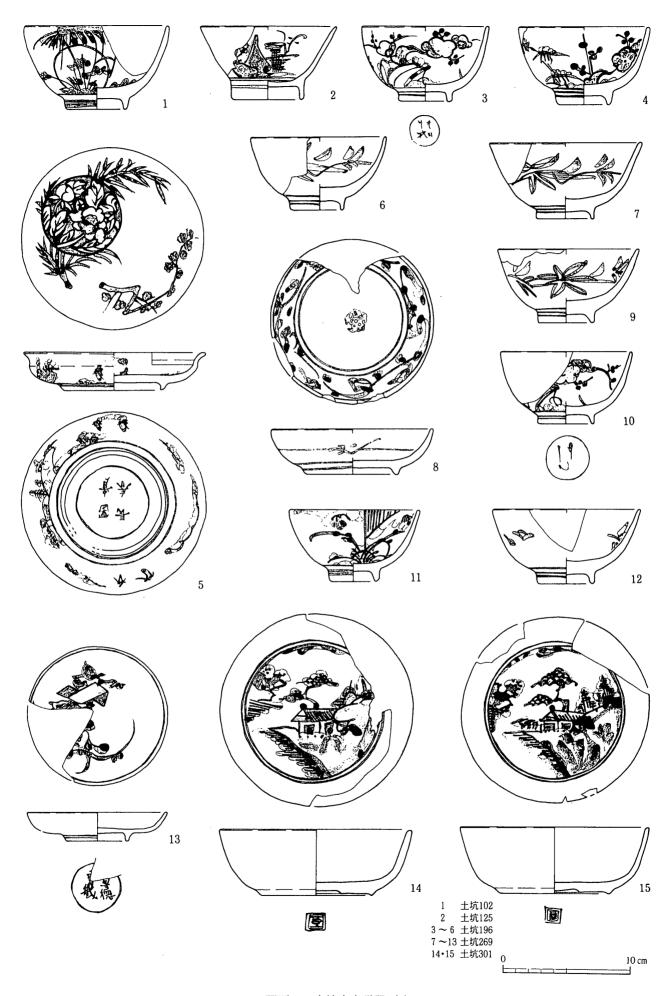
		·
		-
•		



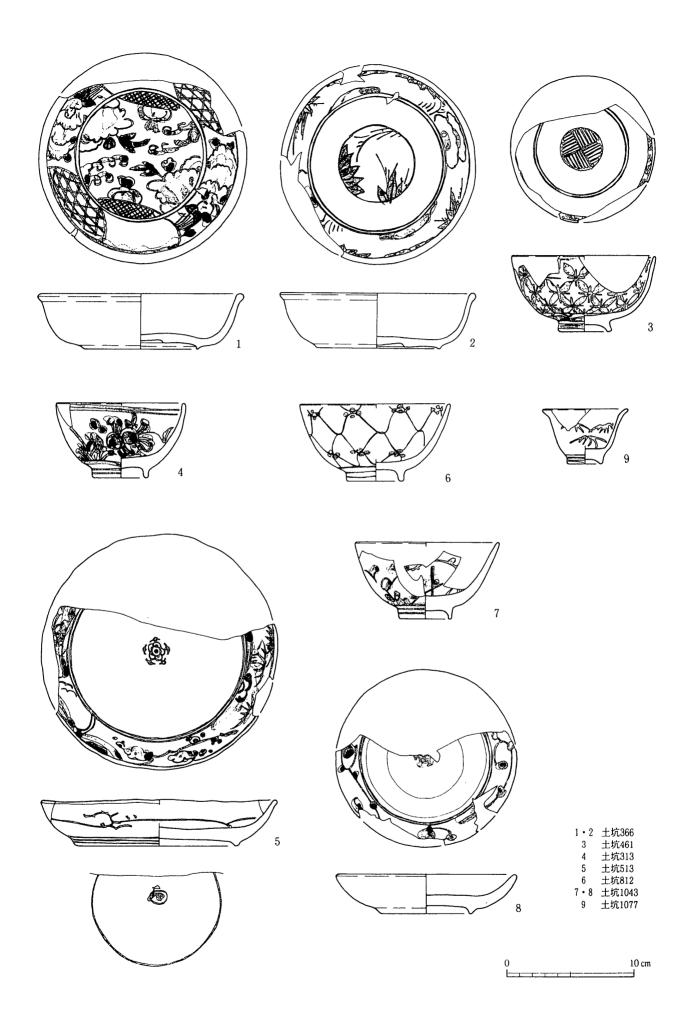
図面40 土坑・遺構外出土遺物(1)



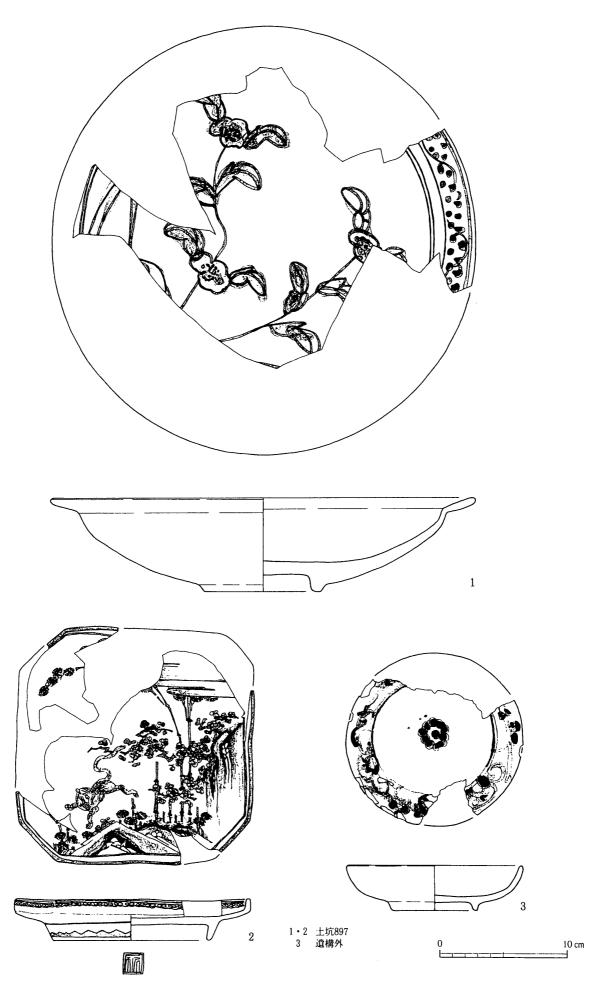
図面41 土坑・遺構外出土遺物(2)



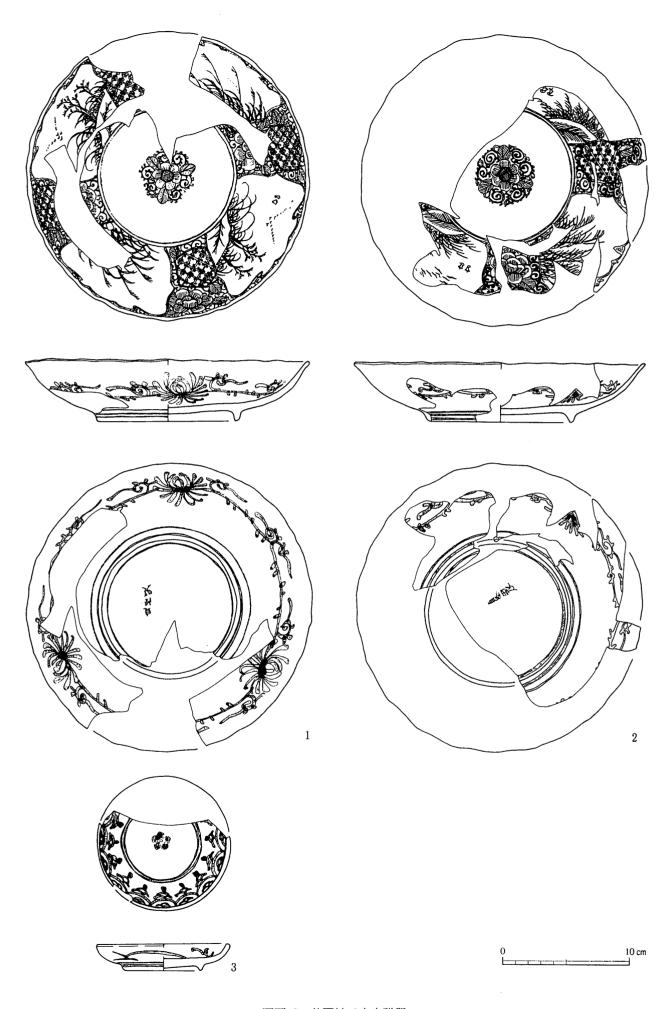
図面42 土坑出土磁器(1)



図面43 土坑出土磁器(2)



図面44 土坑遺構外出土磁器



図面45 井戸址10出土磁器

写真図版



I区A面 全景



I区B面 全景



Ⅱ区B面 東側



Ⅱ区B面 西側



Ⅲ区A面 全景



Ⅲ区B面 全景



IV区A面 全景



IV区B面 全景



道路址 (西から)



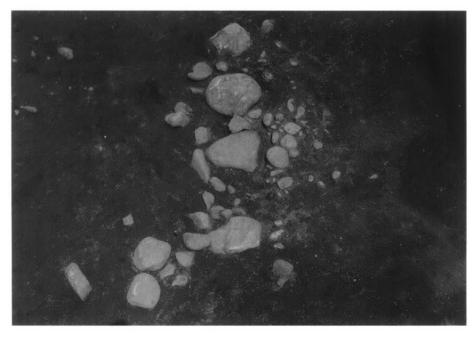
図版6 遺跡



石列01



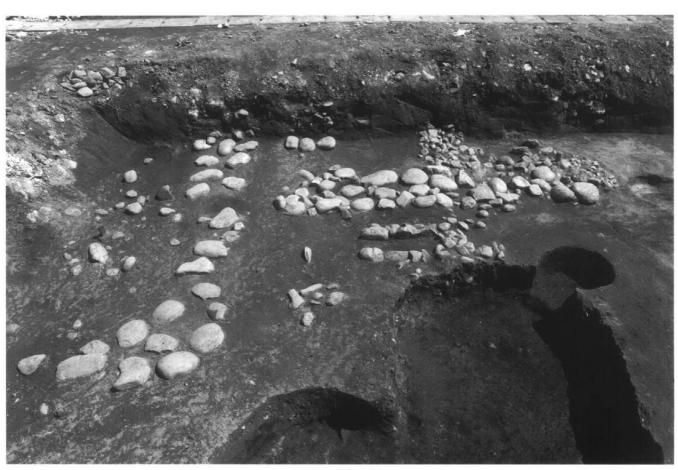
石列07



石列03



石列04 (西から)



石列04 (南から)

図版8 遺跡





石列11 石列12



石列11~15

図版9 遺跡





石列13





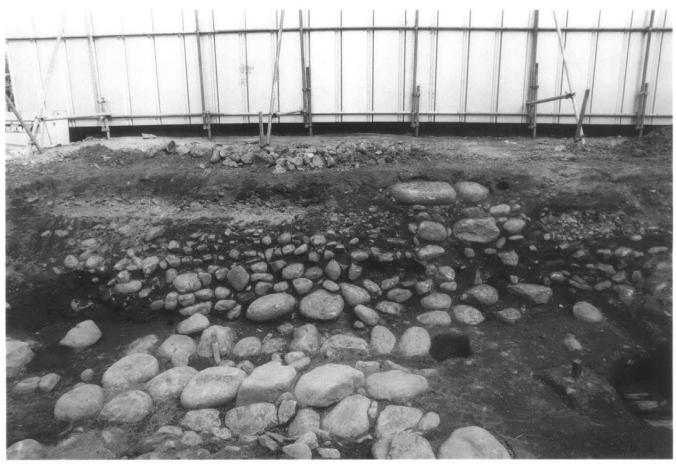


石列15

石列21~30



石列33~34



石列34断面



井戸址05

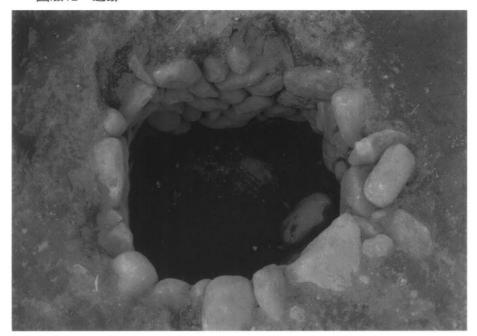


井戸址05側面



井戸址07

図版12 遺跡



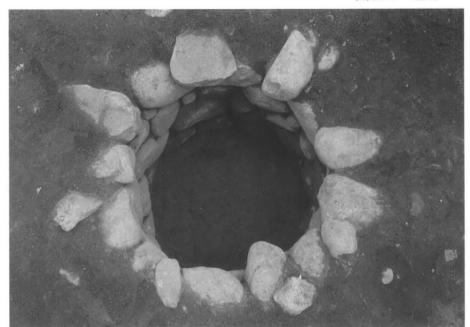
井戸址09



井戸址10



井戸址10側面



井戸址11



井戸址12

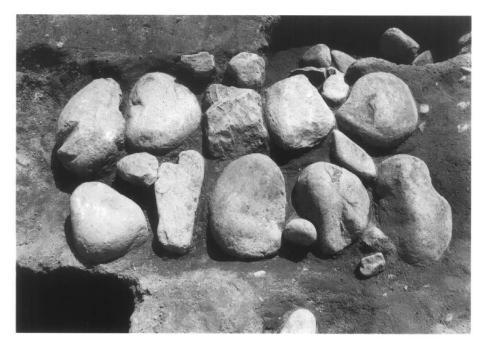


井戸址17·18

図版14 遺跡



土坑87



土坑100



土坑123



土坑131



土坑152



土坑 245

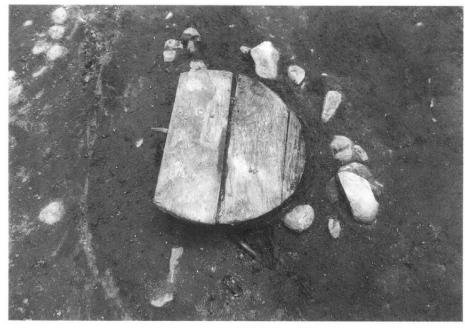
図版16 遺跡



土坑246



土坑265



土坑270

図版17 遺跡



土坑370上面



土坑370



土坑370断面

図版18 遺跡



土坑301



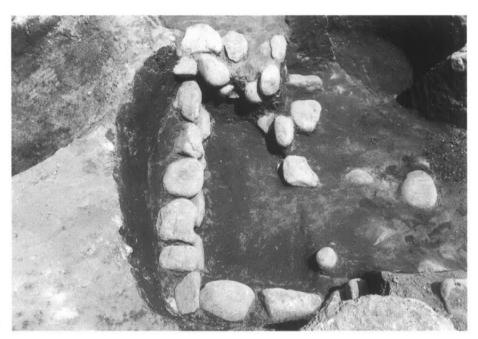
土坑470



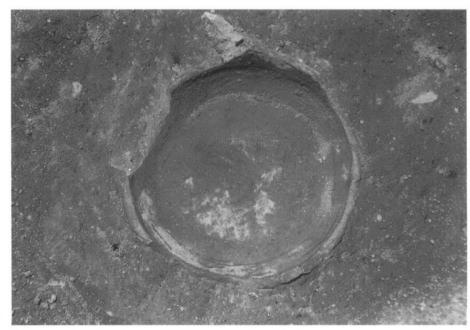
土坑671



土坑880

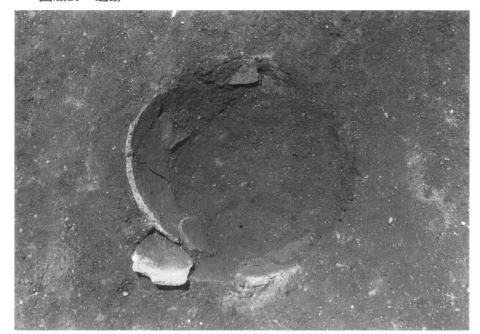


土坑883



土坑899

図版20 遺跡



土坑900



土坑932·934



土坑1053



土坑182



土坑500



土坑1057



土坑1099



土坑274櫛出土状況



石列09墨入れ線



石列11礎石

図版24 遺跡



ホゾ穴のある礎石



石列33記号入り礎石



石列33記号入り礎石



重機による表土剥ぎ



基準点設置作業



作業風景

図版26 遺跡



作業風景



現地見学会



現地見学会



土坑88



土坑124



図版28 遺物



土坑188



土坑196





土坑269



土坑270

図版30 遺物



土坑274



土坑293



土坑313



土坑353 (1)



土坑353 (2)



土坑354

図版32 遺物



土坑414



土坑467



土坑490



土坑465 (1)



土坑465 (2)





土坑537



土坑505



土坑725





土坑893



土坑914





土坑897



土坑1044



土坑1045



土坑1046



井戸址10





火もらい (土坑240・274)



土坑102



土坑117



土坑127



土坑132



土坑157



土坑184



土坑221



土坑301



土坑316



土坑326



土坑349



土坑358



土坑366







土坑513



土坑461



土坑543



土坑504



土坑566



土坑711



土坑815



土坑723



土坑885



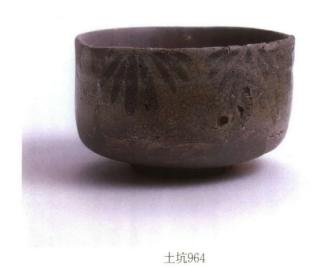
土坑815



土坑886















土坑1084



遺構外



土坑1095



遺構外



堅穴状遺構19



堅穴状遺構19



遺構外



遺構出土 中国製磁器



墨書のある陶器 (土坑240・274)



16世紀末~17世紀前半の瀬戸・美濃系陶器



櫛 (表、土坑274)



櫛(裏)





腰坂 (井戸址08)

十能 (土坑1044)







箱庭道具(遺構外)





水琴窟に使用された甕 (土坑370)

土師質皿





報告書抄録

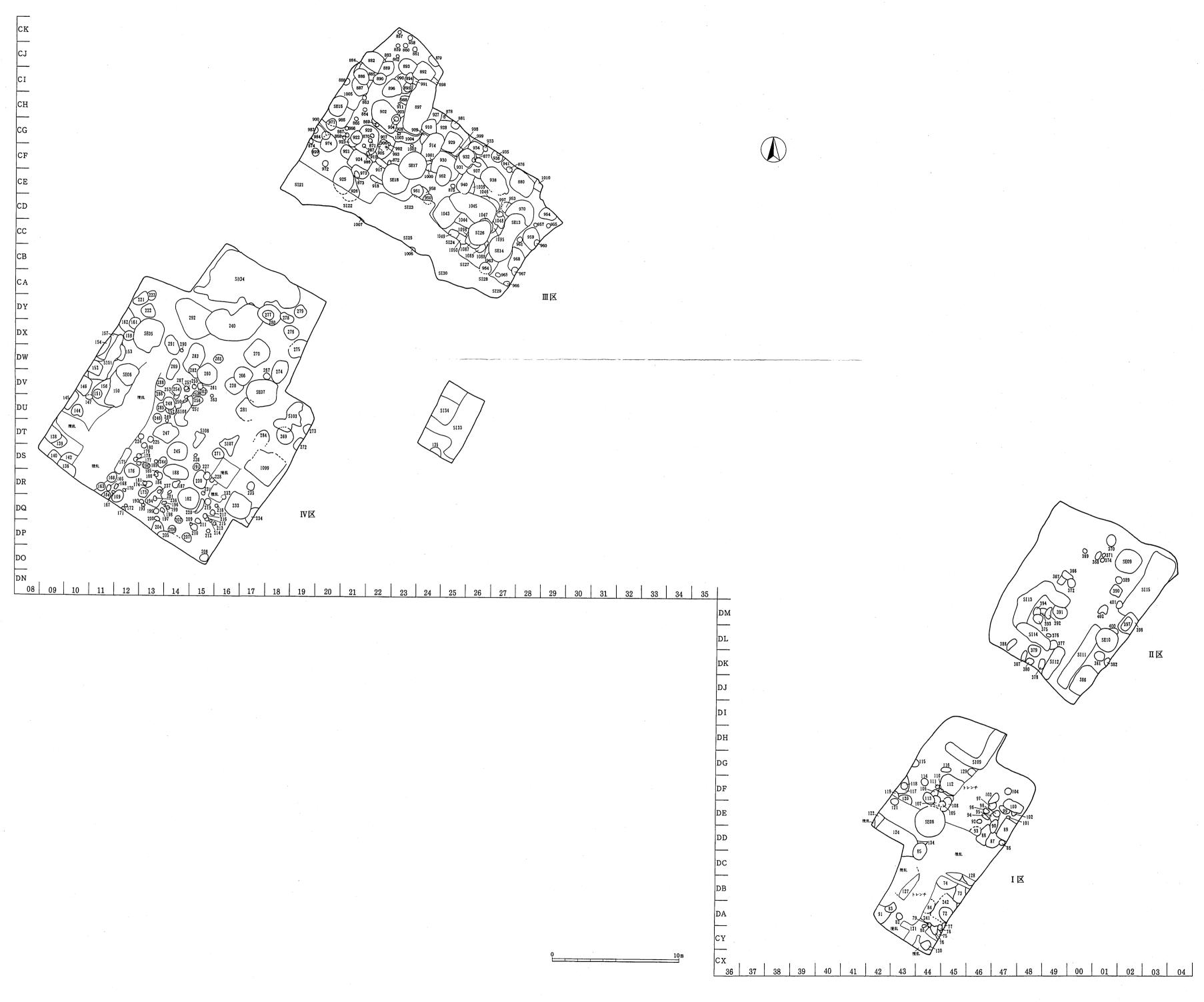
ふりがな	いいだじょうかまちいせき								
書名	飯田城下町遺跡								
副書名								·	
巻次									
シリーズ名									
編著者名	下平博行•馬場保之								
編集機関	長野県飯田市教育委員会								
所在地	〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534番地 0265-22-4511								
発行年月日	西暦2006年3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コート 市町村遺跡番	ド 号	北緯	東紅	及 題 題 題 問 題 題 題 題 題	訓	周査 面積	調査原因
いいだじょ	いいだし	2 0 2 0 5		35°	137	° 平成16年	1,	,900 m²	橋南第二再
うかまち	ほんまち		30′	49′	4月6日	月6日		開発	
飯田城下町	とおりまち		41"	44"	から				
遺跡	飯田市本町					平成16年			
	通り町					6月29日			
所収遺跡名	種別	主な時代	主	な遺構		主な遺物		特記事項	
飯田城下町	城下町	弥生後期	·期 方形		敼	弥生土器片		17世紀前半からの城	
遺跡			4基		基			下町の町屋を確認	
		中世以前	道	道路址1条		土師器			
		江戸時代	井	井戸址14基		陶磁器•鉄製品			
			土坑932基			銅製品			
				石列26基					
			(建	(建物基礎)					

飯田城下町遺跡

2006年4月 発行

編集·発行 長野県飯田市大久保町2534番地 長 野 県 飯 田 市 教 育 委 員 会

印刷飯田共同印刷㈱



付図1 遺構全体図(A面)

